

独立行政法人 国立病院機構

東京医療センター

National Hospital Organization Tokyo Medical Center

業 績 集

2024 年 4 月



2025 年 3 月

【 第 35 集 業 績 】  
2024 年 4 月 ▶ 2025 年 3 月

目 次

◆ 総合内科	2
◆ 腎臓・内分泌・代謝内科	5
◆ リウマチ膠原病内科	6
◆ 血液内科	8
◆ 消化器内科	9
◆ 循環器内科	12
◆ 呼吸器内科・アレルギー科	15
◆ 脳神経内科	16
◆ メンタルケア科	17
◆ 小児科	18
◆ 一般・消化器外科	19
◆ 乳腺外科	22
◆ 整形外科	26
◆ 形成外科	32
◆ 脳神経外科	34
◆ 呼吸器外科	36
◆ 心臓血管外科	37
◆ 皮膚科	38
◆ 泌尿器科	39
◆ 産婦人科	40
◆ 眼科	42
◆ 耳鼻咽喉科	51
◆ 放射線治療科	58
◆ 放射線診断科	60
◆ 歯科口腔外科	61
◆ 麻酔科	62
◆ 救急科（救命救急センター）	63
◆ リハビリテーション科	66
◆ 緩和ケア内科	67
◆ 臨床検査科（病理）	68
◆ 臨床腫瘍科	69
◆ 薬剤部	70
◆ 看護部	74
◆ 放射線科（技師）	77
◆ 臨床検査科（技師）	78
◆ 医療機器中央管理室	80
◆ 栄養管理室	82
◆ 院内感染対策室（ICT/AST）	83
◆ クリティカルケア支援室	85
◆ 臨床研究センター 分子細胞生物学研究部	86

# 総合内科

---

## 【論文】

1. Kobayashi M, Une S, Hara H, Honda M. The impact of training in multimodal communication skills on psychotropic medication use in dementia care. *Cureus*. 2024;16:e63413.
2. Tsuyama N, Okawa N, Muranaka E, Mito H, Oshimoto Y, Endo Y, Hase R. Two cases with extensively drug-resistant *Salmonella Typhi* infection returning from Pakistan. *J Infect Chemother*. 2025;31:102568.
3. Shiraishi Y, Niimi N, Kohsaka S, et al. Hospital variability in the use of vasoactive agents in patients hospitalized for acute decompensated heart failure for clinical phenotypes. *Circ Cardiovasc Qual Outcomes*. 2025;18:e011270.

## 【著書】

1. 吉田心慈. 倦怠感の鑑別診断手順ガイド. 日本医事新報 No. 5215: 日本医事新報社, 2024:18-38.
2. 本田美和子. 緩和医療学 第IV章 特定集団への緩和ケア. 11. HIV 感染症 改訂第3版: 南江堂, 2024.
3. 吉田心慈. 高齢者の近位筋痛+炎症反応亢進〔もう騙されない！外来に現れるミミック疾患（28）〕 日本医事新報 No. 5226: 日本医事新報社, 2024:18-19.
4. 吉田心慈. 突然発症の側腹部痛〔もう騙されない！外来に現れるミミック疾患（30）〕 日本医事新報 No. 5235: 日本医事新報社, 2024:10-11.
5. 吉田心慈. 急性の足部の発赤・腫脹・疼痛〔もう騙されない！外来に現れるミミック疾患（32）〕 日本医事新報 No. 5252: 日本医事新報社, 2024:12-13.

## 【学会・研究会発表】

1. 本田美和子. 日本の認知症ケア. 第八回台日ケア産業サミット, 台湾, 2024.5.18.
2. 宗大輔, 林智史, 鄭東孝. 高HDL血症を呈したコレステロールエステル転送蛋白欠損症の1例. 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2024.6.7-9.
3. 仲田太郎, 宮坂直人, 林智史, 鄭東孝. 脳の多発結節が経時的に消失しMTX-LPDと判断した1例. 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 浜松, 2024.6.7-9.
4. 林智史. 当院と複数の地域包括支援センターとの連携強化の報告. 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 浜松, 2024.6.8.
5. 本田美和子. 教育講演 ユマニチュードを人工知能で学ぶ：ケアコミュニケーションのシミュレーション教育への人工知能の導入. 第25回認知症ケア学会, 東京, 2024.6.16.
6. 本田美和子. 教育講演 優しさを伝えるマルチモーダルケア技術. 米国内科学会日本支部2024年度年次総会, 東京, 2024.6.23.
7. 本田美和子. 人工知能によるシミュレーショントレーニングで学ぶ優しさを伝えるケア技術. 第6回日本在宅医療連合学会大会, 千葉, 2024.7.20.

8. 林智史, 本田美和子. 優しさを伝えるケア技術 ユマニチュード. 日本プライマリ・ケア連合学会夏季セミナー, 大阪, 2024. 8. 3.
9. 本田美和子. シンポジウム 人間らしさを取り戻すケア: ユマニチュードの哲学とその実践. 第 28 回看護管理学会学術集会, 名古屋, 2024. 8. 24.
10. 林智史. POSTURAL ORTHOSTATIC TACHYCARDIA SYNDROME を発症した 20 代女性の 1 例. 第 29 回日本病院総合診療医学会学術総会, 東京, 2024. 9. 7.
11. 本田美和子. 基調講演 自治体が取り組む優しさを伝えるケア技術. 日本ユマニチュード学会福岡総会, 福岡, 2024. 9. 28.
12. 本田美和子. 教育講演 優しさを伝えるケア技術. 日本在宅医療連合学会大会 第 6 回地域フォーラム四国, 高松, 2024. 10. 13.
13. 高木菜々美, 新美望, 片山充哉. Williamsia muralis による化膿性脊椎炎の 1 例. 第 701 回日本内科学会関東地方会, 東京, 2024. 12. 14.
14. 新美望. 予測モデルをどう評価するか? Discrimination, Calibration, and more. 第 274 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2024. 12. 14.
15. 本田美和子. Dementia friendly environment. The 20<sup>th</sup> Active Aging Conference in Asia Pacific, 福岡, 2025. 3. 18.

### 【講 演】

1. 本田美和子. 人間らしさを大切にするケア技法「ユマニチュード」 済生会福岡総合病院, 2024. 6. 24.
2. 伊藤国秋, 林哲郎, 林智史. 誰がなってもおかしくない認知症シリーズ: 糖尿病について. 目黒区民向け講座, 目黒, 2024. 6. 27.
3. 本田美和子. 優しさを伝えるケア技術: ユマニチュード. 共生社会の実現に向けた認知症施策推進議員連盟総会, 2024. 12. 14.
4. 本田美和子. 優しさを伝えるケア技術: ユマニチュード. 第 24 回静岡県保険医協会東部支部定期総会記念講演会, 三島, 2024. 7. 7.
5. 本田美和子. 優しさを伝えるケア技術: ユマニチュード. 五島市講演会, 2024. 9. 9.
6. 本田美和子. 優しさを伝えるケア技術: ユマニチュード. 長崎医療センター講演会, 2024. 9. 10.
7. 本田美和子. あなたに届けるコミュニケーション ユマニチュードに学ぶ”伝える”とは. おれんじネットうわじま研修会講演, 2024. 9. 16.
8. 林智史. 特別講演 ユマニチュードについて. 日本医療マネジメント学会, 2024. 10. 5.
9. 林智史. 人生会議について. 令和 6 年度宅医療ミニ講座, 野毛, 2024. 10. 23
10. 本田美和子. 法律家が実践する優しさを伝えるケア技術. 九州弁護士会講演, 2024. 10. 26.
11. 林智史. ユマニチュードについて. 沖縄市民公開講座, 2024. 11. 2.
12. 林智史. ユマニチュードについて. 愛知国際病院 (Web) 2024. 11. 12.
13. 林智史. 誰がなってもおかしくない認知症シリーズ 高血圧について. 目黒区民向け講座, 目黒, 2024. 11. 26.

14. 本田美和子. 認知症があっても島で幸せに生きる. やいま SDGs シンポジウム  
2024. 11. 30.
15. 本田美和子. 学会受託 葛西昌医会病院講演, 2024. 12. 4.
16. 仲田太郎, 林智史. 誰がなってもおかしくない認知症シリーズ: 脂質異常症について.  
目黒区民向け講座, 目黒, 2025. 3. 4.

### 【その他】

1. 林智史, 本田美和子. ユマニチュードについて. 第36回学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナーのセッション, 2024. 8. 3
2. 本田美和子. ようこそ認知症世界へ, NHK E テレ, 2024. 12. 25
3. 本田美和子. 「ユマニチュード」導入進める. 長野日報 第40664号, 長野日報別冊シニア日報 5月号 1面
4. 本田美和子. ユマニチュードを学ぶ. クロワッサン, マガジンハウス, 2025. 2. 10.  
No. 1134
5. 本田美和子. オンライン連載『雨宿りの木』生活者のための医療と介護のはなし, みんなのミシマガジン, ミシマ社ウェブ雑誌

# 腎臓・内分泌・代謝内科

---

## 【学会・研究会発表】

1. 小林佐紀子. 教育講演 潜在性甲状腺機能異常は治療すべきか? 第 97 回日本内分泌学会学術総会, 横浜, 2024. 6. 8-10.
2. 藤村慶子, 織部峻太郎, 小林洋太, 門松賢, 松浦友一. チェックポイント阻害薬による irAE 腎障害に感染の合併が疑われた一例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術学会, 宇都宮, 2024. 9. 28.
3. 小林佐紀子. 女性甲状腺ワークショップ. バセドウ病をもった女性に対するプレコンセプションケアの情報提供の充実のための研究について. 第 67 回日本甲状腺学会学術集会, 横浜, 2024. 10. 4.
4. 小林佐紀子. 甲状腺専門医を対象としたプレコンセプションケアに関するアンケートの結果報告. 第 67 回日本甲状腺学会学術集会, 横浜, 2024. 10. 5.
5. 小林佐紀子. 妊娠と内分泌疾患. 第 34 回臨床内分泌代謝 Update, 名古屋, 2024. 11. 29.

## 【講 演】

1. 小林佐紀子. ランチョンセミナー 妊娠と内分泌疾患. 第 97 回日本内分泌学会学術総会, 横浜, 2024. 6. 8.
2. 松浦友一. HIF-PH 阻害薬 Up to Date. 第 3 回世田谷・目黒地域連携講演会, 東京, 2024. 6. 18.
3. 松浦友一. 慢性腎臓病 (CKD) における貧血対策. 病院在宅地域連携講演会 2024, 東京, 2024. 7. 19.
4. 松浦友一. 1 時間で完全に理解する慢性腎臓病 (CKD) の診療. 目黒区医師会内科部会学術講演会, 東京, 2024. 7. 22.
5. 松浦友一. 40 分で完全に理解する、慢性腎臓病の臨床と SGLT2 阻害薬. Expert Seminar in JONAN, 東京, 2024. 7. 23.
6. 松浦友一. 現段階での腎臓内科医からみた SGLT2 阻害薬の評価. CRM Seminar, 東京, 2024. 10. 29.
7. 松浦友一. 絶対使える!! フオゼベルの使用経験. CKD-MBD 診療の変化を捉える, 東京, 2024. 12. 12.
8. 松浦友一. 二次性高血圧を見つけ出そう. 世界腎臓デーに降圧治療を考える, 東京, 2025. 3. 12.

## 【その他】

1. 門松賢. 急性血液浄化療法/症例 (中毒) (座長) 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2024. 6. 7.
2. 松浦友一. 薬剤/アレルギー・副作用 抗凝固剤 (座長) 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2024. 6. 8.
3. 小林佐紀子. 妊娠 (座長) 第 34 回臨床内分泌代謝 Update, 名古屋, 2024. 11. 29.

# リウマチ膠原病内科

---

## 【論 文】

1. Takeshita M, Suzuki K, Nakazawa M, Kamata H, Ishii M, Oyamada Y, Oshima H, Usuda S, Tsunoda K, Takeuchi T. Disease-specific autoantibody production in the lungs and salivary glands of anti-synthetase syndrome. *Front Immunol.* 2024; 15:1265792.
2. Hoshida Y, Tsujii A, Ohshima S, Saeki Y, Yagita M, Miyamura T, Katayama M, Kawasaki T, Hiramatsu Y, Oshima H, Murayama T, Higa S, Kuraoka K, Hirano F, Ichikawa K, Kurosawa M, Suzuki H, Chiba N, Sugiyama T, Minami Y, Niino H, Ihata A, Saito I, Mitsuo A, Maejima T, Kawashima A, Tsutani H, Takahi K, Kasai T, Shinno Y, Tachiyama Y, Teramoto N, Taguchi K, Naito S, Yoshizawa S, Ito M, Suenaga Y, Mori S, Nagakura S, Yoshikawa N, Nomoto M, Ueda A, Nagaoka S, Tsuura Y, Setoguchi K, Sugii S, Abe A, Sugaya T, Sugahara H, Fujita S, Kunugiza Y, Iizuka N, Yoshihara R, Yabe H, Fujisaki T, Morii E, Takeshita M, Sato M, Saito K, Matsui K, Tomita Y, Furukawa H, Tohma S. Effect of recent antirheumatic drug on features of rheumatoid arthritis-associated lymphoproliferative disorders. *Arthritis Rheumatol.* 2024;76:869-81.
3. Suzuki K, Akiyama M, Kondo Y, Suzuki K, Kaneko Y. Successful treatment of Rosai-Dorfman disease with cutaneous involvement and arthritis with methotrexate and infliximab. *Intern Med.* 2024;63:2991-4.
4. Sakiinah M, Awalia, Sandhika W, Kandinata, Stefanus G, Suzuki K. Management of alopecia and onychomycosis in a lupus patient. *Biomolecular and Health Science Journal* 2024;7:157-62.

## 【著 書】

1. 鈴木勝也, 竹内勤. 第一部 検査項目の選択と臨床検査の総合評価 リウマチ膠原病臨床検査ガイド 2025年改訂版: 東京, 文光堂, 2024. 12.
2. 鈴木勝也. IV 疾患別の最新治療指針 A. 全身性自己免疫疾患 06 シェーグレン症候群. 膠原病診療実戦バイブル: 東京, 南江堂, 2025:187-90.

## 【学会・研究会発表】

1. Hama S, Izumi K, Tabata H, Higashida-Konishi M, Oshige T, Oshima H, Okano Y, Suzuki K. Characteristics of the clinical phenotype of giant cell arteritis in clinical practice. 第68回日本リウマチ学会学術集会, 神戸, 2024. 4. 20.
2. 野上創生, 羽磨智史, 田畠広樹, 小西美沙子, 大重達寛, 泉啓介, 岡野裕, 大島久二, 鈴木勝也. 若年女性の筋痛・皮下結節に対し組織生検で診断した結節性多発動脈炎の一例. 第68回日本リウマチ学会学術集会, 神戸, 2024. 4. 20.

3. 中村有彩, 小西美沙子, 羽磨智史, 田畠広樹, 大重達寛, 泉啓介, 岡野裕, 大島久二, 鈴木勝也. 両側基底核の石灰化を認めた全身性エリテマトーデスの一例. 第 68 回日本リウマチ学会学術集会, 神戸, 2024. 4. 20.
4. 糟谷恵理子, 羽磨智史, 田畠広樹, 小西美沙子, 大重達寛, 泉啓介, 大島久二, 岡野裕, 鈴木勝也. シェーグレン症候群の診断後に抗 ds-DNA 抗体陽性化, 子宮組織の血管炎所見から全身性エリテマトーデス (SLE) と診断した一例. 第 695 回日本内科学会関東地方会, 東京, 2024. 5. 11.
5. 大重達寛, 田畠広樹, 小西美沙子, 大重達寛, 泉啓介, 大島久二, 岡野裕, 鈴木勝也. 視野障害と側頭部痛を呈し、巨細胞性動脈炎と鑑別を要した特発性外眼筋炎の一例. 第 64 回関東リウマチ研究会, 東京, 2024. 7. 6.
6. 小西美沙子, 田畠広樹, 羽磨智史, 大重達寛, 泉啓介, 白石淳一, 岡野裕, 大島久二, 鈴木勝也. 水腎症を呈する後腹膜線維症があり IgG4 関連疾患を疑われて当科を紹介受診し、生検の結果、アミロイドーシスと診断した一例. 第 34 回日本リウマチ学会関東支部学術集会, 東京, 2024. 12.
7. 鈴木勝也, 田畠広樹, 羽磨智史, 小西美沙子, 大重達寛, 泉啓介, 岡野裕, 大島久二. 当科における関節リウマチに対するフィルゴチニブの有効性と安全性の検討. 第 34 回日本リウマチ学会関東支部学術集会, 東京, 2024. 12.

### 【講 演】

1. 鈴木勝也. 関節リウマチ診療と病診連携. 世田谷区医師会内科医会 血液・免疫・膠原病研究会, 東京, 2024. 6. 25.
2. 鈴木勝也. RA における IL-6 の基礎と臨床. Relearning Actemra seminar, 栃木, 2024. 7. 4.
3. 鈴木勝也. 教育講演 IL-6 阻害療法の現状と展望. 第 45 回日本炎症・再生医学会, 福岡, 2024. 7. 17
4. 鈴木勝也. 当センターにおける関節リウマチ診療について～フィルゴチニブへの期待を含めて. 第 2 回関節リウマチセミナー in 目黒世田谷, 東京, 2024. 9. 10.
5. 小西美沙子. 当院でのリウマチ膠原病内科の取り組み. 世田谷・玉川地域におけるリウマチ膠原病の会, 東京, 2024. 11. 26.
6. 鈴木勝也. 関節リウマチに対する治療戦略、患者さんの声を聞こう. サノフィー社内講演, 2024. 11. 26.

### 【その他】

1. Suzuki K. International Concurrent Workshop 23 Jak inhibitors for RA 2 (座長) 第 68 回日本リウマチ学会学術集会, 神戸, 2024. 4. 19.

# 血液内科

---

## 【論 文】

1. Shibayama H, Itagaki M, Handa H, Yokoyama A, Saito A, Kosugi S, Ota S, Yoshimitsu M, Tanaka Y, Kurahashi S, Fuchida S, Iino M, Shimizu T, Moriuchi Y, Toyama K, Mitani K, Tsukune Y, Kada A, Tamura H, Abe M, Iwasaki H, Kuroda J, Takamatsu H, Sunami K, Kizaki M, Ishida T, Saito T, Matsumura I, Akashi K, Iida S. Primary analysis of a prospective cohort study of Japanese patients with plasma cell neoplasms in the novel drug era (2016–2021). *Int J Hematol.* 2024; 119:707–21.
2. Nishiyama R, Kagoo T, Ueno H, Yokoyama A. Modified BLD induction followed by DLD consolidation/maintenance in transplant-ineligible multiple myeloma: a prospective analysis. *Int J Myeloma.* 2024;14:68–73.
3. Kawase S, Sakurai M, Masuda K, Kubota Y, Shindo T, Inokuchi A, Hayashi H, Nakayasu M, Shiozawa Y, Hirai T, Inoue T, Fujii T, Kim H, Koda Y, Kato J, Kataoka K. Salivary gland swelling as a characteristic manifestation of local cytokine release syndrome after anti-CD19 chimeric antigen receptor T cell therapy: A case series. *Clin Exp Hematop.* 2024;64:261–7.

## 【学会・研究会発表】

1. 高梨航輔, 籠尾壽哉, 平井智大, 川瀬咲, 上野博則, 清水隆之. 腫瘍の圧迫により門脈圧亢進症をきたし, 胃食道静脈瘤を合併したびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫. 第22回日本血液学会関東甲信越地方会, 東京, 2025.3.22.

## 【講 演】

1. 清水隆之. 当院の血液内科の診療体制について. 世田谷区医師会内科医会血液・免疫・膠原病研究会, 東京, 2024.6.25.
2. 清水隆之. 東京医療センター血液内科の診療体制について. 目黒区医師会内科部会学術講演会, 東京, 2025.2.12.
3. 清水隆之. 血液疾患の最新治療～造血器腫瘍に対する分子標的療法を中心に. 第154回東京医療センター地域医療カンファレンス, 東京, 2025.2.26

# 消化器内科

---

## 【論 文】

1. Kayashima A, Sujino T, Fukuhara S, Miyamoto K, Kubosawa Y, Ichikawa M, Kawasaki S, Takabayashi K, Iwasaki E, Kato M, Honda A, Kanai T, Nakamoto N. Unique bile acid profiles in the bile ducts of patients with primary sclerosing cholangitis. *Hepatol Commun.* 2024;8:e0452.
2. Yahagi N, Takatori Y, Sasaki M, Imura Y, Murata S, Sato T, Minezaki D, Hayakawa T, Nakajima Y, Okada H, Sakurai H, Tojo A, Iwata K, Miyazaki K, Kayashima A, Masunaga T, Mizutani M, Akimoto T, Seino T, Kawasaki S, Horibe M, Fukuhara S, Matsuura N, Sujino T, Nakayama A, Takabayashi K, Iwasaki E, Kato M. Feasibility of endoscopic submucosal dissection including papilla (with video). *Dig Endosc.* 2025;37:402-10.
3. Kayashima A, Tojo M, Fukuhara S. Intussusception due to infectious enteritis in an adult treated with endoscopic reduction. *Am J Gastroenterol.* 2024 Nov 26.
4. Matsunaga T, Fukuhara S, Sasaki M, Kato M. Successful resection of a sessile serrated lesion completely involving a colonic diverticulum by endoscopic submucosal dissection with water pressure method. *Endoscopy.* 2024;56:E10-2.
5. Kayashima A, Horibe M, Bazerbachi F, Iwasaki E. The role of stone size in risk stratification for intervention in asymptomatic choledocholithiasis. *Dig Dis Sci.* 2024;69:3085-6.

## 【著 書】

1. 福原誠一郎. 知っておきたいことアラカルト 漢方薬による腸間膜靜脈硬化症. *Medical Practice* 2024;41:1280-1.

## 【学会発表】

1. Aoki Y, Mikami Y, Kanai Y. Evaluation of serum leucine-rich  $\alpha$  2-glycoprotein levels in racial differences. JDDW (Panel Discussion), 2024.11.1.
2. Aoki Y, Mikami Y, Kanai T. Evaluation of serum leucine-rich  $\alpha$  2-glycoprotein levels in racial differences. APDW 2024, Indonesia, 2024.12.23.
3. Kayashima A, Iwasaki E, Sujino T, Miyamoto K, Fukuhara S, Kawasaki S, Kanai T. Alterations in bile microbiome associated with endoscopic biliary stenting. APDW 2024, Indonesia, 2024.12.23.
4. 荒金直美, 福原誠一郎, 伊藤瑛基, 穴井映光, 野田薫, 東條誠也, 松永崇宏, 玉川空樹, 吉田康祐, 渡邊多代. 乳癌術後7年でEUS-FNAにて診断された乳癌膵転移の一例. 第107回消化器内視鏡学会総会, 東京, 2024.5.30.

5. 鈴木徹志郎, 茅島敦人, 玉川空樹, 福原誠一郎. 高度の食道裂孔ヘルニアに対しスライディングチューブを用いた後方斜視鏡の挿入. 第 60 回日本胆道学会学術集会, 愛知, 2024. 10. 10.
6. 先崎光, 青木康浩, 吉村梨沙, 鈴木徹志郎, 黒崎颯, 岡村真伊, 深沢夏海, 荒金直美, 東條誠也, 茅島敦人, 脇坂悠介, 松永崇宏, 渡邊多代, 福原誠一郎. 急速な進行を認め小腸内視鏡により診断に至った小腸原発びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の一例. 日本消化器病学会関東支部第 381 回例会 (Web) 2024. 9. 7.
7. 茅島敦人, 筋野智久, 宮本健太郎, 福原誠一郎, 市川将隆, 窪澤陽子, 加藤元彦, 岩崎栄典, 本多彰, 中本伸宏, 金井隆典. 原発性硬化性胆管炎における特徴的な胆汁酸プロファイル. 第 61 回日本消化器免疫学会総会, 長崎, 2024. 12. 6.
8. 鈴木徹志郎, 茅島敦人, 白石淳一, 岡村真伊, 黒崎颯, 先崎光, 吉村梨沙, 青山夏海, 荒金直美, 東條誠也, 青木康浩, 脇坂悠介, 松永崇宏, 玉川空樹, 渡邊多代, 福原誠一郎. 長期経過で門脈圧亢進症をきたし食道静脈瘤破裂まで至った肝サルコイドーシスの一例. 日本消化器病学会関東支部第 380 回例会 (Web) 2024. 12. 14.
9. 吉村梨沙, 松永崇宏, 岡村真伊, 黒崎颯, 先崎光, 鈴木徹志郎, 青山夏海, 荒金直美, 東條誠也, 青木康浩, 茅島敦人, 脇坂悠介, 渡邊多代, 福原誠一郎. 経鼻胃管の長期留置中に胸部上部食道から噴出性出血を認めた一例. 第 382 回日本消化器病学会関東支部例会 (Web) 2024. 12. 14.
10. 青山夏海, 福原誠一郎, 吉村梨沙, 先崎光, 岡村真伊, 鈴木徹志郎, 黒崎颯, 荒金直美, 東條誠也, 青木康浩, 茅島敦人, 脇坂悠介, 松永崇宏, 渡邊多代. 脾尾部癌腹膜播種による腸閉塞に対しステント留置を行った一例. 第 119 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2024. 12. 14.
11. 岡村真伊, 福原誠一郎, 荒金直美, 東條誠也, 青木康浩, 茅島敦人, 脇坂悠介, 松永崇宏, 渡邊多代, 白石淳一. ポリスチレンスルホン酸ナトリウム服用中に発症した大腸炎の一例. 第 702 回日本内科学会関東地方会, 東京, 2025. 2. 8.
12. 茅島敦人, 堀部昌靖, 岩崎栄典. DPC データを用いた重症急性膵炎における生理食塩水とリングル液による死亡率の比較. 第 61 回日本腹部救急医学会総会, 愛知, 2025. 3. 20.

### 【研究会講演】

1. 福原誠一郎. 消化管出血に対する薬剤と内視鏡の役割. 城南循環器・消化器カンファレンス, 2024. 4. 26.
2. 福原誠一郎. 内視鏡関連 Topics. Biliary Tract Cancer Expert Conference, 2024. 6. 24.
3. 脇坂悠介. 基幹病院としての潰瘍性大腸炎に対する診療と治療. 第 17 回東が丘消化器ネットワーク, 2024. 9. 9.
4. 鈴木徹志郎. 長期経過で門脈圧亢進症をきたし、食道静脈瘤破裂まで至った肝サルコイドーシスの一例. 第 17 回東が丘消化器ネットワーク, 2024. 9. 9.
5. 脇坂悠介. 薬剤の特長を理解して潰瘍性大腸炎の治療の最適化を目指す. 目黒区薬剤師会学術講演会, 2024. 9. 13.

6. 福原誠一郎. 当院での肝疾患に対する診療. 肝疾患 WEB フォーラム, 2024. 11. 7.
7. 吉村梨沙. 当院での専攻医生活について. 第 15 回 SKY 研究会, 2024. 12. 7.
8. 福原誠一郎. 糖尿病で察知する膵疾患と内視鏡診療の役割-血糖管理の重要性. SGLT2 阻害薬のこれからを考える会, 2025. 1. 22.
9. 花岡孝行. 抜去困難な胆管ステント交換を行わざるを得なかつた一例. 第 17 回東が丘 消化器ネットワーク, 2025. 3. 17.
10. 青木康浩. 潰瘍性大腸炎の基本治療-5ASA 製剤の使い方. UC 治療セミナー, 2025. 3. 27.
11. 脇坂悠介. 潰瘍性大腸炎の診断と病勢評価のポイント. UC 治療セミナー, 2025. 3. 27.

#### 【学会・研究会における座長】

1. 青木康浩. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 (座長) 2024. 11. 15.

## 【論 文】

1. Izumi K, Kohno T, Goda A, Takeuchi S, Shiraishi Y, Higuchi S, Nakamaru R, Nagatomo Y, Kitamura M, Takei M, Sakamoto M, Mizuno A, Nomoto M, Soejima K, Kohsaka S, Yoshikawa T. Effect of basic activities of daily living independence on home discharge and long-term outcomes in patients hospitalized with heart failure. *Heart Vessels*. 2024 Nov 18. Online ahead of print.
2. Kawai A, Nagatomo Y, Yukino-Iwashita M, Ikegami Y, Takei M, Goda A, Kohno T, Mizuno A, Kitamura M, Nakano S, Sakamoto M, Shiraishi Y, Kohsaka S, Adachi T, Yoshikawa T. Supra-normal and mildly reduced ejection fraction in women: An overlooked vulnerable subpopulation in heart failure. *Int J Cardiol*. 2024;409:132166.
3. Shiraishi Y, Ikemura N, Urashima M, Kohno T, Nakano S, Tanaka T, Nagatomo Y, Ikoma T, Ono T, Numasawa Y, Sakamoto M, Nishikawa K, Takei M, Hakuno D, Nakamaru R, Ueda I, Kohsaka S. Rationale and protocol of the LAQUA-HF trial: a factorial randomised controlled trial evaluating the effects of neurohormonal and diuretic agents on health-status reported outcomes in heart failure patients. *BMJ Open*. 2024;14:e076519.
4. Takahashi Y, Kobori A, Hiroshima K, Sakamoto Y, Kimura M, Inaba O, Tanimoto K, Hanazawa R, Hirakawa A, Goya M, Sasano T. Mapping-guided ablation for persistent atrial fibrillation: A multicenter, single-blind, randomized controlled trial. *Circ Arrhythm Electrophysiol*. 2024;17:e012829.
5. Ikemura N, Kohsaka S, Kimura T, Jones PG, Katsumata Y, Tanimoto K, Ueda I, Takatsuki S, Ieda M, Chan PS, Spertus JA. Physician estimates and patient-reported health status in atrial fibrillation. *JAMA Netw Open*. 2024;7:e2356693.
6. Aoyama M, Kishimoto Y, Saita E, Ohmori R, Nakamura M, Kondo K, Momiyama Y. High plasma levels of fortilin are associated with cardiovascular events in patients undergoing coronary angiography. *Heart Vessels*. 2025;40:219–26.
7. Saita E, Kishimoto Y, Ohmori R, Kondo K, Momiyama Y. Association between plasma interleukin-27 levels and cardiovascular events in patients undergoing coronary angiography. *J Cardiovasc Dev Dis*. 2024;11:139.
8. Momiyama Y, Kishimoto Y, Saita E, Ohmori R, Kondo K. Association between high plasma levels of legumain and cardiovascular events in patients undergoing coronary angiography. *Heart Vessels*. 2024;39:909–15.
9. Kishimoto Y, Saita E, Ohmori R, Kondo K, Momiyama Y. High plasma levels of endosialin and cardiovascular events in patients undergoing coronary angiography. *Heart Vessels*. 2024;39:837–41.

10. Kishimoto Y, Saita E, Ohmori R, Kondo K, Momiyama Y. High plasma concentrations of vanin-1 in patients with coronary artery disease. *Heart Vessels*. 2024;39: 10-7.
11. 樋山幸彦. 持続可能な病院のために. ほすびたるらいぶらりあん 2024;49:1-7.
12. 樋山幸彦. 医療論文を書いてみよう: 論文の書き方と「医療」への投稿. *医療* 2024; 78:229-33.

### 【学会・研究会発表】

1. 高口知之, 坂本宗久, 角南佑季, 曾充人, 川島瞬, 吉永薰, 青山真之, 角田那由香, 西村崇文, 宮崎良央, 稻川浩平, 谷本陽子, 谷本耕司郎, 樋山幸彦. 原因不明の左室収縮能の保たれた進行性の心不全を呈し心筋生検で診断し得たALアミロイドーシスの1例. 第274回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2024. 12. 14.
2. 宮崎良央, 坂本宗久, 青山真之, 角田那由香, 橋本健司, 西村崇文, 稻川浩平, 谷本陽子, 谷本耕司郎. SCAI shock stage CのRCA-STEMIがカテ中にstage Dに進行したため心停止前にCOMO挿入し、PCI後にECPELLAとして救命し得た一例. 第63回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 東京, 2024. 5. 11.
3. 宮崎良央, 坂本宗久, 青山真之, 角田那由香, 橋本健司, 西村崇文, 稻川浩平, 谷本陽子, 谷本耕司郎. 3枝病変を含むRCAの血栓性のACSに対して血栓吸引カテが不通過でありParallel wireとしてdeliveryに成功し、Filtrap+Ryuseiの長時間拡張が有効であった一例. TOPIC 2024, 東京, 2024. 7. 12.
4. 宮崎良央, 坂本宗久, 青山真之, 角田那由香, 橋本健司, 西村崇文, 稻川浩平, 谷本陽子, 谷本耕司郎. 石灰化分岐部病変にIVLをdeliveryする際に分枝にprolapseしてしまい広範な血腫を作成してしまった一例. 第32回日本心血管インターベンション治療学会, 札幌, 2024. 7. 25.
5. 宮崎良央. 当院でのPerfusion ballon使用に対する後ろ向き解析についての報告とハイリスク不安定plaquesに対する末梢保護デバイス+Perfusion ballonへの期待. 第64回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 東京, 2024. 10. 11.
6. Miyazaki Y, Sakamoto M, Aoyama M, Sumida N, Nishimura T, Inagawa K, Tanimoto Y, Tanimoto K. A case that the combination of RA+OA was successful for Nodular calcification of RCA ostium. CCT 2024, Kobe, 2024. 10. 26.
7. 樋山幸彦, 岸本良美, 才田恵美, 大森玲子, 近藤和雄. 冠動脈造影例における血漿Legumain濃度と心血管イベントとの関連性. 第56回日本動脈硬化学会総会, 神戸, 2024. 7. 6.
8. 樋山幸彦, 岸本良美, 青山真之, 近藤和雄. High plasma levels of fortilin and cardiovascular events in patients undergoing coronary angiography. 第89回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2025. 3. 28.

### 【講 演】

1. 東谷卓美. 教育講演 冠微小血管拡張性の異常およびその評価. 日本心血管画像動態学会/FRIENDS LIVE, 2025. 1. 17.

2. 東谷卓美. 教育講演 心筋架橋の生理学的・臨床的重要性. 日本心血管画像動態学会 /FRIENDS LIVE, 2025. 1. 17.
3. 東谷卓美. 教育講演 心不全とCMD:その診断から治療まで. 日本心血管画像動態学会 /FRIENDS LIVE, 2025. 1. 18.
4. 宮崎良央. ランチョンセミナー Scoreflex TRIONo 評価と可能性. 第 65 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 Tokyo live, 2025. 11. 11.

#### 【その他】

1. 稻川浩平. 第 274 回日本循環器学会関東甲信越地方会 (コメンテーター) 東京, 2024. 12. 14

# 呼吸器内科・アレルギー科

---

## 【論 文】

1. Ohta K, Sakoda Y, Shinozaki T, et al. Therapeutic efficacy of IL7/CCL19-expressing CAR-T cells in intractable solid tumor models of glioblastoma and pancreatic cancer. *Cancer Res Commun.* 2024;4:2514-4.
2. Sunata K, Miyata J, Mochimaru T, et al. Multiomics analysis identified IL-4-induced IL1RL1<sup>high</sup> eosinolhils characterized by prominent cysteinyl leukotriene metabolism. *J Allergy Clin Immunol.* 2024;154:1277-88.
3. Sunata K, Miyata J, Mochimaru T, et al. Inflammatory profile of eosinophils in asthma-COPD overlap and eosinophilic COPD: a multi-omics study. *Front Immunol.* 2024;15:1445769.

## 【学会・研究会発表】

1. 篠崎太郎, 浜本純子, 安田浩之. 患者由来肺癌オルガノイドライブラーを用いたEGFR-TKIに対する耐性化の新規機序解明. 第64回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2024.4.6.
2. 篠崎太郎, 扇野圭子, 福永興壱. 気管支鏡を用いて樹立した患者由来肺癌オルガノイドライブラー. 第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 大阪, 2024.6.28.
3. 熊木聰美, 篠崎太郎, 福井梓穂, 吉田博道, 佐川偲, 渡瀬麻友子, 渡辺理沙, 長谷川華子, 入佐薰, 里見良輔, 持丸貴生, 大竹宗太郎, 福富寿典, 小山孝彦, 前島新史, 小山田吉孝. 早期肺腺癌との鑑別が困難であった限局する自己免疫性肺胞蛋白症の一例. 第263回日本呼吸器学会関東地方会, 東京, 2025.2.8.
4. 吉田博道, 篠崎太郎, 福井梓穂, 石井真央, 熊木聰美, 佐川偲, 渡辺理沙, 長谷川華子, 入佐薰, 持丸貴生, 里見良輔, 小山田吉孝. 診断に苦慮した血痰の一例. 第21回城南気道疾患研究会, 東京, 2024.11.7.
5. 持丸貴生, 渡瀬麻友子, 熊木聰美, 渡邊素子, 篠原浩幸, 飯塚昇, 佐川偲, 篠崎太郎, 渡辺理沙, 長谷川華子, 入佐薰, 里見良輔, 小山田吉孝. 気管支肺胞洗浄液における洗浄部位による回収率の差異の検討. 第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 大阪, 2024.6.28.
6. 篠原浩幸, 持丸貴生, 熊木聰美, 渡邊素子, 田畠広樹, 渡瀬麻友子, 篠崎太郎, 長谷川華子, 入佐薰, 里見良輔, 渡辺多代, 松井一晃, 小山田吉孝. 経皮経肝胆嚢ドレナージ(PTGDB)チューブ長期留置後に出現した胆汁性胸水の1例. 第64回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2024.4.6.

# 脳神経内科

---

## 【論 文】

1. 久富木原健二. 脱髓疾患. 永田栄一郎, 伊藤義彰編. 神経内科レビュー 2024-25:東京, 総合医学社, 2024:189-95.

## 【学会・研究会発表】

1. 岩崎文美, 久富木原健二, 勘舜平, 雪野満, 安富大祐. 脳脊髄液検査により診断に至った MOG 抗体関連疾患の一例. 第 702 回日本内科学会関東地方会, 東京, 2025. 2. 8.

## 【その他】

1. 安富大祐. 神経 2 (座長) 第 701 回日本内科学会関東地方会, 東京, 2024. 12. 14.
2. 安富大祐. 神経 1 (座長) 第 702 回日本内科学会関東地方会, 東京, 2025. 2. 8.
3. 安富大祐 (会長) 第 702 回日本内科学会関東地方会, 東京, 2025. 2. 8.

# メンタルケア科

---

## 【論 文】

1. 古野毅彦. 精神科医の立場から. 駒澤大学心理臨床研究 2024;23:27.

## 【学会・研究会発表】

1. Sugihara M. Introduction to a two-week inpatient alcohol rehabilitation program (ARP) at a general hospital in Japan. The 3rd World Congress on Alcohol and Addictions, Australia, 2024. 9. 25.
2. 杉原正子. 精神科医から見た「死にたい」気持ち. 日本保健医療社会学会: Round Table Discussion「生きる権利」を考え続ける一パートナリズムと自己決定権を超えて, 千葉, 2024. 5. 25.
3. 千葉ちよ, 笠井さつき, 館野由美子, 鶴田信子, 富樫公一. シンポジウム話題提供 2 社会として心理支援者をケアする支援者支援モデル構築の試み: ケアの倫理の実践可能な社会するために. 日本心理臨床学会大会第43回大会 (Web) 2024. 9. 20-10. 17.
4. 野村真睦, 岡田暁宜, 妙木浩之, 加茂聰子, 山崎孝明. 抵抗分析を考える. 日本精神分析学会第70回大会教育研修セミナー, 名古屋, 2024. 11. 8.
5. 板東央矩, 古野毅彦, 影山さやか, 齋藤望, 野村真睦, 新福正機. 当院における自傷行為患者の診療 世田谷区との連携について. 第37回日本総合病院精神医学総会, 熊本, 2024. 11. 30.
6. 板東央矩, 古野毅彦, 影山さやか, 齋藤望, 野村真睦, 新福正機. 当院における自傷行為患者の診療 世田谷区との連携について. 第22回世田谷区医師会医学会, 東京, 2024. 12. 7.

## 【講 演】

1. 新福正機. ゲートキーパーとしてできる事. 世田谷区保健センター講演会 ゲートキーパー講座, 東京, 2024. 9. 9.

# 小児科

---

## 【論 文】

1. Higuchi T, Furuichi M, Maeda N, Tsugawa T, Ito K. Effects of probiotics in children with acute gastroenteritis: A systematic review and meta-analysis focusing on probiotics utilized in Japan. *J Infect Chemother.* 2024;30:337-42.
2. Shinjoh M, Yaginuma M, Yamaguchi Y, Tamura K, Furuichi M, Tsumura Y, Itaki R, Iqbal A, Maeda N, Narabayashi A, Kamei A, Shibata A, Yamada G, Nishida M, Tsunematsu K, Chiga M, Shimoyamada M, Yoshida M, Fukushima N, Nakata Y, Fukushima H, Kawakami C, Narumi S, Sugaya N; Keio Pediatric Influenza Research Group. Effectiveness of inactivated influenza vaccine in children during the 2023/24 season: The first season after relaxation of intensive COVID-19 measures. *Vaccine.* 2024;42:Epub 2024 Aug 22.

## 【著 書】

1. 前田直則. CQ1-3 小児の感染性胃腸炎に対して成長薬投与は推奨されるか? 日本小児感染症学会日本小児感染症・免疫アレルギー研究会. 小児消化管感染症診療ガイドライン 2024 : 診断と治療社, 2024:10-4.

## 【学会・研究会発表】

1. Mirai O, Kouno K, Miura K, Yamamoto T, Yabuuchi A, Tezuka M, Maeda N, Torii K, Toki M, Suzuki E, Fujita H, Miharu M. A Multidisciplinary Collaboration Model to Provide Bio-Psycho-Social Support for Mothers and Newborns Facing Challenges. 第78回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 18.
2. 金輪守英, 前田直則, 薮内彩乃, 窪田義己, 土岐真智子, 鈴木絵理, 藤田尚代, 山澤一樹, 古市宗弘, 三春晶嗣, 新庄正宜. *Aggregatibacter aphrophilus*による化膿性脊椎炎を発症した小児例. 第56回日本小児感染症学会総会, 長崎, 2024. 11. 15-17.
3. 永井泰樹, 前田直則, 山本堯, 薮内彩乃, 窪田義己, 杉原諄哉, 手塚舞花, 鳥居健一, 土岐真智子, 鈴木絵理, 山澤一樹, 藤田尚代, 須江悠人, 三春晶嗣. 血液培養で *Christensenella hongkongensis* が検出された急性虫垂炎の小児例. 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会, 長崎, 2024. 11. 15-17.
4. 薮内彩乃, 前田直則, 窪田義己, 土岐真智子, 鈴木絵理, 山澤一樹, 藤田尚代, 三春晶嗣, 生方公子, 岩田敏. 入院時の血液培養採取が侵襲性 GAS 感染症の早期診断につながった1例. 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会, 長崎, 2024. 11. 15-17.
5. 土岐真智子, 角田和繁, 小須賀基通, 奥山虎之, 三春晶嗣, 山澤一樹. CTSA 遺伝子 c. 692+3A>G は日本における成人型ガラクトシアリドースの創始者バリアントである. 第57回日本小児内分泌学会学術集会, 横浜, 2024. 10. 10.

# 一般・消化器外科

---

## 【論 文】

1. Shintani T, Obara H, Matsubara K, Hayashi M, Kita H, Ono S, Watada S, Kikuchi N, Sekimoto Y, Torizaki Y, Asami A, Fujii T, Hayashi K, Harada H, Fujimura N, Hosokawa K, Nakatani E, Kitagawa Y. Impact of wound management strategies after revascularization for chronic limb-threatening ischemia. *J Vasc Surg.* 2024; 79:632-41.
2. Hirata Y, Prakash L, Maxwell J, Snyder R, Kim M, Tran Cao H, Tzeng CD Lee, JE, Katz MHG, Ikoma N. Institutional learning curve and factors of prolonged operation time of robotic distal pancreatectomy: An analysis of an initial 117 cases. *Ann Gastroenterol Surg.* 2025;9:861-9.
3. Song Y, Hirata Y, Ajani JA, Blum Murphy M, Li JJ, Das P, Minsky BD, Mansfield PF, Ikoma N, Badgwell BD. Survival outcomes in patients with resectable gastric cancer treated with total neoadjuvant therapy. *Ann Surg Oncol.* 2024;31:6918-30.
4. 関本康人. 特集 感染性動脈瘤 末梢動脈瘤. 血管外科症例検討会雑誌: 血管外科 2024; 43:33-5.
5. 金子裕右, 関本康人, 三尾幸司, 宮澤あづみ, 浅見勇太, 古後斗冴, 伊東良晃, 金子英樹, 鳥崎友紀子, 樋口順也. 下大静脈への穿破を認めた総腸骨動脈瘤の1例. 日本腹部救急医学外雑誌 2024;44:47-50.

## 【学会・研究会発表】

1. Torizaki Y, Matsuda S, Obara H, Matsubara K, Kurebayashi Y, Matsubara Y, Uruga Y, Imanishi N, Aiso S, Kitagawa Y. Vessel length best represents the wound healing process when analyzed using photoacoustic imaging. 第13回日韓血管外科学会, 川崎, 2024. 6. 29-30.
2. 浦上秀次郎, 足立陽子, 鳥崎友紀子, 松井一晃, 下田啓文, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 松井哲, 石志紘. 当院におけるreduced port surgeryによる胆囊摘出術の継続と後進への指導の課題. 第124回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2024. 4. 18-20.
3. 浦上秀次郎, 足立陽子, 松井一晃, 下田啓文, 島田岳洋, 川口義樹, 石志紘. 当院における急性胆囊炎に対する腹腔鏡下胆囊摘出術の成績の後方視的検討. 第49回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 2024. 6. 5-7.
4. 浦上秀次郎, 平田雄紀, 下田啓文, 島田岳洋, 川口義樹, 石志紘. The outcome and outlook of pancreatic cancer in elderly patients more than 80 years old. 第36回日本肝胆膵外科学会学術集会, 広島, 2024. 6. 28-29.
5. 下田啓文, 浦上秀次郎, 鳥崎友紀子, 足立陽子, 平田雄紀, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 石志紘. A case of retroperitoneal malignant mesothelioma with long-term survival after repeated hepatectomy. 第36回日本肝胆膵外科学会学術集会, 広島, 2024. 6. 28-29.

6. 浦上秀次郎. 精神論を語っても良いですか？外科医のつぶやき. The 11<sup>th</sup> Summer Seminar in Okinawa, 沖縄, 2024. 7. 6.
7. 浦上秀次郎, 岩井貴寛, 井出遥平, 平田雄紀, 宮前遊花, 足立陽子, 下田啓文, 島田岳洋, 川口義樹, 石志紘. RPSの教育プログラムの継続. 第11回Reduced Port Surgery Forum, 金沢, 2024. 8. 9-10.
8. 岩井貴寛, 浦上秀次郎, 井出遥平, 宮前遊花, 足立陽子, 下田啓文, 島田岳洋, 川口義樹, 石志紘. 当院における良性疾患に対する外科専攻医による reduced port surgery について. 第 11 回 Reduced Port Surgery Forum, 金沢, 2024. 8. 9-10.
9. 岩井貴寛, 松井一晃, 石志紘. 食道癌術後再発に対して免疫療法が奏効したが治療継続に苦慮したアルコール使用障害の 1 例. 第 78 回日本食道学会学術集会, 東京, 2024. 7. 4-5.
10. 下田啓文, 浦上秀次郎, 鳥崎友紀子, 足立陽子, 平田雄紀, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 石志紘. 当院における腹腔鏡下脾体尾部切除術定型化のための工夫. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 山口, 2024. 7. 17-19.
11. 浦上秀次郎, 足立陽子, 平田雄紀, 下田啓文, 島田岳洋, 川口義樹, 石志紘. 当院における80歳以上の脾癌と脾頭部領域悪性腫瘍に対する脾頭十二指腸切除術の成績. 第 79回日本消化器外科学会総会, 山口, 2024. 7. 17-19.
12. 平田雄紀, 生駒成彦. 米国におけるロボット胃切除と開腹胃切除術の周術期コストの比較検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 山口, 2024. 7. 17-19.
13. 浦上秀次郎, 平田雄紀, 下田啓文, 島田岳洋, 川口義樹, 石志紘. 当院における腹腔鏡下胆囊摘出術の成績から急性胆囊炎に対する PTGBD を考える. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2024. 12. 5-7.
14. 下田啓文, 浦上秀次郎, 鳥崎友紀子, 平田雄紀, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 石志紘. 肝外側区域の胆管内乳頭状腫瘍に対して腹腔鏡下肝左葉切除術を施行した1例. 第37回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2024. 12. 5-7.
15. 平田雄紀, 生駒成彦. 米国癌センターにおける、ロボット手術が周術期コスト・患者の術後 Financial Toxicity に与える影響. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2024. 12. 5-7.
16. 岩井貴寛, 浦上秀次郎, 井出遥平, 宮前遊花, 足立陽子, 下田啓文, 島田岳洋, 川口義樹, 石志紘. アンケートを用いて評価する当院における低侵襲手術の現状と今後の展望について. 第 27 回 Needlescopics Surgery Meeting, 東京, 2025. 2. 8.
17. 勝又佳織, 下田啓文, 坂本恭子, 鳥崎有紀子, 平田雄紀, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 浦上秀次郎, 石志紘. 単純性虫垂炎に対する Reduced port surgery の有用性の検討. 第 27 回 Needlescopics Surgery Meeting, 東京, 2025. 2. 8.
18. 勝又佳織, 平田雄紀, 石志紘. 食道胃接合部癌での化学療法と免疫チェックポイント併用療法の使用経験. 南東京胃癌薬物療法研究会, 東京, 2025. 2. 28.
19. 鳥崎友紀子, 関本康人. 急速な進行により左下腿切断に至った重症上下肢虚血の 1 症例. 第 200 回血管外科症例検討会, 東京, 2025. 3. 8.

20. 渡邊健太郎, 平田雄紀, 鳥崎友紀子, 下田啓文, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 浦上秀次郎, 石志紘. 高度な亀背を呈する高齢女性にロボット支援下幽門側胃切除が有用であった1例. 第97回日本胃癌学会総会, 名古屋, 2025.3.12-14.
21. 浦上秀次郎, 坂本恭子, 平田雄紀, 下田啓文, 島田岳洋, 川口義樹, 石志紘, 伊東伸剛. 当院における肝胆脾悪性腫瘍に対するoncologic emergencyとIVR治療の経験, 第61回日本腹部救急医学会総会, 名古屋, 2025.3.20-21.
22. 渡邊健太郎, 下田啓文, 足立陽子, 平田雄紀, 島田岳洋, 川口義樹, 浦上秀次郎, 石志紘. Fitz-Hugh CURTIS症候群による絞扼性腸閉塞に対する小腸切除を施した1例. 第61回日本腹部救急医学会総会, 名古屋, 2025.3.20-21.

### 【講 演】

1. 平田雄紀. コスト面からみてロボット上部消化管手術のバリューに関する検討. 第12回上部消化管外科交流セミナー, 東京, 2025.2.1.

### 【その他】

1. Hirata Y. Stomach/Bariatric/Metabolic Diseases II (座長) DDW 2024, Washington DC, 2024.5.18-21.

# 乳腺外科

---

## 【論 文】

1. Yamane S, Matsui A, Nakashoji A, Sasahara M, Murata Y and Kinoshita T. Tubular carcinoma of the breast: The possibility to omit sentinel lymph node biopsy. *Cancer Diagn Progn.* 2024;4:434-40.
2. Nagahashi M, Kumamaru H, Kinukawa N, Iwamoto T, Kawashima M, Kinoshita T, Konishi T, Sagara Y, Sasada S, Saji S, Sanuki N, Tanakura K, Niikura N, Miyashita M, Yoshida M, Ishida T & Taira N. Breast cancer statistics for Japan in 2022: annual report of the national clinical database-breast cancer registry-clinical implications including chemosensitivity of breast cancer with low estrogen receptor expression. *Breast Cancer.* 2025;32:217-26.

## 【著 書】

1. 木下貴之. 第4章 乳癌RFA臨床試験(公的制度を用いた). 木下貴之, 津田均編. 乳癌ラジオ波焼灼療法アトラス 手技と病理効果判定の手順書:東京, 南山堂, 2024:23-9.
2. 木下貴之. 第18章 インフォームドコンセントの要点. 木下貴之, 津田均編. 乳癌ラジオ波焼灼療法アトラス 手技と病理効果判定の手順書:東京, 南山堂, 2024:118-20.
3. 木下貴之. 早期乳癌ラジオ波焼灼療法の実用化—RAFAELO試験とPO-RAFAERO試験. 最新医療情報誌アニムス119号: LSIメディエンス, 2024夏号:38-43.
4. 木下貴之. 早期乳がん診断に対するRFAの実際. 医療と画像の総合情報誌 INNERVISION 8月号: インナービジョン, 2024;39:51-4.
5. 木下貴之. 乳癌治療における手術の省略について考える 4. 早期乳癌ラジオ波焼灼療法の実用化. 日本外科学会雑誌 2024;125:406-14.
6. 木下貴之. II手術編 乳房温存療法 2. その他の乳房温存療法 non-surgical ablation: RFA. 美しく仕上げる乳癌手術・乳房再建術のコツ:文光堂, 東京, 2025:104-8.

## 【学会・研究会発表】

1. Kinoshita T. Radiofrequency ablation without excision for breast cancer: 5-year results of ipsilateral breast tumor recurrence-free survival in the RAFAELO study (NCCH1409). ASCO Annual Meeting, Chicago, 2024.6.2.
2. Kinoshita T. Radiofrequency ablation without excision for breast cancer: 5-years results of ipsilateral breast tumor recurrence-free survival in the RAFAELO study (NCCH1409). The 7<sup>th</sup> Congress of Asian Surgical Ultrasound Society (ASUS 2024), Plenary Session (invited speaker), Seoul, 2024.
3. 木下貴之. 最新の早期乳癌局所療法—ラジオ波焼灼療法. 特別企画 知っておきたい外科学の最新トピックス【乳腺】第124回日本外科学会定期学術集会, 愛知, 2024.4.19.
4. 木下貴之. 薬事承認された非切除乳房温存療法としてのラジオ波焼灼療法. ワークショッピング【乳癌領域外科治療の個別化】. 第124回日本外科学会定期学術集会, 愛知, 2024.4.20.

5. 木下貴之. イブニングセミナー 乳癌に対するラジオ波焼灼療法 (RFA) の幕開け 乳癌ラジオ波焼灼療法のこれまでとこれから. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 仙台, 2024. 7.
6. 木下貴之. 特別講演 早期乳がん患者のラジオ波焼灼療法に関する足跡と将来展望について. 第 61 回九州乳癌治療研究会, 福岡, 2024. 8. 6.
7. 木下貴之. 特別講演 乳癌のラジオ波焼灼療法 (RFA) の現状. 久留米大学「次世代の九州がんプロ養成プラン」特別セミナー, 久留米, 2024. 11. 13.
8. 木下貴之. 特別講演 早期乳癌に対するラジオ波焼灼療法. 第 46 回長野県乳腺疾患懇話会, 長野, 2024. 11. 30.
9. 手塚日向子, 松井哲, 小谷依里奈, 月山絵未, 佐藤茉莉花, 笹原真奈美, 村田有也, 木下貴之. 化生癌手術例 14 例の検討. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 仙台, 2024. 7. 11.
10. 佐藤茉莉花, 松井哲, 小谷依里奈, 月山絵未, 手塚日向子, 笹原真奈美, 笹岡綾子, 村田有也, 木下貴之. 当院におけるトリプルネガティブタイプ乳癌に対するペンプロリズマブの使用経験. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 仙台, 2024. 7. 11-13.
11. 佐藤茉莉花, 松井哲, 小谷依里奈, 月山絵未, 手塚日向子, 笹原真奈美, 笹岡綾子, 村田有也, 木下貴之. Paget 病との鑑別が困難であった乳頭部皮膚浸潤を伴う局所進行乳癌の 1 例. 第 20 回日本乳癌学会関東地方会, 東京, 2024. 12. 7.
12. 月山絵未, 松井哲, 木下貴之, 小谷依里奈, 笹原真奈美, 手塚日向子, 佐藤茉莉花, 村田有也. 治療歴のある HER2 低発現・高発現の進行・再発乳癌に対する当院での Trastuzumab Deruxtecan の使用成績. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 仙台, 2024. 7. 11.
13. 月山絵未, 松井哲, 木下貴之, 小谷依里奈, 笹原真奈美, 手塚日向子, 佐藤茉莉花, 村田有也. 当院における HER2 陽性乳癌に対する術前薬物療法とその治療効果の検討. 第 62 回日本癌治療学会, 福岡, 2024. 10. 26.
14. 月山絵未, 松井哲, 木下貴之, 小谷依里奈, 笹原真奈美, 手塚日向子, 佐藤茉莉花, 村田有也. Abemaciclib 投与中に急性腎障害を呈した紅麹服用の 1 例. 第 20 回日本乳癌学会関東地方会, 東京, 2024. 12. 7.
15. 小谷依里奈, 松井哲, 木下貴之. ワークショップ 乳房, 甲状腺のアブレーション 当院で経験した乳癌ラジオ波焼灼療法 41 例の臨床病理学的検討. 第 3 回日本アブレーション研究会, 金沢, 2025. 2. 8.
16. 小谷依里奈, 松井哲, 佐藤茉莉花, 手塚日向子, 月山絵未, 笹原真奈美, 村田有也, 村上遙香, 井上沙聰, 山澤一樹, 木下貴之. BRCA 病的バリアント陽性における画像所見と臨床病理学的特徴の検討. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 仙台, 2024. 7. 12.
17. 小谷依里奈, 松井哲, 佐藤茉莉花, 手塚日向子, 月山絵未, 笹原真奈美, 笹岡綾子, 村田有也, 木下貴之. 乳癌との鑑別を要し、完全切除が可能であった Nipple adenoma の 1 例. 第 20 回日本乳癌学会関東地方会, 東京, 2024. 12. 7.
18. 小谷依里奈, 松井哲, 佐藤茉莉花, 手塚日向子, 月山絵未, 笹原真奈美, 笹岡綾子, 村田有也, 木下貴之. 当院で経験した、乳癌に対するラジオ波焼灼療法 22 例の後方視的臨床病理学的検討. 第 62 回日本癌治療学会, 福岡, 2024. 10. 26.
19. 小谷依里奈, 松井哲, 笹原真奈美, 村田有也, 木下貴之. 当院で経験した乳癌に対するラジオ波焼灼療法 22 例の後方視的臨床病理学的検討. 第 12 回日本乳房オンコプラスティックサーチェリー学会総会, 金沢, 2024. 10. 3-4.

20. 小谷依里奈, 松井哲, 佐藤茉莉花, 手塚日向子, 月山絵未, 笹原真奈美, 笹岡綾子, 村田有也, 木下貴之. 当院で乳管腺葉区域切除術を施行した 103 例の診断・治療結果の検討. 第 124 回日本外科学会定期学術集会, 愛知, 2024. 04. 19.
21. 松井哲, 小谷依里奈, 月山絵未, 佐藤茉莉花, 手塚日向子, 笹原真奈美, 村田有也, 木下貴之. 乳癌術後の晚期再発に対する危険因子の検討. 第 124 回日本外科学会定期学術集会, 愛知, 2024. 4. 19.
22. 松井哲, 服部裕昭, 岡本康, 長田拓哉, 馬場紀行, 清水哲, 足立幸博, 浜口洋平, 濱岡剛, 森美樹, 前田日菜子, 小谷依里奈, 木下貴之, 地域におけるマンモグラフィー読影勉強会の取り組み, 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 仙台, 2024. 7. 11-13.
23. 松井哲, 小谷依里奈, 月山絵未, 佐藤茉莉花, 手塚日向子, 笹原真奈美, 村田有也, 木下貴之. 早期乳癌に対するセンチネルリンパ節生検省略の可能性に関する検討. 第 62 回日本癌治療学会, 福岡, 2024. 10. 26.
24. 笹岡綾子, 島田美季, 岩崎多津代. A 病院での頭皮冷却療法の導入と継続への取り組み. 第 39 回日本がん看護学会学術集会, 札幌, 2022. 2. 22.
25. 笹岡綾子, 松井哲, 小谷依里奈, 月山絵未, 佐藤茉莉花, 手塚日向子, 笹原真奈美, 木下貴之. 乳病初期治療の開始に際して障害となっていた患者背景の検討: 看設面談に基づく分析から, 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 仙台, 2024. 7. 11-13.

### 【その他】

1. 木下貴之. 乳癌外科的治療における新展開. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, シンポジウム 3 (座長) 仙台, 2024. 7.
2. 木下貴之. 保険収載されたラジオ波焼灼療法. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 委員会企画将来検討委員会 (ラジオ波焼灼療法検討ワーキング) (座長) 仙台, 2024. 7.
3. 木下貴之. 将来検討委員会における活動の焦点. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 委員会企画将来検討委員会 (座長) 仙台, 2024. 7.
4. 木下貴之. 乳癌非切除術乳癌凍結療法の適応と有用性. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, イブニングセミナー7 (座長) 仙台, 2024. 7.
5. 木下貴之. 乳癌アブレーション治療の今. 第 12 回日本乳房オンコプラスティックセンター学会総会, シンポジウム 3 (座長) 金沢, 2024. 10.

### 【講演・放送】

1. 木下貴之. 乳房切らずに乳がん治療. 針刺す「ラジオ波焼灼療法」、負担少なく. 産経新聞社. 2024. 4. 4.
2. 木下貴之. 早期乳がんの切らない治療が保険適用に. 日経ヘルス 2024 夏号, 日経 BP, 2024;6:82-6.
3. 木下貴之. 進む乳がん治療 1/5 切らない「ラジオ波焼灼」. 医療ルネサンス No. 8321, 読売新聞朝刊, 2024. 8. 12.
4. 木下貴之. アピアランスケアについて知ろう! 頭皮冷却、始めました: 頭皮冷却のエビデンス. 国立国際医療研究センター市民公開講座 (WEB) 2024. 11. 9.

5. 木下貴之. 増加している早期乳がんは“切らない”治療で治す. 元気になる健康ワイド特集, 日刊ゲンダイ, 2024. 11. 22.
6. 木下貴之. 早期乳がん、切らずに治療. 日本経済新聞, 2025. 2. 15.
7. 木下貴之. Patient Story movie. インタビュー出演, 日本メドトロニック, 2025. 3.
8. 木下貴之. 教育講演 増え続ける乳癌～気になる乳がんの最新治療. 健保連東京連合会城西地区方面会企画広報研究会, 東京, 2025. 3. 13.

## 【論 文】

1. Hirozane T, Sekita T, Kobayashi E, Mori T, Asano N, Udaka T, Tajima T, Nakagawa R, Kikuta K, Yoshiyama A, Morioka H, Watanabe I, Anazawa U, Susa M, Horiuchi K, Suzuki Y, Morii T, Nakayama R. Clinical characteristics and outcomes of patients with chondroblastoma undergoing surgery with various adjuvant procedures: a retrospective study of 59 cases. *BMC Surg.* 2025;25:40.
2. Tsuchiya K, Akisue T, Ehara S, Kawai A, Kawano H, Hiraga H, Hosono A, Hutani H, Morii T, Morioka H, Nishida Y, Oda Y, Ogose A, Shimose S, Yamaguchi T, Yamamoto T, Yoshida M. Japanese orthopaedic association (JOA) clinical practice guideline on the management of primary malignant bone tumors: Secondary publication *J Orthop Sci.* 2025;30:1-17.
3. Ito S, Nakashima H, Segi N, Yokogawa N, Sasagawa T, Funayama T, Eto F, Yamaji A, Watanabe K, Nori S, Takeda K, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Kuroda A, Inoue G, Kakutani K, Kakiuchi Y, Kiyasu K, Tominaga H, Tokumoto H, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Takegami N, Funao H, Oshima Y, Kaito T, Sakai D, Yoshii T, Ohba T, Otsuki B, Seki S, Miyazaki M, Ishihara M, Oda M, Okada S, Imagama S, Kato S. A deep learning-based prediction model for prognosis of cervical spine injury: a Japanese multicenter survey. *Eur Spine J.* 2025 Feb 10.
4. Segi N, Nakashima H, Ito S, Ouchida J, Yokogawa N, Sasagawa T, Furuya T, Yunde A, Funayama T, Eto F, Watanabe K, Nori S, Ikegami S, Uehara M, Hashimoto K, Onoda Y, Nakajima H, Suzuki H, Imajo Y, Yamada T, Hasegawa T, Kawaguchi K, Haruta Y, Terashima Y, Hirota R, Tonomura H, Sakata M, Iizuka Y, Uei H, Suzuki N, Akeda K, Tominaga H, Seki S, Oshima Y, Kaito T, Otsuki B, Nakanishi K, Kakutani K, Funao H, Yoshii T, Sakai D, Ohba T, Miyazaki M, Terai H, Inoue G, Okada S, Imagama S, Kato S. Comparative analysis of characteristics of lower- and mid-cervical spine injuries in the elderly. *Spine Surg Relat Res.* 2024;8: 560-7.
5. Uehara M, Ikegami S, Takizawa T, Oba H, Yokogawa N, Sasagawa T, Nakashima H, Segi N, Ito S, Funayama T, Eto F, Yamaji A, Watanabe K, Nori S, Takeda K, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Kuroda A, Inoue G, Kakutani K, Kakiuchi Y, Kiyasu K, Tominaga H, Tokumoto H, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Takegami N, Funao H, Oshima Y, Kaito

- T, Sakai D, Yoshii T, Ohba T, Otsuki B, Seki S, Miyazaki M, Ishihara M, Okada S, Imagama S, Kato S. Is intraoperative blood loss volume in elderly cervical spine injury surgery greater in patients with ankylosis? A multicenter survey. *Spine Surg Relat Res.* 2024;8:575-82.
6. Takeda K, Watanabe K, Nori S, Yamane J, Kono H, Yokogawa N, Sasagawa T, Nakashima H, Segi N, Funayama T, Eto F, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Kawaguchi K, Suzuki N, Uei H, Nakanishi K, Terai H, Inoue G, Kiyasu K, Iizuka Y, Akeda K, Funao H, Oshima Y, Kaito T, Yoshii T, Ishihara M, Okada S, Imagama S, Kato S. Influence of diabetes mellitus on neurological recovery in older patients with cervical spinal cord injury without bone injury: A retrospective multicenter study. *Global Spine J.* 2025; 15:2274-85.
  7. Segi N, Nakashima H, Ito S, Ouchida J, Yokogawa N, Sasagawa T, Funayama T, Eto F, Watanabe K, Nori S, Furuya T, Yunde A, Terashima Y, Hirota R, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Kawaguchi K, Haruta Y, Hashimoto K, Onoda Y, Nakanishi K, Misaki K, Ikegami S, Uehara M, Suzuki H, Imajo Y, Uei H, Sawada H, Terai H, Tamai K, Kuroda A, Inoue G, Suzuki N, Kato K, Akeda K, Takegami N, Iizuka Y, Oshima Y, Tonomura H, Kiyasu K, Funao H, Yoshii T, Ishihara M, Kaito T, Seki S, Kakutani K, Tominaga H, Ohba T, Sakai D, Otsuki B, Miyazaki M, Okada S, Imagama S, Kato S. Low nutrition before injury is a risk factor for dysphagia in older patients with cervical spinal cord injury: based on a multicenter data of 707 patients. *Spine Surg Relat Res.* 2024;8:473-9.
  8. Matsumoto S, Aoyama R, Yamane J, Ninomiya K, Takahashi Y, Kitamura K, Nori S, Suzuki S, Anazawa U, Shiraishi T. Dynamic cervical spinal canal stenosis: identifying imaging risk factors in extended positions. *Asian Spine J.* 2024; 18:227-35.
  9. Segi N, Nakashima H, Ito S, Yokogawa N, Sasagawa T, Watanabe K, Nori S, Funayama T, Eto F, Nakajima H, Terashima Y, Hirota R, Hashimoto K, Onoda Y, Furuya T, Yunde A, Ikegami S, Uehara M, Suzuki H, Imajo Y, Uei H, Sawada H, Kawaguchi K, Nakanishi K, Suzuki N, Oshima Y, Hasegawa T, Iizuka Y, Tonomura H, Terai H, Akeda K, Seki S, Ishihara M, Inoue G, Funao H, Yoshii T, Kaito T, Kiyasu K, Tominaga H, Kakutani K, Sakai D, Ohba T, Otsuki B, Miyazaki M, Murotani K, Okada S, Imagama S, Kato S. Early versus delayed surgery for elderly traumatic cervical spinal injury: a nationwide multicenter study in Japan. *Global Spine J.* 2025;15:1143-54.
  10. Segi N, Nakashima H, Machino M, Ito S, Yokogawa N, Sasagawa T, Funayama T, Eto F, Yamaji A, Watanabe K, Nori S, Takeda K, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y,

- Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Shirasawa E, Inoue G, Kakutani K, Kakiuchi Y, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Takegami N, Kiyasu K, Tominaga H, Tokumoto H, Funao H, Oshima Y, Yoshii T, Kaito T, Sakai D, Ohba T, Seki S, Otsuki B, Ishihara M, Miyazaki M, Okada S, Imagama S, Kato S. Prognosis of cervical diffuse idiopathic skeletal hyperostosis-related spine injuries in elderly patients: analyses of both fracture and spinal cord injury without fracture. *Global Spine J.* 2025;15:321-31.
11. Nori S, Watanabe K, Takeda K, Yamane J, Kono H, Yokogawa N, Sasagawa T, Ando K, Nakashima H, Segi N, Funayama T, Eto F, Yamaji A, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Shirasawa E, Inoue G, Kiyasu K, Iizuka Y, Takasawa E, Funao H, Kaito T, Yoshii T, Ishihara M, Okada S, Imagama S, Kato S. Influence of the timing of surgery for cervical spinal cord injury without bone injury in the elderly: A retrospective multicenter study. *J Orthop Sci.* 2024;29:480-5.
  12. Segi N, Nakashima H, Machino M, Ito S, Yokogawa N, Sasagawa T, Funayama T, Eto F, Watanabe K, Nori S, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Hasegawa T, Yamada T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Inoue G, Shirasawa E, Kakutani K, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Kiyasu K, Tominaga H, Tokumoto H, Funao H, Oshima Y, Yoshii T, Kaito T, Sakai D, Ohba T, Seki S, Otsuki B, Ishihara M, Miyazaki M, Okada S, Imagama S, Kato S. Epidemiology of cervical fracture/cervical spinal cord injury and changes in surgical treatment modalities in elderly individuals during a 10-year period: A nationwide multicenter study in Japan. *Global Spine J.* 2024;14:1583-94.
  13. Sasaki R, Niki Y, Kaneda K, Yamada Y, Kobayashi S, Harato K, Nagura T, Nakamura M, Jinzaki M. Discrepancies in long-leg alignment and knee joint line obliquity between two- and three-dimensional measurements under weight-bearing conditions: Effects on coronal plane alignment of the knee classification. *Knee.* 2025;53:237-45.
  14. Sasaki R, Niki Y, Kaneda K, Yamada Y, Nagura T, Nakamura M, Jinzaki M.: The tibial tubercle-to-trochlear groove distance changes in standing weight-bearing condition: An upright weight-bearing computed tomography analysis. *Knee.* 2024;48:14-21.
  15. Ouchida J, Morita Y, Ito S, Segi N, Yamauchi I, Kanemura T, Ohara T, Tsuji T, Shinjyo R, Imagama S, Nakashima H. Impact of paraspinal muscle degeneration

- on surgical outcomes and radiographical sagittal alignment in adult spinal deformity: A multicenter study. *Neurospine*. 2025;22:30-7.
16. Nishijima T, Okuyama K, Shibata S, Kimura H, Shinozaki M, Ouchi T, Mabuchi Y, Ohno T, Nakayama J, Hayatsu M, Uchiyama K, Shindo T, Niiyama E, Toita S, Kawada J, Iwamoto T, Nakamura M, Okano H, Nagoshi N.: Novel artificial nerve transplantation of human iPSC-derived neurite bundles enhanced nerve regeneration after peripheral nerve injury. *Inflamm Regen*. 2024;44:6.
  17. Matsuo T, Kimura H, Nishijima T, Kiyota Y, Suzuki T, Nagoshi N, Shibata S, Shindo T, Moritoki N, Sasaki M, Noguchi S, Tamada Y, Nakamura M, Iwamoto T. Peripheral nerve regeneration using a bioresorbable silk fibroin-based artificial nerve conduit fabricated via a novel freeze-thaw process. *Sci Rep*. 2025;15:3797.
  18. Tsujisaka R, Matsumura N, Kamata Y, Morioka H, Kiyota Y, Suzuki T, Iwamoto T. Humeral rotational osteotomy for malunion after intramedullary nailing in humeral shaft fracture: a case report. *JSES Rev Rep Tech*. 2024;4:520-5.
  19. 彌富将, 辻崇, 海苔聰, 池田大樹, 加藤雅敬, 藤田貴也, 森岡秀夫. スクリュー付きケージを用いた頸椎前方除圧固定後のケージ沈下の特徴. *臨整外* 2024;59:1147-53.
  20. 西村太一, 道振康平, 亀田隆太, 藤田貴也. 骨膜反応を伴う人工関節周囲感染に対する一期的再置換術後, 骨膜反応の消失を認めた1例. *Hip Joint*. 2024;50:166-9.
  21. 杉浦祐太郎, 鎌田雄策, 河野亜紀, 清田康弘, 辻阪亮介, 有野司. 手部脂肪腫に対する手術治療の臨床成績. *日手会誌* 2024;40:369-71.
  22. 手島直人, 八木満, 鈴木悟士, 高橋洋平, 海苔聰, 辻収彦, 名越慈人, 渡辺航太, 松本守雄, 中村雅也. 仙骨脆弱性骨折後に遅発性膀胱直腸障害を発生した1例. *関東整災誌* 2024;55:61-6.

## 【総 説】

1. 森岡秀夫. 患者さんといっしょに取り組む!整形外科のロコモ予防(第5回) ロコモの要因とは? がんロコモ. *整形外科看護* 2025;30:186-9.
2. 森岡秀夫. 【見逃さない間違えない骨・軟部腫瘍と骨転移】骨転移診療の現在地そして目的地. *関節外科* 2024;43:1244-50.
3. 森岡秀夫, 吉山 晶, 宮田知恵子. 【がんロコモ-がん患者の運動器管理とリハビリテーション診療】がん患者の運動器管理の重要性とがんロコモ. *MEDICAL REHABILITATION* 2024;302:1-6.
4. 森岡秀夫. 【整形外科とがん診療-骨軟部腫瘍と骨転移アップデート-】がんロコモ Onco-orthopaedics という新領域. *Precision Medicine* 2024;7:260-4.
5. 森岡秀夫, 篠田裕介. 整形外科 骨転移診療の課題と今後めざしていくべき方向性について【骨転移診療を普及するため, 医療政策, ガイドライン, onco-orthopaedicsなどの取り組みが行われている】(Q&A). *日本医事新報* 2024;5210:46-7.
6. 種市洋, 金村徳相, 井上玄, 岩瀬嘉志, 上田明希, 葛原啓, 黒住健人, 高橋詠二, 高橋宏, 中前敦雄, 橋口宏, 平泉裕, 前達雄, 森岡秀夫, 八木満, 西連地利己, 西脇祐

- 司, 稲垣時子, 秋山治彦, 中島康晴. 整形外科領域のレジストリーの現況と今後の展望-手術安全性の向上を目指して: 本邦初の運動器手術ナショナルレジストリー Japanese Orthopaedic Association National Registry (JOANR)の現況と展望. 日整会誌 2024;98:3-14.
7. 藤田貴也. 【人工股関節置換術のエキスパートを目指そう】側臥位前側方アプローチ(OCM)による THA. 関節外科 2024;43:1145-58.

### 【著 書】

1. 森岡秀夫. 【整形外科での対応】 Scene12 整形外科に相談する②—鑑別と治療に関する相談. 骨転移診療プラクティス&ケースファイル:東京, 南江堂, 2025:18-9.

### 【学会・研究会発表】

1. 海苔聰, 辻崇, 池田大樹, 青山龍馬, 白石建, 藤田貴也, 森岡秀夫. 頸椎前屈位 K-line は頸椎症性脊髄症に対する後方除圧術の治療成績を予測できる. 第 53 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, 2024. 4. 18-20.
2. 吉山晶, 白石淳一, 森岡秀夫, Atypical spindle cell/pleomorphic lipomatous tumor の治療経験. 第 57 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 福井, 2024. 7. 11-12.
3. 林哲平, 室谷直樹, 小林祐介, 藤田貴也, 森岡秀夫. 大腿骨転子貫通骨折術後偽関節を来たした一例. 第 50 回日本骨折治療学会, 仙台, 2024. 6. 28-29.
4. 森岡秀夫, 吉山晶, 宮田知恵子, 萬篤憲, 伊東伸剛, 須河恭敬. 新しい骨転移診療ガイドラインにおける整形外科の関わりと意義: 骨転移診療におけるキャンサーボードの意義. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 福岡, 2024. 5. 23-26.
5. 海苔聰, 辻崇, 池田大樹, 青山龍馬, 白石建, 藤田貴也, 森岡秀夫. 頸椎前屈位 K-line は頸椎症性脊髄症に対する後方除圧術の治療成績を予測できる. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 福岡, 2024. 5. 23-26.
6. 室谷直樹, 藤田貴也, 林 哲平. 仙骨脆弱性骨折後に遅発性膀胱直腸障害を呈した 1 例. 第 50 回日本骨折治療学会, 仙台, 2024. 6. 28-29
7. 森岡秀夫. 日本整形外科学会/日本臨床腫瘍学会合同シンポジウム 骨転移キャンサーボードの実際と問題点. 骨転移キャンサーボードの社会実装に向けた取り組みと課題. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2025. 3. 6-8.
8. 林哲平, 金田和也, 道振康平, 亀田隆太, 吉山晶, 藤田貴也, 辻崇, 森岡秀夫. 骨転移に対するデノスマブ長期投与中に beak sign を指摘できた 5 例. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 福岡, 2024. 5. 23-26.
9. 森岡秀夫. パネルディスカッション 1 骨転移診療ガイドライン改訂から学ぶべきこと: 骨転移診療におけるキャンサーボードの意義. 第 50 回日本骨折治療学会, 仙台, 2024. 6. 28-29.
10. 森岡秀夫. シンポジウム 3 改訂骨転移診療ガイドラインを掘り起こす. 第 35 回日本運動器科学会, 宇都宮, 2024. 7. 6-7

## 【講 演】

1. 森岡秀夫. 教育研修講演 骨転移診療の実際：骨転移診療ガイドラインの活用. 神奈川県放射線医会第 64 回例会, 横浜, 2024. 10. 5.
2. 森岡 秀夫. ランチョンセミナー がん診療と整形外科: Onco-orthopaedics という新領域. 第 57 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 福井, 2024. 7. 12.
3. 森岡 秀夫. 教育研修講演 「部位別治療」ガイドラインに基づく骨転移マネージメント. 第 8 回日本サルコーマ治療研究学会学術集会, 札幌, 2025. 2. 21.
4. 森岡秀夫. 「がんロコモを知っていますか？」知ってほしい運動器疼痛・疾患の対策と実践. 日本学術会議公開シンポジウム (Web) 2025. 2. 16.
5. 森岡秀夫. がんロコモにおける神経障害性疼痛. 茅ヶ崎医師会乳がん勉強会 (Web) 2025. 2. 5.

## 【その他】

1. 森岡秀夫. ミニレクチャー 四肢骨転移の治療（座長）第 12 回骨転移フォーラム/第 4 回日本骨転移研究会学術集会, 岡山, 2025. 2. 1
2. 森岡秀夫. 教育研修講演（座長）第 56 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 東京, 2023. 7. 14

# 形成外科

---

## 【論 文】

1. Kiuchi S, Lopes TJS, Oishi T, Cho Y, Ochiai H, Gomi T. TSG-6 is involved in fibrous structural remodeling after the injection of adipose-derived stem cells. *Plast Reconstr Surg Glob Open*. 2024;12:e5990.
2. Oka A, Sano L, Watanabe S, Ochiai H. Changes in initial treatment following the introduction of a skin tear manual. *Pers Med Univers*. 2024;13:46-9.
3. Ochiai H, Inoue S, Masuda G, Amagasa S, Sugishita T, Ochiai T, Yanagisawa N, Nakata Y, Imai M. Randomized controlled trial on the efficacy of forest walking compared to urban walking in enhancing mucosal immunity. *Sci Rep*. 2025;15:3272.
4. Katayama R, Oka A, Ochiai H. Background factors for postoperative eyebrow descent in blepharoptosis: A retrospective case-control study of 93 patients. *J Plast Reconstr Aesthet Surg*. 2025;102:20-6.
5. Uchida M, Oka A, Watanabe S, Ochiai H. Tracheal reconstruction with a clavicle-attached sternocleidomastoid muscle flap tolerant to positive pressure ventilation. *Plast Reconstr Surg Glob Open*. 2025;13:e6501.
6. 高山範理, 木俣知大, 落合博子, 木村理砂, 酒井健一, 天野亮. 地域の森林空間を活用したヘルスツアーガが心身の健康・満足感等にあたえる効果とその持続性. 「森林サービス産業」モデル地域・富士宮市猪之頭区調査結果(2021年度). *日林誌* 2024;106:13-24.

## 【著 書】

1. Ochiai H, Imai M, Li Q, Takase Y, Ochiai T. The role of certified physicians in forest medicine of INFOM in Japan. C. Gallis. *Forests for Public Health*; UK, Cambridge Scholars Publishing, 2024:158-82.

## 【学会・研究会発表】

1. Ochiai H. The profound learning experiences for children through forest therapy. 6th International Congress ISFT, Lithuania, 2024.9.19.
2. Ochiai H, Tonegawa A, Yunoki S, Oka A, Watanabe S. Development of artificial dermis for prevention of scar contracture and favorable wound healing. *Plastic Surgery The Meeting 2024*, San Diego, 2024.9.28.
3. Ochiai H, Oka A, Watanabe S, Uchida M, Shimizu R: Factors Influencing Early Postoperative Swelling After Ptosis Surgery. *The Aesthetic & Antiaging Tokyo 2024*, Tokyo, 2024.10.17.
4. 志水里瑛子, 落合博子, 渡部紫秀, 岡愛子. 上眼瞼の腫脹を主訴に発見された多型腺腫の2例. 第48回慶應義塾大学形成外科同門会学術集会, 東京 (Web), 2024.1.27.
5. 志水里瑛子, 落合博子, 渡部紫秀, 岡愛子. 上眼瞼に発生した多形腺腫の2例. 第67回日本形成外科学会総会・学術集会, 神戸, 2024.4.11.

6. 岡愛子, 落合博子, 渡部紫秀, 志水里瑛子. 腹腔鏡術後に生じた臍部ポートサイトヘルニア. 第 67 回日本形成外科学会総会・学術集会, 神戸, 2024. 4. 12.
7. 落合博子, 岡愛子, 渡部紫秀, 志水里瑛子. 眼瞼下垂症手術後早期の腫脹を左右する因子の検索. 第 67 回日本形成外科学会総会・学術集会, 神戸, 2024. 4. 12.
8. 内田真由佳, 落合博子, 岡愛子, 渡部紫秀. 頭部に生じたらせん線種由来悪性腫瘍の一例. 関東形成外科学会第 307 回東京地方会, 東京, 2024. 7. 20.
9. 渡部紫秀, 岡愛子, 内田真由佳, 落合博子. 乳房再建におけるタモキシフェンクエン酸塩の血栓形成リスクと周術期管理についての検討. 第 49 回慶應義塾大学形成外科同門会学術集会, 東京 (Web), 2025. 1. 25.
10. 渡部紫秀, 岡愛子, 内田真由佳, 落合博子. シンポジウム 東京医療センター形成外科における性別違和治療の取り組み. 日本 GI(性別不合)学会 第 26 回研究大会・総会, 東京, 2024. 3. 16.

### 【講 演】

1. Ochiai H. The benefits of forest therapy. Forest Medicine Seminar 2023, Tokyo, 2024. 3. 17.
2. Ochiai H. The potential of forest therapy for health benefits and children's learning. 4th International Conference on Social Neuroscience in Ecologically Valid Conditions: from academic studies to applications, Moscow, 2024. 11. 22.
3. 落合博子. 未来への種：森林が育むこどもたちの成長. 森林セラピーフォーラム 2024 (Web) 2024. 2. 29.
4. 落合博子. 森林空間活用による健康効果. 森林医学セミナー2023, 東京, 2024. 3. 10.
5. 落合博子. 進化する森林浴～私たちを癒し、健康に導く自然の力を活用しよう. 令和 5 年度森林浴ガイドの会活動 10 周年記念講演会, 佐賀, 2024. 3. 12.
6. 落合博子. 森林セラピーの基礎知識. 第 1 回森林浴ガイド育成講座, 佐賀, 2024. 8. 18.
7. 落合博子. 褥瘡ケアの今～最新の治療法と予防策を知ろう. 脊髄損傷者の褥瘡の治療と予防に関する研修. 脊髄損傷者連合会, 兵庫, 2024. 12. 15.

### 【その他】

1. 落合博子. 森林保養活動をとおした生活習慣の改善・行動変容. へるすあっぷ 21 6 月号, 法研, 2024;476:25.
2. 落合博子. 抗加齢医学会みんなで繋がろう engage コラム. 2024. 6. 11.
3. 落合博子. 森林保養活動による 1 次予防. へるすあっぷ 21 9 月号. 法研, 2024;479:25.
4. 落合博子. MEGUMI さん、キレイはこれでつくれますか？ 週刊文春 11. 7 発売号: 東京, 文藝春秋, 2024. 10. 31. 119-21.
5. 落合博子. リレーエッセー「マルチが面白い」 第 58 号関東良陵だより, 2024. 11. 1.
6. 落合博子. Empowering Health through Lifestyle Medicine (座長) 第 29 回国際個別化医療学会学術集会, 東京, 2024. 11. 17.
7. 落合博子. 意外と知らないビタミンウソ知識. 女性セブン 1. 1 発売号: 東京, 小学館, 2024. 12. 12. 73-6.

# 脳神経外科

---

## 【原 著】

1. Inamasu J, Akiyama T, Akaji K, Inaba M, Nishimoto M, Kojima A, Terao S, Hayashi T, Mizutani K, Toda M. Aneurysmal subarachnoid hemorrhage occurring during sleep: Clinical characteristics and risk factors. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 2024;33:107591.
2. Kanemura Y, Yamamoto A, Katsuma A, Fukusumi H, Shofuda T, Kanematsu D, Handa Y, Sumida M, Yoshioka E, Mine Y, Yamaguchi R, Okada M, Igarashi M, Sekino T, Shirao T, Nakamura M, Okano H. Human-induced pluripotent stem cell-derived neural progenitor cells showed neuronal differentiation, neurite extension, and formation of synaptic structures in rodent ischemic stroke brains. *Cells.* 2024;13:671.
3. Yamamoto T, Watabe T, Yamashiro S, Tokushige K, Nakajima N, Arakawa Y, Mine Y. Safety of endoscopic surgery for spontaneous intracerebral hemorrhage in the registry of intracerebral hemorrhage treated by endoscopic hematoma evacuation in Japan. *World Neurosurg.* 2024;189:e370-9.
4. 田伏将尚. 初診時出血源不明の SAH と判断した lateral spinal artery の 1 例. *脳卒中* 2024;46:429-36.
5. 武藤淳, 峯裕, 廣瀬雄一. 脳脊髄腫瘍性病変の手術におけるインドシアニングリーン蛍光染色法の活用. *脳神経外科* 2025;53:308-16.

## 【学会・研究会発表】

1. 峯裕. 3 D 外視鏡を用いた脳神経外科手術-血管障害から腫瘍まで. 第 49 回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 2024. 6. 7.
2. 峯裕, 武藤淳, 中川祐, 林拓郎, 各務宏, 稲葉真. 脳血管障害に対する 3 D 外視鏡手術の現在と適応と問題点. 第 33 回脳神経外科手術と機器学会, 東京, 2024. 7. 3.
3. 峯裕, 中川祐, 田伏将尚, 各務宏, 稲葉真, 林拓郎. コードレスモニターシステムは脳神経外科手術において有用である. 第 33 回脳神経外科手術と機器学会, 東京, 2024. 7. 3.
4. 峯裕, 武藤淳, 中川祐, 各務宏, 稲葉真, 林拓郎. 3 D simulation, navigation, multiscopic surgery は安全で根治性の高い頭蓋底動脈瘤治療に寄与する. 第 36 回日本頭蓋底外科学会, 東京, 2024. 7. 5.
5. 峯裕, 武藤淳, 中川祐, 各務宏, 稲葉真, 林拓郎. 3 D 外視鏡による副王鏡下手術は頭蓋底手術の根治性と低侵襲性を高めうる. 第 36 回日本頭蓋底外科学会, 東京, 2024. 7. 5.
6. 峯裕. 3 D 外視鏡の脳神経外科手術への応用: 脳腫瘍・脳血管障害からの未来の手術まで. 第 11 回 Neurosurgery Update in Hiroshima, 広島, 2024. 7. 27.
7. 林拓郎. 脳神経外科膝下におけるフィコンパ静注の使いどころ. 城南てんかん診療セミナー, 東京, 2024. 9. 5.

8. 峯裕, 武藤淳, 中川祐, 林拓郎, 各務宏, 稲葉真. 血管内治療時代の 3 D 外視鏡による脳動脈瘤直達術. 第 83 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, 2024. 10. 27.
9. 峯裕, 中川祐, 田伏将尚, 武藤淳, 各務宏, 稲葉真, 林拓郎. コードレスモニターシステムは鏡視下モニター手術において有用である. 第 31 回一般社団法人日本神経内視鏡学会総会, 東京, 2024. 11. 8.
10. 林拓郎. セミナー 5 外視鏡と内視鏡を組合わせたくも膜下出血の手術と周術期管理. 第 31 回一般社団法人日本神経内視鏡学会総会, 東京, 2024. 11. 8.
11. 林拓郎, 田伏将尚, 福本洋晃, 利光恵利子, 波多野まみ, 峯裕. 神経内視鏡下生検を行った大型脳室内腫瘍の一例. 第 31 回一般社団法人日本神経内視鏡学会総会, 東京, 2024. 11. 8.
12. 峯裕, 武藤淳, 中川祐, 林拓郎, 各務宏, 稲葉真. 3 D 外視鏡と内視鏡による脳血管内治療時代の脳動脈瘤直達術. 第 31 回一般社団法人日本神経内視鏡学会総会, 東京, 2024. 11. 8.
13. 小島光, 田伏将尚, 利光恵利子, 峯裕, 林拓郎. 大腿動脈止血デバイス使用後、穿刺部出血合併症を認めた 3 例. 第 155 回日本脳神経外科学会関東支部学術集会, 東京, 2024. 12. 14.
14. 小島光, 田伏将尚, 利光恵利子, 峯裕, 林拓郎. 内頸動脈閉塞に対する血栓回収後、遅発性くも膜下血腫を伴う血豆状動脈瘤が生じた 1 例. 第 27 回日本脳神経血管藍治療学会関東地方学術集会, 東京, 2025. 2. 1.

### 【講 演】

1. 田伏将尚. 危険な頭痛の鑑別. 玉川医師会内科医会学術講演会, 東京, 2025. 11. 27.
2. 林拓郎. 脳卒中におけるフィコンパ点滴静注の使いどころ. 東京城南脳神経外科疾患マネジメントセミナー, 東京, 2025. 2. 12.

## 呼吸器外科

---

### 【原 著】

1. Yamauchi Y, Sato M, Iwata T, Endo M, Ikeda N, Hashimoto H, Hato T, Suzuki H, Matsuguma H, Shintani Y, Kondo H, Oyama T, Azuma Y, Iida T, Sakakura N, Mun M, Asakura K, Ohtsuka T, Uehara H, Sakao Y. Survival after lung metastasectomy from urothelial carcinoma: A multi-institutional database study. *Cancers*. 2024;16: 3333.
2. 大竹宗太郎, 福富寿典, 小山孝彦. 術前に神経原性腫瘍が疑われた後縦隔デスマトイド腫瘍の1例. *胸部外科* 2024;77:384-7.
3. 堀口寿里安, 大竹宗太郎, 福富寿典, 小山孝彦. 中縦隔発生脱分化型脂肪肉腫の1切除例. *日本呼吸器外科学会雑誌*. 2024;38:439-45.

### 【学 会】

1. 大竹宗太郎, 福富寿典, 小山孝彦. 術前に神経原性腫瘍が疑われた後縦隔デスマトイド腫瘍の1例. 第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 大阪, 2024.6.27.
2. 大竹宗太郎, 福富寿典, 小山孝彦. 隣接肺葉に浸潤した肺癌手術症例の検討. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 2024.11.3.

# 心臓血管外科

---

## 【学会・研究会発表】

1. 黒田智之, 大迫茂登彦, 吉武秀一郎, 青木瑞智子. 多発外傷を合併する大動脈損傷の治療. 第 52 回日本血管外科学会, 別府, 2024. 5. 30.
2. 吉武秀一郎, 大迫茂登彦, 黒田智也. 外傷性が疑われた解離性腕頭動脈流の一例. 第 35 回日本血管外科学会, 別府, 2024. 5. 31.
3. 大迫茂登彦, 吉武秀一郎, 黒田智也. 僧帽弁形成術式決定における新しい試み. 第 55 回日本心臓血管外科学会, 山口, 2025. 2. 20.
4. 大迫茂登彦, 吉武秀一郎, 田邊由理子. 僧帽弁形成術における詳細術式決定の手段について. 第 35 回日本脈管学会, 長野, 2025. 1. 16.

# 皮膚科

---

## 【論 文】

1. 矢富良寛, 雪野祐莉子, 小田俊輔, 西堀由喜子, 白石淳一, 吉田哲也. 後頭部に発生した顆粒細胞腫の1例. 皮膚科の臨床 2024;66:642-4.

## 【学会・研究会発表】

1. 辻綱氣, 伏間江貴之, 小川夕貴, 雪野祐莉子, 白石淳一, 吉田哲也. 病理組織学的に脂腺母斑様構造を混じており非特異的な臨床像を呈した耳前部悪性黒色腫の1例. 第123回日本皮膚科学会総会, 京都, 2024, 6. 6.
2. 山田いづみ, 伏間江貴之, 小川夕貴, 雪野祐莉子, 西堀由喜子, 吉田哲也, 前島新史. 両側耳介後面に乳頭腫局面を形成したコステロ症候群の1例. 第910回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2024, 10. 19.
3. 雪野祐莉子, 伏間江貴之, 山田いづみ, 小川夕貴, 吉田哲也, 白石淳一. 左臀部の巨大粉瘤より発生した有棘細胞癌の1例. 第22回世田谷区医師会医学会, 東京, 2024, 12. 7.
4. 小川夕貴, 伏間江貴之, 山田いづみ, 雪野祐莉子, 吉田哲也, 村田有也. 進行期乳房外パジェット病の1例. 第22回世田谷区医師会医学会, 東京, 2024, 12. 7.

## 【講 演】

1. 伏間江貴之. 最適な乾癬治療を届ける為に. 城南エリア乾癬治療フォーラム, 東京, 2024. 5. 29.
2. 伏間江貴之. 実臨床における最適なバイオ選択. Psoriasis Seminar 2024, 東京, 2024. 7. 12.
3. 伏間江貴之. Psoriatic disease の概念から早期治療の重要性を考える. SOTYKTU WEB Seminar, 東京, 2024. 11. 7.
4. 伏間江貴之. 全身性疾患としての乾癬～早期治療について考える. 乾癬治療における病診連携セミナー, 東京, 2024. 11. 20.
5. 伏間江貴之. アトピー性皮膚炎治療のこれから～アドトラーザの使いどころ. 第157回杉並区医師会皮膚科医学術講演会 (Hybrid), 東京, 2025. 2. 25.

## 泌尿器科

---

### 【学会・研究会発表】

1. 松丸右京, 西山徹, 矢木康人, 服部盛也, 中村憲, 金子雄太, 松尾智誠, 松崎裕宜, 門間哲雄. MRI-超音波融合画像ガイド下前立腺針生検の初期経験. 第 22 回世田谷区医師会医学会, 東京, 2024. 12. 7.
2. 三浦数馬, 金子雄太. 腎盂癌に対してエンホルツマブ・ベドチン投与中に可逆性後白質脳症症候群を発症した一例. 第 137 回日本泌尿器科学会沖縄地方会総会, 沖縄, 2025. 2. 1.
3. 松丸右京, 門間哲雄, 松崎裕宜, 三浦数馬, 松尾智誠, 金子雄太, 中村憲, 服部盛也, 矢木康人, 西山徹. MRI-超音波融合画像ガイド下前立腺針生検の初期経験. 第 137 回日本泌尿器科学会沖縄地方会総会, 沖縄, 2025. 2. 1.

# 産婦人科

---

## 【論 文】

1. Suzuki W, Ietani K, Makabe T, Oki S, Ohno A, Mikami Y, Yamashita H. Prognostic outcome of cervical laser ablation using a holmium yttrium-aluminumgarnet (Ho:YAG) laser for the treatment of cervical intraepitelial neoplasia: A single center retrospective study. *Gynecol Oncol Rep.* 2024;53:101405.
2. Makabe T, Yamagami W, Takahashi F, Tokunaga H, Yamamoto E, Yokoyama Y, Yoshino K, Kawana K, Nagase S. Detailed report on the clinico pathological factors of patients with endometrial cancer in Japan: a JSOG gynecologic tumor registry-based study. *J Gynecol Oncol.* 2024;35:e54.
3. 高橋沙里, 家谷佳奈, 真鍋悠歌, 今井愛理, 小林朋代, 鈴木涉, 真壁健, 大木慎也, 大野暁子, 三上佳子, 山下博. BRCA2 病的バリアント陽性であり両側付属器摘出術後 25 年で発症した原発性腹膜癌の 1 例. *東京産科婦人科学会会誌* 2024;73:541-5.
4. 小林朋代, 大木慎也, 真鍋悠歌, 今井愛里, 鈴木涉, 家谷佳奈, 真壁健, 栗原みづき, 大野暁子, 三上佳子, 山下博. 子宮体癌に対するロボット支援下手術中に偶発的に発見されたメッケル憩室の 1 例. *東京産科婦人科学会会誌* 2024;73:638-43.
5. 石原瑠子, 大木慎也, 真鍋悠歌, 今井愛理, 小林朋代, 鈴木涉, 真壁健, 大野暁子, 三上佳子, 山下博. 卵膜上を走行する臍帶動脈の破綻により血性羊水を呈し、新生児重症貧血をきたした 1 例. *東京産科婦人科学会会誌* 2024;73:374-8.

## 【学会・研究会発表】

1. 石原瑠子, 大野暁子, 岩本真乃, 木谷恵里加, 上田波奈, 高橋紗里, 真鍋悠歌, 小林朋代, 家谷佳奈, 真壁健, 栗原みづき, 三上佳子, 山下博. 当院でのロボット支援下手術における合併症の後方視的検討. 第 64 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 東京, 2024. 9. 12-14.
2. 石原瑠子, 宋吉和, 井上美帆, 山口恵吾, 西尾南紗, 雪本めぐみ, 小林千絵, 松島美穂, 田嶋敦, 山下博, 谷垣伸治, 小林陽一. 二絨毛膜二羊膜性双胎一児子宮内胎児死亡例に PRES を呈した一例. 第 147 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会, 東京, 2024. 6. 15-16.
3. 上田波奈, 松井友哉, 松田理沙, 西尾浩, 山上亘. 子宮頸癌に対する広汎子宮頸部摘出後の卵巣卵管膿瘍に対し腹腔鏡下手術を施行した症例の検討. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2024. 12. 5-7.
4. 高橋沙里, 家谷佳奈, 真鍋悠歌, 今井愛理, 小林朋代, 鈴木涉, 真壁健, 大木慎也, 大野暁子, 三上佳子, 山下博. BRCA2 病的バリアント陽性であり両側付属器摘出術後 25 年で発症した原発性腹膜癌の 1 例. 第 408 回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2024. 2. 24.
5. 木谷恵里加, 岩本真乃, 木谷恵里加, 石原瑠子, 上田波奈, 高橋紗里, 真鍋悠歌, 小林朋代, 家谷佳奈, 真壁健, 栗原みづき, 山下博. 反復する腹膜炎を伴う悪性腹膜中皮腫

の 1 例. 第 411 回東京産科婦人科学会例会並びに第 48 回東京産婦人科医会との合同研修会, 東京, 2024. 12. 7.

6. 大野暁子, 岩本真乃, 木谷恵里加, 石原瑠子, 上田波奈, 高橋紗里, 真鍋悠歌, 小林朋代, 家谷佳奈, 真壁健, 栗原みづき, 山下博. 当院での進行・再発子宮体癌に対するレンバチニブ・ペムブロリズマブ併用療法の使用経験. 第 411 回東京産科婦人科学会例会・第 48 回東京産婦人科医会との合同研修会, 東京, 2024. 12. 7.
7. 大木慎也, 石原瑠子, 上田波奈, 高橋紗里, 真鍋悠歌, 小林朋代, 家谷佳奈, 真壁健, 栗原みづき, 大野暁子, 三上佳子, 山下博. 婦人科悪性腫瘍患者に対する頭皮冷却装置 (PAXMAN) を用いた抗がん剤治療症例の検討. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2024. 10. 24-26.
8. 大木慎也, 石原瑠子, 上田波奈, 高橋紗里, 真鍋悠歌, 小林朋代, 家谷佳奈, 真壁健, 栗原みづき, 大野暁子, 三上佳子, 山下博. 当院で経験した骨盤臓器脱に対する自己着脱型キューブペッサリー使用症例の検討. 第 39 回日本女性医学学会学術集会, 宇都宮, 2024. 11. 9-10.
9. 小林朋代, 大木慎也, 真鍋悠歌, 今井愛里, 鈴木涉, 家谷佳奈, 真壁健, 栗原みづき, 大野暁子, 三上佳子, 山下博. 子宮体癌に対するロボット支援下手術中に偶発的に発見されたメッケル憩室の 1 例. 第 408 回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2024. 2. 24.

## 【論 文】

1. Fujinami-Yokokawa Y, Joo K, Liu X, Tsunoda K, Kondo M, Ahn SJ, Robson AG, Naka I, Ohashi J, Li H, Yang L, Arno G, Pontikos N, Park KH, Michaelides M, Tachimori H, Miyata H, Sui R, Woo SJ, Fujinami K; East Asia Inherited Retinal Disease Society Study Group\*. Distinct clinical effects of two RP1L1 hotspots in East Asian patients with occult macular dystrophy (Miyake disease): EAOMD Report 4. *Invest Ophthalmol Vis Sci.* 2024;65:41.
2. Georgiou M, Robson AG, Fujinami K, de Guimaraes TAC, Fujinami-Yokokawa Y, Daich Varela M, Pontikos N, Kalitzeos A, Mahroo OA, Webster AR, Michaelides M. Phenotyping and genotyping inherited retinal diseases: molecular genetics, clinical and imaging features, and therapeutics of macular dystrophies, cone and cone-rod dystrophies, rod-cone dystrophies, Leber congenital amaurosis, and cone dysfunction syndromes. *Prog Retin Eye Res.* 2024;100:101244.
3. Laich Y, Georgiou M, Fujinami K, Daich Varela M, Fujinami-Yokokawa Y, Hashem SA, Cabral de Guimaraes TA, Mahroo OA, Webster AR, Michaelides M. Best vitelliform macular dystrophy natural history study report 1: clinical features and genetic findings. *Ophthalmology.* 2024;131:845-54.
4. Hashem SA, Georgiou M, Fujinami-Yokokawa Y, Laich Y, Daich Varela M, de Guimaraes TAC, Ali N, Mahroo OA, Webster AR, Fujinami K, Michaelides M. Genetics, clinical characteristics, and natural history of PDE6B-associated retinal dystrophy. *Am J Ophthalmol.* 2024;263:1-10.
5. Katta M, de Guimaraes TAC, Fujinami-Yokokawa Y, Fujinami K, Georgiou M, Mahroo OA, Webster AR, Michaelides M. Congenital stationary night blindness: structure, function and genotype-phenotype correlations in a cohort of 122 patients. *Ophthalmol Retina.* 2024;8:932-41.
6. Sen S, Fabozzi L, Fujinami K, Fujinami-Yokokawa YU, Wright GA, Webster A, Mahroo O, Robson AG, Georgiou M, Michaelides M. IQCB1 (NPHP5)-retinopathy: clinical and genetic characterization and natural history. *Am J Ophthalmol.* 2024;264:205-15.
7. Hitti-Malin RJ, Panneman DM, Corradi Z, Boonen EGM, Astuti G, Dhaenens CM, Stöhr H, Weber BHF, Sharon D, Banin E, Karali M, Banfi S, Ben-Yosef T, Glavač D, Farrar GJ, Ayuso C, Liskova P, Dudakova L, Vajter M, Oldak M, Szaflak JP, Matynia A, Gorin MB, Kämpjärvi K, Bauwens M, De Baere E, Hoyng CB, Li CHZ, Klaver CCW, Inglehearn CF, Fujinami K, Rivolta C, Allikmets R, Zernant J, Lee W, Podhajcer OL, Fakin A, Sajovic J, AlTalbishi A, Valeina S, Taurina G, Vincent AL, Roberts L, Ramesar R, Sartor G, Luppi E, Downes SM, van den Born LI, McLaren TL, De Roach JN, Lamey TM, Thompson JA, Chen FK, Tracewska AM, Kamakari S,

- Sallum JMF, Bolz HJ, Kayserili H, Roosing S, Cremers FPM. Towards uncovering the role of incomplete penetrance in maculopathies through sequencing of 105 disease-associated genes. *Biomolecules*. 2024;14:367.
8. Fujinami K, Nishiguchi KM, Oishi A, Akiyama M, Ikeda Y; Research Group on Rare, Intractable Diseases (Ministry of Health, Labour, Welfare of Japan). *Jpn J Ophthalmol*. 2024;68:389-99.
  9. Hashem SA, Georgiou M, Wright G, Fujinami-Yokokawa Y, Laich Y, Daich Varela M, de Guimaraes TAC, Mahroo OA, Webster AR, Fujinami K, Michaelides M. PDE6A-associated retinitis pigmentosa, clinical characteristics, genetics and natural history. *Ophthalmol Retina*. 2025;9:278-87.
  10. Wong WM, Tham YC, Simunovic MP, Chen FK, Luu CD, Chen H, Jin ZB, Shen RJ, Li S, Sui R, Zhao C, Yang L, Bhende M, Raman R, Sen P, Ghosh A, Poornachandra B, Sasongko MB, Arianti A, Chia V, Mangunsong CO, Manurung F, Fujinami K, Ikeda H, Woo SJ, Kim SJ, Mohd Khialdin S, Othman O, Bastion MC, Kamalden AT, Lott PWP, Fong K, Shunmugam M, Lim A, Thapa R, Pradhan E, Rajkarnikar SP, Adhikari S, Ibañez BMBI, Koh A, Chan CMM, Fenner BJ, Tan TE, Laude A, Ngo WK, Holder GE, Su X, Chen TC, Wang NK, Kang EY, Huang CH, Surawatsatien N, Pisuchpen P, Sujirakul T, Kumaramanickavel G, Singh M, Leroy B, Michaelides M, Cheng CY, Chen LJ, Chan HW. Rationale and protocol paper for the Asia Pacific network for inherited eye diseases. *Asia Pac J Ophthalmol*. 2024;13:100030.
  11. Wong WM, Tham YC, Ayton LN, Britten-Jones AC, Edwards TL, Grigg J, Simunovic MP, Chen FK, Jin ZB, Shen RJ, Sui R, Yang L, Zhao C, Chen H, Li S, Ding X, Bhende M, Raman R, Sen P, Poornachandra B, Chia V, Manurung F, Sasongko MB, Ikeda H, Fujinami K, Woo SJ, Kim SJ, Bastion MC, Kamalden AT, Lott PP, Fong K, Shunmugam M, Lim A, Thapa R, Ibañez BMB, Koh A, Holder GE, Su X, Chan CM, Fenner BJ, Laude A, Ngo WK, Chen TC, Wang NK, Kang EY, Surawatsatien N, Pisuchpen P, Sujirakul T, Wongchaisuwat N, Apivatthakakul A, Kumaramanickavel G, Leroy B, Michaelides M, Pontikos N, Cheng CY, Pang CP, Chen LJ, Chan HW. Practice patterns and challenges in managing inherited retinal diseases across Asia-Pacific: a survey from the APIED network. *Asia Pac J Ophthalmol*. 2024;13:100098.
  12. Xu Y, Liu X, Wu N, Long Y, Ren J, Wang Y, Su X, Liu Z, Fujinami-Yokokawa Y, Fujinami K, Chen F, Meng X, Liu Y. Investigating microperimetric features in Bietti Crystalline dystrophy patients: a cross-sectional longitudinal study in a large cohort. *Invest Ophthalmol Vis Sci*. 2024;65:27.
  13. Woof WA, de Guimaraes TAC, Al-Khuzaei S, Daich Varela M, Sen S, Bagga P, Mendes B, Shah M, Burke P, Parry D, Lin S, Naik G, Ghoshal B, Liefers BJ, Fu DJ, Georgiou M, Nguyen Q, Sousa da Silva A, Liu Y, Fujinami-Yokokawa Y, Sumodhee D, Patel P, Furman J, Moghul I, Moosajee M, Sallum J, De Silva SR, Lorenz B, Holz FG, Fujinami K, Webster AR, Mahroo OA, Downes SM, Madhusudhan

- S, Balaskas K, Michaelides M, Pontikos N. Quantification of fundus autofluorescence features in a molecularly characterized cohort of >3500 patients with inherited retinal disease from the United Kingdom. *Ophthalmol Sci.* 2024;5:100652.
14. Laich Y, Georgiou M, Fujinami K, Varela MD, Fujinami-Yokokawa Y, Hashem SA, de Guimaraes TAC, Mahroo OA, Webster AR, Michaelides M. Best Vitelliform macular dystrophy natural history study report 2: Fundus autofluorescence and optical coherence tomography. *Ophthalmol Retina.* 2025:S2468-6530.
  15. Miura M, Makita S, Yasuno Y, Azuma S, Mino T, Hayashi T, Kameya S, Tsunoda K. Multimodal imaging analysis of autosomal recessive bestrophinopathy: case series. *Medicine.* 2024;103:e38853.
  16. Inooka T, Hayashi T, Tsunoda K, Kuniyoshi K, Kondo H, Mizobuchi K, Suga A, Iwata T, Yoshitake K, Kondo M, Goto K, Ota J, Kominami T, Nishiguchi KM, Ueno S. Genetic etiology and clinical features of achromatopsia in Japan. *Retina.* 2024;44:1836-44.
  17. Mizobuchi K, Hayashi T, Tanaka K, Kuniyoshi K, Murakami Y, Nakamura N, Torii K, Mizota A, Sakai D, Maeda A, Kominami T, Ueno S, Kusaka S, Nishiguchi KM, Ikeda Y, Kondo M, Tsunoda K, Hotta Y, Nakano T. Genetic and clinical features of ABCA4-associated retinopathy in a Japanese nationwide cohort. *Am J Ophthalmol.* 2024;264:36-43.
  18. Ueno S, Hayashi T, Tsunoda K, Aoki T, Kondo M. Nationwide epidemiologic survey on incidence of macular dystrophy in Japan. *Jpn J Ophthalmol.* 2024;68:167-73.
  19. Nakamura N, Honjo M, Yamagishi-Kimura R, Sakata R, Watanabe S, Aihara M. Neuroprotective effect of omidenepag on excitotoxic retinal ganglion cell death regulating COX-2-EP2-cAMP-PKA/Epac pathway via neuron-glia interaction. *Neuroscience.* 2024;553:145-59.
  20. Xue CC, Sim R, Chee ML, Yu M, Wang YX, Rim TH, Hyung PK, Woong KS, Song SJ, Nangia V, Panda-Jonas S, Wang NL, Hao J, Zhang Q, Cao K, Sasaki M, Harada S, Toru T, Ryo K, Raman R, Surya J, Khan R, Bikbov M, Wong IY, Cheung CMG, Jonas JB, Cheng CY, Tham YC. Is kidney function associated with age-related macular degeneration? Findings from the Asian Eye Epidemiology Consortium. *Ophthalmology.* 2024;131:692-9.
  21. Tsujinaka H, Imoto S, Ueda T, Wakuta M, Yamada Y, Sugisawa T, Murao F, Hirano T, Yoshida S, Kato K, Sasaki M, Matsumoto R, Ishigooka G, Ogata N. Incidence and prognosis of taxane-induced macular edema: a retrospective study from the Japan Clinical REtina Study Group (J-CREST). *Sci Rep.* 2024;14:19530.
  22. Shimura M, Hirano T, Tsuiki E, Takamura Y, Morizane Y, Akiyama K, Yamamoto K, Hikichi T, Koto T, Kinoshita T, Kusuvara S, Yoshida S, Sakamoto S, Kimura K, Sugimoto M, Kida T, Mitamura Y, Takatsuna Y, Washio N, Osaka R, Ueda T, Minamoto M, Kogo J, Okamoto F, Enaida H, Sakanishi Y, Nagaoka T, Gomi F,

- Sasaki M, Terasaki H, Iwase T, Tatsumi T, Nishi K, Shinoda K, Ueda S, Ueda-Consolvo T, Nakashizuka H, Murata T, Kitano S, Sakamoto T; J-CREST STREAT-DME 2 Study Group. Alteration of treatment choices and the visual prognosis for diabetic macular edema in the era of anti-VEGF drugs: Analysis of the STREAT-DME 2 study. *Retina*. 2025;45:335-44.
23. Xie SC, Tan AH, Fung A, Pecaku A, Akiyama K, Tao BK et al. Social media for international surgical skills transfer: using pneumatic retinopexy as a model. *Can J Ophthalmol* (In press) 2025
24. Goto S, Maeda N, Ohnuma K, Lawu T, Ogawa K, Sugiyama S, Matsumaru M, Noda T. Impact of segmented optical axial length on the performance of intraocular lens power calculation formulas. *J Cataract Refract Surg*. 2024;50:492-7.
25. Yokogawa T, Mori Y, Torii H, Goto S, Hasegawa Y, Kojima T, Kamiya K, Shiba T, Miyata K. Accuracy of intraocular lens power formulas in eyes with keratoconus: Multicenter study in Japan. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol*. 2024;262:1839-45.
26. 前田亜希子, 横田聰, 浦川優作, 吉田晶子, 稲葉慧, 河合加奈子, 松崎光博, 酒井大輝, 田保和也, 木場みゆき, 山本翠, 許沢尚弘, 北畠将平, 前田忠郎, 万代道子, 村上遥香, 井上沙聰, 中村奈津子, 藤波芳, 山澤一樹, 角田和繁, 森貞直哉, 平見恭彦, 栗本康夫, 高橋政代. 遺伝性網膜ジストロフィにおける遺伝子パネル検査を用いた遺伝子診断の先進医療. *日本眼科学会雑誌* 2024;128:305-10.
27. 早川卓浩, 気賀沢一輝, 秋山邦彦, 角田和繁. 網膜疾患に転換性障害が重複した3症例. *日本眼科学会会誌* 2024;128:421-30,

## 【総 説】

1. 藤波芳. 遺伝性網膜疾患の遺伝相談. *眼科医の手引き*. 日本の眼科 2024;95:9
2. 藤波(横川)優, Onyango O, Arno G, Pontikos N, 藤波芳. 遺伝子治療. *臨床眼科* 2024; 78:184-9.
3. 藤波(横川)優, 藤波芳. 遺伝性網膜ジストロフィの遺伝子治療. *眼科* 2025;67:145-52.
4. 中村奈津子, 角田和繁, 遺伝性疾患を見逃さないためのポイント. *OCULISTA* 2024;138: 40-7.
5. 中村奈津子, 角田和繁. ERG の記録方法の実際: ISCEV プロトコール. *OCULISTA* 2024; 142:5-9.
6. 佐々木真理子. 糖尿病網膜症. 眼底症状を読み解く. *メディカルビュー* 2024; 45:4-5.
7. 佐々木真理子. 脂肪酸摂取と網膜疾患: 特集 生活習慣と眼の病気のビミョーな関係. *臨床眼科* 2024;78:1495-503.
8. 佐々木真理子. 加齢黄斑変性の疫学とリスク因子. 特集明日から実践! みんなの加齢黄斑変性診療 2025. *あたらしい眼科* 2025;42:3-10.
9. 秋山邦彦. Pneumatic retinopexy. *眼科手術* 2024;37:193-8.
10. 野田徹. 眼科手術顕微鏡の機構と特徴. *OCULISTA* 2024;133:27-38.

## 【著 書】

1. 佐々木真理子. 加齢黄斑変性. 今日の治療指針 2024 年版: 私はこう治療している, 医学書院, 2024:1570-1.

## 【学会・研究会発表】

1. Akiyama K, Fujinami K, Watanabe K, Noda T, Miyake Y, Tsunoda K. Influence of ILM peeling on macular function: Electrophysiological evaluation in eyes treated for macula-sparing retinal detachment. FUJIRETINA, 東京, 2024.3.22-24.
2. Fujinami K, Fujinami-Yokokawa Y, Suzuki Y, Farmer J, Tsunoda K. Dark-adapted threshold of full-field stimulus test in ultra-low vision patients with retinitis pigmentosa. Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual Meeting 2024, Seattle, USA, 2024.5.9.
3. Fujinami-Yokokawa Y, Suzuki Y, Farmer J, Shinoda K, Tsunoda K, Miyake Y, Fujinami K. Electrically evoked responses elicited by transcorneal electrical stimulation in patients with inherited retinal diseases. Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual Meeting 2024, Seattle, USA, 2024.5.9.
4. Akiyama K, Matsuki T, Watanabe K, Pecaku A, Naidu S, Muni RH. Expert Panel Discussion: Implementation of pneumatic retinopexy in the Japanese population: Influence on the outcomes and the practice pattern. 42nd Annual meeting of American Society of Retina Specialists Stockholm, Sweden 2024.7.18.
5. Fujinami K, Fujinami-Yokokawa Y, Suzuki Y, Farmer J, Tsunoda K. Full-field stimulus test in Ultra-low vision patients with retinitis pigmentos. The 61st INTERNATIONAL SOCIETY FOR CLINICAL ELECTROPHYSIOLOGY of Vision Symposium, Estérel, Canada, 2024.9.16-19.
6. Fujinami-Yokokawa Y, Suzuki Y, Farmer J, Shinoda K, Tsunoda K, Miyake Y, Fujinami K. Analysis of electrically evoked responses elicited by transcorneal electrical stimulation in patients with inherited retinal diseases. The 61st INTERNATIONAL SOCIETY FOR CLINICAL ELECTROPHYSIOLOGY of Vision Symposium, Estérel, Canada, 2024.9.16-19.
7. Akiyama K, Watanabe K, Matsuki T, Yajima J, Noda T. The influence of internal limiting membrane peeling on macular function Report 2: evaluation of macular sensitivity and visual field in eyes treated for macula-on retinal detachment Euretina 2024, Barcelona, Spain, 2024.9.19.
8. Akiyama K. Influence of ILM-peeling on macular function: evaluation in eyes treated for macula-sparing retinal detachment. Korea Retina Society Meeting, Seoul, Korea, 2024.12.13.
9. Itou A, Matsuki T, Akiyama K, Watanabe K, Noda T, Sasaki M. Switching to brolucizumab: one-year visual and morphological outcomes in nAMD. The 4th Asia Retina Congress (ARC). Seoul, Korea, 2024.12.14.

10. Akiyama K, Fujinami K, Watanabe K, Noda T, Miyake Y, Tsunoda K. Influence of ILM peeling on macular function: electrophysiological evaluation in eyes treated for macula-sparing retinal detachment. FujiRetina, Tokyo, 2025.3.29.
11. Goto S. IOL power calculation to reduce postop refractive error after phacovitrectomy. 33rd Annual Conference of Vitreo-Retinal Society-India. Assam, India, 2024.12.6.
12. 新美光, 渡辺健, 秋山邦彦, 松木考顕, 角田和繁, 野田徹. COVID-19 感染を契機に Acute macular neuroretinopathy を発症した一例. 日本眼科学会, 東京, 2024.4.18
13. 佐々木真理子, Can Can Xue, 川崎良, 原田成, 武林亭, Jost Jonas, Ching-Yu Cheng, Yih-Chung Tham. 腎機能は加齢黄斑変性と関連するか? アジア眼疾学コンソーシアム. 第128回日本眼科学会総会, 東京, 2024.4.20.
14. 角田和繁. 角膜ジストロフィーの遺伝子補充療法. 第30回日本遺伝子細胞治療学会学術集会, 横浜, 2024.7.18.
15. 松田紘幸, 川島弘彦, 藤波芳, 山澤一樹, 角田和繁. 若年/成人型ガラクトシリドースの電気生理学的所見. 第71回日本臨床視覚電気生理学会, 東京, 2024.10.12-13.
16. 藤波芳, 藤波(横川)優, Michalis Georgiou, Gavin Arno, Nikolas Pontikos, 山本素士, 小松佳代子, 前谷奈津紀, 角田和繁, Michel Michaelides. メンデル遺伝病の近視: RBP3 網膜症の一例. 第71回日本視覚電気生理学会, 東京, 2024.10.12.
17. 角田和繁. シンポジウム 全視野網膜電図(ERG)の有用性と課題: 視機能障害検出法の進歩と課題. 第78回日本臨床眼科学会, 京都, 2024.11.14-17.
18. 伊藤彩子, 松木考顕, 秋山邦彦, 渡辺健, 野田徹, 佐々木真理子. プロルシズマップへの薬剤切り替え: 加齢黄斑変性における1年経過. 第78回日本臨床眼科学会, 京都, 2024.11.14.
19. 橋爪健斗, 松木考顕, 矢島潤一郎, 秋山邦彦, 野田徹. 視野障害を主訴としトルコ鞍空洞症を伴う特発性頭蓋内圧亢進症と診断された1例. 第78回日本臨床眼科学会, 京都, 2024.11.15
20. 秋山邦彦, 山田裕子, 松木考顕, 渡辺健, 曾谷育之, 今井尚徳, 中村誠, 野田徹. Peumatic retinopexy における網膜非復位の因子. 第78回日本臨床眼科学会, 京都, 2024.11.17.
21. Itou A, Matsuki T, Akiyama K, Watanabe K, Noda T, Sasaki M. Switching to brolucizumab: one-year visual and morphological outcomes in nAMD. 第78回日本臨床眼科学会, 京都, 2024.11.14.
22. 角田和繁. 招待講演 Clinical Electrophysiology of Vision Symposium Fundus albipunctatus as a progressive disease with peripheral retinal atrophy. The 132nd Annual Meeting of Korean Ophthalmological Society in conjunction with APSOPRS, 韓国, 2024.11.29-12.1.
23. Akiyama K, Matsuki T, Watanabe K, Pecaku A, Naidu S. Muni RH Implementation of pneumatic retinopexy in the Japanese population. 第63回日本網膜硝子体学会, 大阪, 2024.12.6.

24. Goto S, Maeda N, Ohnuma K, Lawu T, Noda T. Comparison of two SS-OCT-based biometers: OA-2000 and ARGOS. 第 78 回日本臨床眼科学会, 京都, 2024.11.14-17.
25. 後藤聰. 異常眼軸長眼への白内障手術アプローチ. 第 13 回北陸 Crystal Meeting, 金沢, 2025.1.18.
26. 後藤聰. 教育セミナー8 手術に必要な屈折関連の知識: 度数計算の基本. 第 48 回日本眼科手術学会学術総会, 横浜, 2025.2.1.

## 【講 演】

1. Fujinami K. Application of visual electrodiagnosis for retinal gene therapy. The 61st INTERNATIONAL SOCIETY FOR CLINICAL ELECTROPHYSIOLOGY of Vision (ISCEV) Course, Estérel, Canada, 2024.9.16.
2. Fujinami K. Social implementation of gene therapy for inherited retinal dystrophy in Japan gene therapy for inherited retinal dystrophy. 15th International Collaborative Forum of Human Gene Therapy for Genetic Disease, Tokyo, 2025.1.24.
3. Fujinami K. Gene supplementation therapy for RPE65-retinopathy. Case Conference 1. The 4<sup>th</sup> FUJIRETINA, Tokyo, 2025.3.28.
4. Akiyama K. Long-standing retinal detachment with inferior breaks Webinar: Series 3, Episode 1: EURETINA Case Club: Pneumatic Retinopexy Case Night Webinar (Euretina) 2024.2.12.
5. Akiyama K. Extreme cases of pneumatic retinopexy. FujiRetina 2024, Tokyo, 2024.3.22.
6. Akiyama K. Principles and tips for removal of scleral buckles ASRS International Webinar 1 Webinar (American Society of Retina Specialists) 2024.4.26.
7. Akiyama K. Basic principles of clinical electrophysiological testing of vision 29th Postgraduate Course "Beneath Every Layer: Retina Basics and Diagnosis" Manila, Philippines (Web), 2024.5.11.
8. Akiyama K. Pneumatic retinopexy is beneficial in retinal detachment with a giant break even if it fails. E-Live: Complex and Challenging Cases Webinar (Retina World Congress) 2024.9.29.
9. Akiyama K. Influence of ILM peeling on macular function --electrophysiological evaluation in eyes treated for macula-sparing retinal detachment, 2024 Taiwan Retina Society Congress Taipei, Taiwan, 2024.10.27.
10. Akiyama K. Reassessment of roles of pneumatic retinopexy for RRD in the retinal detachment surgery (in Symposium "Current issues"), 17th Asia-Pacific Vitreo-retina Society Congress (APVRS), Singapore, 2024.11.23.
11. Akiyama K. Implementation of pneumatic retinopexy: basic criteria and beyond Asia Retina Congress Seoul, Korea, 2024.12.14.

12. Fujinami K, Akiyama K, Tsunoda K, Ito S, Seko N, Yamamoto S. Gene therapy for RPE65-retinopathy: interim analysis after 2 years of treatment. 優秀演題シンポジウム, 第 63 回日本網膜硝子体学会, 大阪, 2024. 12. 6.
13. 藤波芳. 難治性眼疾患の次世代治療戦略-アンメットニーズへの挑戦. 第 32 回眼科若手研究者の会, 東京, 2024. 04. 19.
14. 藤波芳. 網脈絡膜疾患の遺伝学的診断 後眼部疾患 網脈絡膜疾患・ぶどう膜炎: 診断のこつ. 第 128 回日本眼科学会総会, 東京, 2024. 4. 21.
15. 藤波芳. 遺伝性網膜ジストロフィ: 診断・検査・治療の社会実装. 第 9 回うつくしま眼科研究会, 福島, 2024. 7. 27.
16. 藤波芳. 遺伝子検査と遺伝子治療の最先端. 眼科臨床実践講座 2024, 東京, 2024. 8. 4.
17. 藤波芳. 黄斑ジストロフィ シンポジウム 10 視覚難病の予後向上を目指して. 第 78 回日本臨床眼科学会, 京都, 2024. 11. 16.
18. 藤波芳. 遺伝子治療薬 社会保険会議シンポジウム 網膜関連疾患治療薬の現状と未来. 第 78 回日本臨床眼科学会, 京都, 2024. 11. 16.
19. 藤波芳. レーベル先天盲の遺伝子治療 シンポジウム 8 小児眼科のサイエンス. 第 78 回日本臨床眼科学会, 京都, 2024. 11. 14.
20. 藤波芳. RPGR 関連網膜症に対する遺伝子補充治療 シンポジウム 5 網膜疾患に対する遺伝子治療の現状と未来. 第 63 回日本網膜硝子体学会, 大阪, 2024. 12. 6.
21. 角田和繁. 網膜阿ジストロフィの遺伝子治療. 第 17 回 NOOS, 大阪, 2024. 5. 23.
22. 角田和繁. RPE65 関連網膜ジストロフィに対する遺伝子補充治療. 第 67 回東京多摩地区眼科集談会, 東京, 2024. 10. 26.
23. 角田和繁. REE65 関連網膜ジストロフィに対する遺伝子補充治療. 兵庫県眼科医会・2 大学合同オープンカンファレンス, 兵庫, 2024. 12. 14.
24. 角田和繁, 患者の人生を変える誤診: 転換性障害について考えてみよう, 名古屋大学講演, 名古屋, 2025. 2. 28.
25. 秋山邦彦. Pneumatic retinopexy 方法と戦略 (教育セミナー 裂孔原性網膜剥離). 第 47 回日本眼科手術学会学術総会, 京都, 2024. 2. 3.
26. 秋山邦彦. Pneumatic retinopexy 基本と秘訣. OFF-JT seminar in Ophthalmology, 東京 (Web) 2024. 5. 30
27. 矢島潤一郎. 前眼部の診かた (角膜・白内障) 第 24 回 YOUS の会, 東京, 2024. 5. 31.
28. Akiyama K. Persistent fluid after pneumatic retinopexy Pneumatic Night Asia Toronto, Canada (Web) 2024. 6. 7.
29. 秋山邦彦. バビースモアップデート. 港・城南地区網膜疾患セミナー, 東京, 2024. 6. 11
30. 秋山邦彦. 最近のトピックス 網膜剥離と黄斑前膜. SENJU Ophthalmic Seminar in 二子玉川, 東京, 2024. 6. 27.
31. 矢島潤一郎. 緑内障の手術治療. SENJU Ophthalmic Seminar in 二子玉川, 東京, 2024. 6. 27.
32. 藤井祥太. 角結膜疾患の治療の実際 3 角膜の中庸を目指して. SENJU Ophthalmic Seminar in 二子玉川, 東京, 2024. 6. 27.

33. 秋山邦彦. Pneumatic retinopexy 基本と秘訣. 眼科@魅せ技 in 鹿児島, 鹿児島, 2024. 7. 5.
34. 矢島潤一郎. 新しい低侵襲緑内障手術. 第 16 回駒の会, 東京, 2024. 11. 28.
35. 川島弘彦. 遺伝性網膜外膜の現状. 第 16 回駒の会, 東京, 2024. 11. 28.
36. Akiyama K. Case selection: Standard and Extended Criteria: in instructional course: Pneumatic Retinopexy (Symposium Pneumatic retinopexy revisited). 第 63 回日本網膜硝子体学会, 大阪, 2024. 12. 6.
37. Akiyama K. Complications of Pneumatic Retinopexy: in instructional course: Pneumatic Retinopexy (Symposium Pneumatic retinopexy revisited). 第 63 回日本網膜硝子体学会, 大阪, 2024. 12. 6.
38. 野田徹. 眼内レンズの乱視矯正を考えよう. 第 60 回日本眼光学学会総会モーニングセミナー, 神戸, 2024. 6. 28.
39. 野田徹. ブルーフリーフィルターシステム. 第 60 回日本眼光学学会総会 60 周年記念企画 Cheer up! Clinicians meet optics scientists, 神戸, 2024. 8. 31.
40. 野田徹, 川守田拓志. 光学シミュレーションによる視機能予測. 日本白内障眼内レンズ屈折矯正学会総会・日本眼光学学会合同シンポジウム, 福岡, 2024. 9. 1.
41. 野田徹. 眼内レンズの光学特性の特徴と留意点. 第 22 回東北屈折矯正研究会, 盛岡, 2024. 9. 29.
42. 野田徹. 眼鏡処方の基本. 日本眼科医会主催 眼鏡処方講習会 2024. 東京, 2024. 10. 6.
43. 野田徹. 眼光学 TS2024 眼鏡処方に役立つ眼光学ポイント集. 第 7 回 眼光学チュートリアルセミナー2024, 東京, 2024. 10. 8-11. 7.
44. 野田徹, 眼鏡処方の基本事項-眼鏡処方に関する眼光学のしくみを理解する. 愛知県眼科医会第 4 回学術研修会 2025, 名古屋, 2025. 1. 25.
45. 伊藤彩子. ブロルシズマブのスイッチ症例と私のベオビュの使い方. South Tokyo Association of Retina 2025, 東京, 2025. 2. 21.

## 【論 文】

1. Namba K, Mutai H, Matsunaga T, Kaneko H. Structural basis for pathogenic variants of GJB2 and hearing levels of patients with hearing loss. *BMC Res Notes.* 2024;17:131.
2. Masano Y, Saegusa C, Ishikawa M, Matsunaga T, Okano H, Fujioka M. Generation of an induced pluripotent stem cell line (KEIUi008-A) from a hearing loss patient with an A1555G mutation in mitochondrial DNA. *Stem Cell Res.* 2024;78:103452.
3. Saegusa C, Mutai H, Saeki T, Matsuzaki S, Mizukoshi A, Kitajiri SI, Matsunaga T, Hosoya M, Okano H, Fujioka M. Generation of four induced pluripotent stem cell lines (KEIUi004-A, KEIUi005-A, KEIUi006-A, and KEIUi007-A) from patients with sensorineural hearing loss with mutation in EYA4 gene. *Stem Cell Res.* 2024;79:103489.
4. Shimanuki MN, Hosoya M, Nishiyama T, Wakabayashi T, Ueno M, Ozawa H, Mutai H, Nara K, Matsunaga T, Oishi N. Detailed characterization of auditory neuropathy in Perrault syndrome with TWNK variants. *Auris Nasus Larynx.* 2024;51:933-9.
5. Mutai H, Miya F, Nara K, Yamamoto N, Inoue S, Murakami H, Namba K, Shitara H, Minami S, Nakano A, Arimoto Y, Morimoto N, Kawasaki T, Wasano K, Fujioka M, Uchida Y, Kaga K, Yamazawa K, Kikkawa Y, Kosaki K, Tsunoda T, Matsunaga T. Genetic landscape in undiagnosed patients with syndromic hearing loss revealed by whole exome sequencing and phenotype similarity search. *Hum Genet.* 2025;144:93-112.
6. Tshering KC, DiStefano MT, Oza AM, Ajuyah P, Webb R, Edoh E, Broeren E, Ratliff J, Gitau V, Paris K, Aburyyan A, Alexander J, Albano V, Bai D, Booth KTA, Buonfiglio PI, Charfeddine C, Dalamón V, Castillo ID, Moreno-Pelayo MA, Duzkale H, Dorshorst B, Faridi R, Kenna M, Lewis MA, Luo M, Lu Y, Mkaouar R, Matsunaga T, Nara K, Pandya A, Redfield S, Roux I, Schimmenti LA, Schrauwen I, Shaaban S, Shen J, Vona B, Smith RJ, Rehm HL, Azaiez H, Abou Tayoun AN, Amr SS; ClinGen Hearing Loss Clinical Domain Working Group. ClinGen recuration of hearing loss-associated genes demonstrates significant changes in gene-disease validity over time. *Genet Med.* 2025;27:101392.
7. Sakata H, Hayashi K, Matsuyama R, Omata T, Kanou M, Yamana K, Kanzaki S. Association between the development of sensorineural hearing loss and blood NAD<sup>+</sup> levels. *J Clin Med Res.* 2024;16:519-26.
8. Oka A, Kanai K, Matsune S, Hosoya K, Komachi T, Murakami T, Okubo K, Hirano K, Suzuki I, Shimura T, Tokudome T, Kanzaki S, Wakabayash KI, Ozawa H, Okamoto Y, Kondo K, Nishijima H, Nishijima A, Okano M. Assessment of patient satisfaction

- with dupilumab for chronic rhinosinusitis with nasal polyps. *Allergy* 2025;80:614-6.
9. Lee S, You H, Morita Y, Kanzaki S, Zhao F, Koike T. Classification of ossicular fixation based on a computational simulation of ossicular mobility. *Sci Rep.* 2024;14:20468.
  10. Mori S, Murata Y, Morimoto T, Okamoto Y, Kanzaki S. Tests of human auditory temporal resolution: Simulations of Bayesian threshold estimation for auditory gap detection. *JASA Express Lett.* 2024;4:094402.
  11. Kanzaki S, Yamaguchi T, Suh MW. Editorial: Identifying novel drug delivery systems and treatments for hearing loss and related ear disorders, volume II. *Front Pharmacol.* 2024;15:1464254.
  12. Kaga K, Kaga M, Shindo M. Auditory agnosia progressing to cortical deafness. Long-term follow up of a one-year-old child to age 37. *Acta Otolaryngol.* 2025;145:30-5.
  13. Ishibashi Y, Kondo K, Suzuki Y, Kaga K. Temporal bone histopathology of atypical Cogan syndrome. *Laryngoscope.* 2024;134:5135-8.
  14. Obuchi C, Kawase T, Sasame Y, Yamamoto Y, Sasaki K, Iwasaki J, Okamoto H, Kaga K. Traits of developmental disorders in adults with listening difficulties without diagnosis of autism spectrum disorder and/or attention-deficit/hyperactivity disorder. *J Clin Med.* 2024;13:6281.
  15. Wasano K, Nakagawa T, Kaga K, Ogawa K. The effect of aging and asymmetrical hearing on speech discrimination. *Commun Med (Lond)* 2024;4:166.
  16. Tsuzuki N, Wasano K. Idiopathic sudden sensorineural hearing loss: A review focused on the contribution of vascular pathologies. *Auris Nasus Larynx.* 2024;51:747-54.
  17. Tsuzuki N, Masuda K, Yamanobe Y, Mizuno K, Ozawa H, Wasano K. Idiopathic sudden sensorineural hearing loss caused by infarction of the vestibulo-cochlear artery can be detected by testing semicircular canal function and audiometry: Proposal for Angiopathic sudden sensorineural hearing loss. *Otol Neurotol.* 2025 Mar 10. Online ahead of print.
  18. 小野智愛, 坂本浩一, 馬場遙香, 松永達雄. Copy Number Variation (CNV) による感音難聴の3症例への遺伝カウンセリング. *小児耳鼻咽喉科* 2024;44:355-60
  19. 白石健悟, 外池百合恵, 有本友季子, 仲野敦子, 松永達雄. 長期聴力経過を観察したHDR症候群の同胞例. *小児耳鼻咽喉科* 2024;44:397-402.
  20. 松永達雄. 移行期医療支援の基本と実践. *小児耳鼻咽喉科* 2024;45:1-5.
  21. 松永達雄. 視覚聴覚二重障害(盲ろう)の医療と支援. *日本耳鼻咽喉科頭頸外科学会会報* 2024;127:1219-6.
  22. 松永達雄. ミトコンドリア病必携!耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の指定難病. *耳喉頭頸* 2025;97:206-9.

23. 水野耕平, 増田圭奈子, 山野邊義晴, 魚島理智, 和佐野浩一郎, 神崎晶. てこずった症例・難治症例にどう対応するか: 耳領域 両側前庭機能障害に対する前庭リハビリテーション施行例. JOHNS 2024;40:997-1000.
24. 鼓室内ステロイドワーキンググループ (神崎晶, 金沢弘美, 鬼頭良輔, 寺西正明, 岡田昌浩, 藤原圭志, 金井理絵, 佐々木亮, 岡野高之, 工穂, 吉田尚弘) 突発性難聴と顔面神経麻痺に対する鼓室内ステロイド投与について. OTOLOGY JAPAN 2024:99-112.
25. 神崎晶, 小池卓二, 入江優花, 李信英, 徐世傑, 肥後武展, 林正晃, 池上元. 頭頸部外科手術と DX (デジタルトランスフォーメーション) 耳科手術の DX: 耳小骨可動性値の術中計測デバイスと手術データベースを用いた客観的・定量可能な聴力改善手術の開発一. 頭頸部外科 2024;34:1-4.
26. 正木克宜, 坂下雅文, 小川靖, 猪俣武範, 貝沼圭吾, 神尾敬子, 佐藤さくら, 玉利真由美, 中島沙恵子, 森田英明, 倉島洋介, 二村昌樹, 高橋浩一郎, 春田淳志, 百武美沙, 門川俊明, 石塚全, 意元義政, 尾山徳孝, 神崎晶, 木戸口正典, 福島敦樹, 福永興壱, 藤枝重治, 安富素子, 足立剛也. アレルギー領域における診療科・職種横断的リカレント教育の重要性: 出前授業による教育の機会創出事業 参加者データの分析. アレルギーアレルギー領域における診療科・職種横断的リカレント教育の重要性: 出前授業による教育の機会創出事業参加者データの分析. 2024;73:329-39.
27. 水野耕平, 増田圭奈子, 山野邊義晴, 魚島理智, 和佐野浩一郎, 神崎晶. 側前庭機能障害に対する前庭リハビリテーション施行例. 特集てこずった症例・難治症例にどう対応するか. JOHNS 2024;40:997-1000.
28. 神崎晶. 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 突発性難聴 (解説). 日本医学会新報 2024;5243:47-8.
29. 神崎晶. 伝音難聴の最新の診断と治療 AI による手術の最適化. JOHNS 2025:41:80-2.
30. 神崎晶. 伝音難聴の最新の診断と治療 外耳道病変の最新治療. JOHNS 2025:41:83-5.
31. 日高浩史, 伊藤まり, 神崎晶, 高橋真理子, 仲野敦子, 原田竜彦, 廣田栄子, 松延毅, 和佐野浩一郎, 田渕経司. 最近 16 年間の Audiology Japan 掲載論文の推移. Audiol Japan (in press).
32. 進藤美津子, 加我君孝. ヘルペス脳炎により小児期に発症した重度聴覚失認の 1 例の 37 年の経過について. 音声言語医学 2024;65:108-15.
33. 中澤宝, 力武正浩, 木村優介, 加我君孝. 聴性脳幹反応で I, II 波のみを呈する Pelizaeus-Merzbacher 病の 1 例の長期追跡: 成人期の聴覚機能と音声言語機能について. 耳展 2024;67:285-90.
34. 加納有二, 加我君孝. 過去 10 年間の補聴器外来を経て人工内耳手術を受けた超高齢者 5 例と高齢者 2 例の生活形態. JOHNS 2024;40:569-72.
35. 加我君孝, 榎本千江子, 関口香代子, 南修司郎. 先天盲・後天聾のためにおこなった人工内耳手術症例. JOHNS 2024;40:980-2.
36. 加我君孝. ABR の歴史. JOHNS 2024;40:1198-204.
37. 加我君孝. ABR の起源と脳幹聴覚伝導路. JOHNS 2024;40:1309-17.
38. 加我君孝. ABR はどのようにして発見されたか: Jewett による“ABR の発見の思い出” JOHNS 2025;41:245-9.

39. 加我君孝. Auditory nerve disease (auditory neuropathy)の発見と長期追跡に伴う新たな発見. 耳鼻頭頸 2024;96:818-22.
40. 朝戸裕貴, 加我君孝, 竹腰英樹, 加地展之, 倉林孝之, 高田悟朗. 伝音難聴の最新の診断と治療【疾患別 最新の治療法】他科連携による最新の外耳道狭窄・閉鎖の治療. JOHNS 2025;41:87-90.
41. 加我君孝. ABRとともに脳を探る. Otol Jpn. 2025;35:5-14.
42. 榎本千江子, 南修司郎, 加我君孝. 免疫病態に起因する内耳性高度難聴後に人工内耳埋め込み術を施行した3症例の経過について. Audiology Japan 2024;67:439.

### 【著 書】

1. 神崎晶. プラクティス耳鼻咽喉科. 耳鼻咽喉科医のための診療ガイドライン活用マニュアル 耳鳴, 中山書店, 41-3.
2. 坂田英明, 神崎晶. フワフワするめまいを治す最強の食事術. 名医が教える新しいめまい撃退法, 徳間書店, 2024.
3. 神崎晶. MOOK 本「受けたい医療 2025」 補聴デバイス 広がる選択肢, 読売新聞社, 2024:104-5.
4. 神崎晶. 耳鳴検査: 専門医のための耳鼻咽喉科検査法. 金原出版, 2024:18-21.
5. 神崎晶. 耳音響放射、蝸電図. 専門医のための耳鼻咽喉科検査法. 金原出版, 2024:22-5
6. 神崎晶, 坂田英明. 耳鳴りをよくする食事. 三和書籍, 2025.
7. 神崎晶. セミナー記録書 なぜ難聴は認知機能低下や高死亡率の原因になるのか? なぜ補聴器は予防になるのか? ブルームヒアリング, 2025.
8. 加我君孝. 後迷路性難聴(聴覚失認・皮質聾). 私の治療 Ver. 4, 東京, 医事新報社, 2024;5245:50-1.

### 【学会・研究会発表】

1. Kanzaki S, Koike T, Irie Y, Keat CS, Higo T, Shimizu Y, Hayashi M, Ikegami H. Symposium: Innovations in management of otitis media and cholesteatoma: innovations in intraoperative measurement of ossicular chain mobility: individual differences in the force applied to the ossicles during palpation and decision making. 61th NES 2024, Budapest, Hungary, 2024.5.22.
2. Kanzaki S, Sakata H. Seminar of vestibular rehabilitation. 61th NES 2024, Budapest, Hungary, 2024.5.22.
3. Kanzaki S. Symposium Vestibular rehabilitation, vestibula rehabilitation. 61th NES 2024, Budapest, Hungary, 2024.5.22.
4. Kanzaki S. Individual differences in surgeon's procedures and judgements of ossicular conditions during palpation. CORLAS 2024, Vienna, Austria, 2024.8.30.
5. Kanzaki S. Symposium Tinnitus and Hyperacusis and its background factors. 8th East Asian Society of Otology, 2024.12.8.
6. Kanzaki S. Symposium Changes in cognitive function and its analysis after hearing aid intervention for patients with mild to moderate hearing loss. APPW2025, 幕張, 2025.3.18.

7. Kanzaki S. Invited seminar: Hearing device and prevention of cognition. Semmelweis University, Hungary, 2025.3.24.
8. Kanzaki S. Koike T, Irie Y, Keat CS, Higo T, Shimizu Y, Hayashi M, Ikegami H. Appropriate ossicle palpation during otologic surgery: variations in judgments and how surgeons exert a large force on the ossicles. CORLAS 2024, 2024.8.29.
9. Tsunoda K. Problems of speech and swallowing in human beings, the additional solutions with regeneration, instead of just anti-aging. THE 2ND INTERNATIONAL SYMPOSIUM of International Anti-aging and Regenerative Medicine Organization (IARO). Tokyo, 2024.6.19.
10. Kaga K, Kaga M, Shindo M. Auditory agnosia caused by bilateral auditory cortex lesions due to herpes encephalitis of an infant but cortical deafness at period of teenager presenting profound hearing loss with normal ABR and DPOAE: 37 years follow up. Collegium Oto-Rhino-Laryngologicum Amicitiae Sacrum Annual Meeting 2024, Vienna, 2024.8.28.
11. 神崎晶. セミナー なぜ難聴は認知機能低下や高死亡率の原因になるのか？なぜ補聴器は予防になるのか？ 第 125 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会, 大阪, 2023.5.17.
12. 神崎晶, 金沢弘美, 鬼頭良輔, 寺西正明, 岡田昌浩, 藤原圭志, 金井理絵, 佐々木亮, 岡野高之, 吉田尚弘. 学会セミナー 明日の臨床に活かす!耳科学会からの最新情報～保険収載に向けて一突発性難聴と顔面神経麻痺に対する鼓室内ステロイド投与について. 第 34 回日本耳科学会総会・学術講演会. 愛知, 2024.10.5.
13. 神崎晶. シンポジウム 2 聴覚リハビリテーションについて. どうやって補聴器を用いたリハビリテーションを構築するか. 第 69 回日本聴覚医学会, 東京, 2024.10.23.
14. 角田晃一. 音声訓練による血中サブスタンス p 値の変化、咳反射、誤嚥性肺炎との関係. 第 125 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 大阪, 2024.5.18.
15. 角田晃一. シンデレラ体重を目指すことで嗄声を来たしたご婦人. 第 69 回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 東京, 2024.10.17.
16. 加我君孝, 進藤美津子. 聴覚失認から皮質聾へ進行したヘルペス脳炎の 1 例: 1 歳から 10 歳代までの聴放線の逆行性変性疑い. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会東京都地方部会第 244 回学術講演会, 東京, 2024.7.13.
17. 木村優介, 伊原素子, 橘奈津美, 南修司郎, 加我君孝. 先天性 CMV 感染を伴い進行性難聴を呈した超低体重出生児の 4 歳での片側人工内耳手術実施例. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会東京都地方部会第 244 回学術講演会, 東京, 2024.7.13.
18. 加我君孝, 松田信作, 竹腰英樹. 両側迷路無形成 (Michel 型) 児の 1 例～平衡機能と運動発達の 20 年のフォローアップ. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会東京都地方部会第 246 回学術講演会, 東京, 2025.3.8.
19. 梶吉亮平, 進藤美津子, 加我君孝. 左側頭葉・頭頂葉の広範な梗塞により聴覚理解の障害を呈した語義失語の 1 例: 15 年間の経過で明らかになった言語機能の回復と非回復との神経心理学的比較. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会東京都地方部会第 246 回学術講演会, 東京, 2025.3.8.

20. Tsuzuki N, Masuda K, Yamanobe Y, Mizuno K, Uoshima R, Minami S, Wasano K. Idiopathic sudden sensorineural hearing loss with isolated posterior semicircular duct dysfunction. 第 125 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 大阪, 2024. 5. 16.

### 【講 演】

1. Kaga K. Development of balance function in congenitally deaf infants and children. 8th International Symposium on Meniere's Disease and Inner Ear Disorders. Shanghai, 2024. 4. 25.
2. Kanzaki S. Invited Online lecture: Inner and Middle ear for Undergraduate students Semmelweis University, Hungary, 2025. 5. 22.
3. Kanzaki S. Invited lecture: Japanese protocol of hearing loss for Postgraduate students Semmelweis University, Hungary, 2025. 5. 24.
4. 加我君孝. ABRとともに聴覚と脳を探る. 日本耳科学会第 2 回功績賞受賞記念講演, 名古屋, 2024. 10. 3.
5. 松永達雄. 先天性および若年発症の視覚聴覚二重障害の難病に対する診療エビデンスの創出. 難治性疾患実用化研究事業 2023 年度成果報告会 (Web) 2024. 7. 3-12. 25.
6. 松永達雄. 盲ろう児者支援公開講座の目的. 盲ろう児者支援公開講座 盲ろう児者の福祉・医療・教育の連携を考える, 福岡, 2024. 7. 21.
7. 松永達雄. 遺伝性難聴に対する精密医療の現状と将来. 第 58 回難病・遺伝医学セミナー (順天堂大学), 東京, 2024. 10. 30.
8. 松永達雄. Genetic medicine for mitochondrial hearing loss. シンポジウム 2 : Genetic Practice in Mitochondrial Disease, 日本人類医学会第 69 回大会, 札幌, 2024. 10. 9-12.
9. 松永達雄. 難聴遺伝子解析と内耳再生治療の研究. 2025 年難聴万博, 東京, 2025. 3. 22
10. 榎本千江子. マグネット. 慶應義塾大学病院聴覚センター「人工内耳装用者のためのリハビリテーションとマッピング」セミナー, 2024. 10. 22.
11. 神崎晶. 不定愁訴も治ります！難聴、耳鳴に関する診断と治療—理論から実践まで. 日本メディカルスキルアップセミナー, 2024. 6. 9.
12. 神崎晶. 難聴・嗅覚障害と認知機能について. 金沢市医師会学術研修会, 金沢, 2024. 7. 18.
13. 神崎晶. 難聴 補聴器装用と認知機能の関係について. 第 1 回 Well Being フォーラム 認知症対策は聞こえから？難聴と認知症の深い関係から, 在日スイス大使館, 2024. 9. 7.
14. 神崎晶. 難治性中耳炎を含む難治性の耳疾患. 日本メディカルスキルアップセミナー, 2024. 10. 27.
15. 神崎晶. 難聴になるとなぜ認知症になるのか？第 19 回静岡めまい難聴研究会, 2024. 11. 16.

## 【その他】

1. Kaga K. Cochlear implant technology (Chair), Collegium Oto-Rhino-Laryngologicum Amicitiae Sacrum Annual Meeting 2024, Vienna, 2024.8.25.
2. 加我君孝. 機能性めまいの取り扱い (司会) 第 83 回日本めまい平衡医学会総会, 名古屋, 2024.11.15.
3. 松永達雄. これから希少・難治性疾患の医療. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会東京都地方部会会報, 2024.5.15
4. 松永達雄. 先天性および若年発症の視覚聴覚二重障害の難病に対する診療エビデンスの創出. 難治性疾患実用化研究事業 2023 年度成果報告会 (Web) 2024.7.3-12.25.
5. 松永達雄. 盲ろうの人の支援を考える. 西日本新聞, 2024.8.15.
6. 松永達雄. 医療者としての盲ろう医療の向上への取り組み. 特集 盲ろう者と医療について考える, コミュニカ (全国盲ろう者協会), 2024.9.
7. 松永達雄. 聴覚・平衡覚研究部(2014～2024) 第 2 部研究成果報告. 国立病院機構東京医療センター臨床研究(感覚器)センター設立 20 周年記念式典, 東京, 2024.9.14.
8. 松永達雄. 第 15 群「遺伝子」(座長) 第 34 回日本耳科学会総会・学術講演会, 名古屋, 2024.10.2-5.
9. 松永達雄. 教育セミナー 臨床研究の立案と解析のコツ～症例数の設計は? t 検定でよいの? (座長) 第 34 回日本耳科学会総会・学術講演会, 名古屋, 2024.10.2-5.
10. 松永達雄. 急速に人口減少する社会での働き方. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会東京都地方部会会報第 92 号, 2024.12.15.
11. 神崎晶. ラジオ 突発性難聴について. エフエム富士 週刊誌(監修) 2024.5.14.
12. 神崎晶. どーもどーも (監修). 介護雑誌, 2024.9.7 号
13. 神崎晶. ラムゼイ・ハント症候群顔面麻痺(監修) yomiDr. 2024.9.10.
14. 神崎晶. 難聴と認知症にまつわる最新事情を専門医に聞きました! (監修) 【専門家が教える難聴対策 Vol.13】 介護ポストセブン, 2024.11.1.
15. 神崎晶. 突発性難聴とは (監修) 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 HP.
16. 神崎晶. 補聴器が使いづらい人に対応する新たな装置とは「今まで聞こえなかった換気扇の音に気づいた」(監修). ヨミドクター (読売新聞), 2023.9.4.
17. 神崎晶. 耳そうじはしてはいけないってホント? NG の理由と正しい耳穴のケア方法を専門医に直撃! (監修) 【専門家が教える難聴対策 Vol.21】 介護ポストセブン, 2025.3.14.
18. 角田晃一. 聴覚障害(成人)(座長) 第 69 回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 東京, 2024.10.18

# 放射線治療科

---

## 【論 文】

1. Saito T, Shikama N, Takahashi T, Nakamura N, Mori T, Nakajima K, Koizumi M, Sekii S, Ebara T, Kiyohara H, Higuchi K, Yorozu A. Quality of palliative radiotherapy assessed using quality indicators: a multicenter survey. *J Radiat Res.* 2024;65:532-9.
2. Serizawa I, Kozuka T, Soyano T, Sasamura K, Kamima T, Kunogi H, Kurihara N, Numao N, Yamamoto S, Yonese J, Yoshioka Y. Clinical and dosimetric comparison between non-image guided radiation therapy and fiducial-based image guided radiation therapy with or without reduced margin in intensity modulated radiation therapy for prostate cancer. *Adv Radiat Oncol.* 2024;9:101612.
3. Tsurumaki F, Nakajima Y, Ito K, Kito S, Kikumura R, Yorozu A, Fujita Y. Optimal combination of collimator angles for dual-arc volumetric modulated arc therapy planning in stereotactic body radiotherapy for spinal metastases. *Med Dosim.* 2025;50:74-9.
4. Serizawa I, Kozuka T, Soyano T, Sasamura K, Kamima T, Kunogi H, Numao N, Yamamoto S, Yonese J, Yoshioka Y. Impact of neoadjuvant androgen deprivation therapy on toxicity in intensity-modulated radiation therapy for prostate cancer. *J Radiat Res.* 2024;65:693-700.
5. Fukuokaya W, Miki K, Aoki M, Yorozu A, Dokiya T, Egawa S; SHIP collaborative group. Ten-year outcomes of a phase 3, multicenter, randomized controlled trial (SHIP0804) with 3-month neoadjuvant androgen deprivation prior to 125I-seed transperineal prostate brachytherapy followed by nil versus 9-month adjuvant hormonal therapy in patients with intermediate-risk prostate cancer. *Int J Radiat Oncol Phys.* 2024:S0360-3016.
6. 加藤知子, 武藤光代, 萬篤憲, 草間朋子. 「放射線治療手帳」患者と医療スタッフの情報共有のツールとして. *アイソトープニュース* 2024;794:32-4.
7. 加藤知子, 三上恵子, 有阪光恵, 武藤光代, 菊野直子, 萬篤憲, 草間朋子. がん放射線療法寛喜認定看護師(CN)の活動実態と課題. *看護展望* 2024:53-9.
8. 萬篤憲, 酢谷真也. 高リスク前立腺癌に対する小線源治療-TRIP 試験を踏まえて. *ESPOIR* 2024;2:19-23.
9. 萬篤憲, 酢谷真也. 新しいシリンドラ型ハイブリッド腔内照射が変える婦人科がん放射線治療. *INNERVISION* 2024:76-7.

## 【学会・研究会発表】

1. Yorozu A. ADT duration and intensification with brachytherapy boost. 2024 World congress of Brachytherapy, National Harbor, USA, 2024.7.11.

2. 萬篤憲, 松本秀樹, 酢谷真也, 征矢野崇, 大崎典子. 入院麻酔管理を軸とした婦人科癌小線源治療のネットワーク. 小線源治療部会, 高崎, 2024. 5. 24.
3. 松本秀樹, 萬篤憲, 酢谷真也, 征矢野崇, 大崎典子. 狹腔の子宮頸癌に対しマルチチャネルシリンドを利用した一例. 小線源治療部会, 高崎, 2024. 5. 24.
4. 萬篤憲. ワークショップ放射線治療現場におけるるべき看護師の役割と他スタッフとの協働 がん看護×放射線治療の歩み. 第 37 回日本放射線腫瘍学会, 横浜, 2024. 11. 23.
5. 萬篤憲. ディベート 前立腺 定位 vs ブラキー LDR を選択する文化. 第 37 回日本放射線腫瘍学会, 横浜, 2024. 11. 23.

### 【講 演】

1. 萬篤憲. Varian 社製はアイブリッドアプリケータと Eclipse による治療計画の経験. 小線源治療部会, 高崎, 2024. 5. 24.
2. 萬篤憲. 小線源治療: 撤退と選択. 東北がんネットワーク放射線治療専門委員会・特別講演会, 弘前, 2024. 6. 8.
3. 萬篤憲. 高リスク前立腺癌の放射線治療に至適なアンドロゲン除去期間. 金沢小線源療法講演会, 金沢, 2024. 6. 14.
4. 萬篤憲. 地域医療と小線源治療. 札幌医科大学放射線治療セミナー講演, 札幌, 2024. 10. 18.
5. 萬篤憲. 東京医療センターにおける小線源治療の運用. Varian 小線源治療ハンズオンセミナー講演, 福岡, 2025. 2. 15.
6. 萬篤憲. 地域医療と放射線治療. 三重大学放射線治療研究会, 三重, 2025. 3. 22.

# 放射線診断科

---

## 【論 文】

1. Mitsuo K, Kaneko H, Tsukamoto M, Asami Y, Miyazawa A, Miyashita K, Onoda G, Yamashita H, Hatano M, Kamiyama M, Okuda S. Retroperitoneal leiomyosarcoma mimicking an ovarian tumor diagnosed using a negative ovarian pedicle sign. Radiology Case Reports. 2024;19:3429-33.

## 【学会・研究会発表】

1. 宮下圭一, 浅見勇太, 神山めぐみ, 金子英樹, 鈴木和代, 伊東良晃, 伊東伸剛, 奥田茂男, 落合博子, 村田有也. 非吸収充填剤による乳房増大術後に生じた肩径部腫瘤. 第 461 回日本医学放射線学会・関東地方会定期大会, 東京, 2024. 6. 22.
2. 宮下圭一, 名畑賢太郎, 上野真子, 金子裕右, 浅見勇太, 伊東良晃, 金子英樹, 奥田茂男, 松井哲, 村田有也. 男性乳癌を原発とした肺腫瘍血栓性微小血管症(PTTM)の 1 例. 第 60 回日本医学放射線学会・秋季臨床大会, 福岡, 2024. 10. 18.
3. 名畑賢太郎, 宮下圭一, 三尾幸司, 金子裕右, 神山めぐみ, 金子英樹, 奥田茂男, 前島新史, 篠崎太郎. 肺に生じた類上皮血管内皮腫の 1 例. 日本医学放射線学会関東地方会, 群馬, 2024. 12. 21.
4. 上野真子, 伊東良晃, 伊東伸剛, 浅見勇太, 塚本誠, 宮澤あづみ, 小野田豪, 波多野まみ, 下田啓文, 奥田茂男. 胆管内乳頭状腫瘍の 2 例. 第 462 回日本医学放射線学会関東地方会定期大会, 群馬, 2024. 12. 21.
5. 小野田豪, 神山めぐみ, 金子英樹, 伊東伸剛, 宮下圭一, 石志紘, 平田雄紀, 松井一晃, 宮前遊花, 奥田茂男. 特発性食道破裂の 1 例. 日本医学放射線学会関東地方会, 群馬, 2024. 12. 21.

## 【講 演】

1. 浅見勇太. Split Bolus 法: その臨床応用. 断層映像研究会, 長野, 2024. 11. 1.

# 歯科口腔外科

---

## 【学会・研究会発表】

1. 久保浩太郎, 長谷川大悟, 五十嵐朱音, 松井香奈, 遠藤研人, 松岡祐佳子, 蛭田美香子, 浅子久美子, 前田有紀, 長山佳之, 石嶋麗, 萬篤憲, 須河恭敬, 菅原圭亮, 別所央城. 東京医療センターにおける『口腔ケア用品自動販売機運用システム』導入について. 第 21 回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 東京, 2024. 4. 27-28.
2. 別所央城, 長谷川大悟, 奥橋園子, 高木多加志, 神尾崇. 顎矯正手術三次元手術支援システムによる CAD/CAM スプリントの使用経験－治療前の三次元比較. 第 34 回日本顎変形症学会, 東京, 2024. 6. 27-28.
3. 五十嵐朱音, 長谷川大悟, 菅原圭亮, 久保浩太郎, 別所央城. 東京医療センター歯科口腔外科 2020 年から 2023 年における初診患者の臨床統計. 第 318 回東京歯科大学学会総会, 東京, 2024. 10. 19-20.
4. 松岡祐佳子, 蛭田美香子, 久保浩太郎, 長谷川大悟, 松井香奈, 遠藤研人, 五十嵐朱音, 西田太朗, 浅子久美子, 前田有紀, 島田美季, 菊野直子, 清水希, 長山佳之, 萬篤憲, 須河恭敬, 別所央城. 口腔ケアのスキルアップへ繋がる歯科衛生士としての取り組み－口腔ケアラウンド・看護部研修を通しての看護師との協働. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 18-19.
5. 長谷川大悟, 遠藤研人, 松井香奈, 五十嵐朱音, 西田太朗, 久保浩太郎, 菅原圭亮, 別所央城. 下顎骨内に発生した粘表皮癌の 1 例. 第 69 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 神奈川, 2024. 11. 22-24.
6. 長谷川大悟, 菅原圭亮, 別所央城. 下顎智歯との関連が示唆された下顎骨中心性粘表皮癌の 1 例. 第 49 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 東京, 2025. 2. 26-28.

## 【著 書】

1. 久保浩太郎, 別所央城. 巻頭トピック 急性期病院における歯科口腔外科主導による口腔ケアチーム立ち上げについて. 歯界展望: 東京, 医歯薬出版, 2024; 8: 221-4.

## 【講 演】

1. 別所央城. 抗菌薬の適正使用と MRONJ の予防と対策. 調布市歯科医師会第一回学術講演会, 調布, 2024. 9. 11
2. 別所央城. MRONJ(薬剤関連顎骨壊死). 世田谷区医師会内科医会講演会, 東京, 2024. 9. 4.
3. 久保浩太郎, 別所央城. 口腔ケア Part4. 東京医療センター緩和ケアセミナー (Web). 2024. 12.
4. 別所央城. “がん” ってどんな病気？ どうすれば予防できるの？ 東京都教育委員会, 東京都立広尾高等学校, 2025. 3. 17.

## 【その他】

1. 別所央城. 口腔がん研修会. 口腔がん検診, 東京, 2024. 9. 19, 10. 3.
2. 別所央城. 口腔・頭頸部の疾患と治療 (座長) 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 18-19.

# 麻酔科

---

## 【論 文】

1. 堀深雪, 安村里絵. 婦人科腹腔鏡手術を受けた患者の術後痛の程度・PONV 発生率と IV-PCA 使用有無との関連性について. 医療 2024;78:349-54.

## 【学会・研究会発表】

1. 久米弘朗, 森庸介, 田中公平, 吉武美緒, 安村里絵, 櫻井裕教. 頭頸部アルミノックス療法において疼痛管理に難渋した一例. 日本麻酔科学会第 71 回学術集会, 神戸, 2024. 6. 6-8.
2. 川村知也, 安村里絵, 森岡秀夫. 整形外科病棟管理における診療看護師 (JNP) の活動～麻酔科での業務経験を生かして. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 18-19.
3. 肌附里乃, 森庸介, 吉川保, 櫻井裕教, 安村里絵, 田中浩平, 久米弘朗, 小松凜太郎. 周術期アナフィラキシーの診断補助としての血中トリプターゼ測定の後方視的調査. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 福岡, 2025. 3. 14-16.
4. 久米弘朗, 安村里絵, 肌附里乃, 田中浩平, 森庸介, 櫻井裕教. 人工股関節置換術での術中セメント使用後の心停止症例 Bone Cement implantation Syndrome の一症例. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 福岡, 2025. 3. 14-16.

## 【講 演】

1. 森庸介. 麻酔科医が理解しておくべきペースメーカの基礎知識. 日本麻酔科学会第 71 回学術集会, 神戸, 2024. 6. 6-8.

## 【その他】

1. 櫻井裕教. 多職種連携・チーム医療 1 (座長) 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 福岡, 2025. 3. 14-16.

# 救急科

---

## 【論 文】

1. Matsumoto K, Komagamine J. Medial pontine mid-tegmentum syndrome. *Acute Med Surg.* 2024;11:e948.
2. Iwabuchi K, Watase A, Komagamine J. A cyclic lesion due to pulmonary embolism. *Am J Med Sci.* 2024;368:e36-7.
3. Takefuji H, Komagamine J, Kurihara T. The prevalence of complicated cervical injuries in near-hanging patients without abnormal levels of consciousness or neck signs. *Am J Emerg Med.* 2024;84:45-9.
4. Komagamine J, Yoshihara S, Kurihara T. Comparison of sodium zirconium cyclosilicate to calcium polystyrene sulfonate for acute hyperkalemia among hospitalized elderly patients. *Cureus.* 2024;16:e71750.
5. Kano Y, Komagamine J, Murata K. A cross-sectional study of anterior cutaneous nerve entrapment syndrome at a Japanese emergency department. *J Gen Fam Med.* 2024;25:317-23.
6. Komagamine J, Kurihara T. Prevalence of a delayed diagnosis of caffeine poisoning in the emergency department of a Japanese hospital. *J Gen Fam Med.* 2024;26:157-62.
7. Takefuji H, Komagamine J. Metastatic pulmonary calcification in a haemodialysis patient. *BMJ Case Rep.* 2025;18:e264718.
8. Takefuji H, Komagamine J. Posterior ischemic optic neuropathy following continuous renal replacement therapy: a case report. *Int J Emerg Med.* 2025; 18: 62.
9. Kuromiya M, Komagamine J. A woman with unconsciousness and tachycardia after drug overdose. *Eur J Intern Med.* 2025;131:133-4.
10. Yoshida S, Komagamine J. A febrile woman with gas collection in the right upper abdomen. *Eur J Intern Med.* 2025 Mar 25. Online ahead of print.

## 【著 書】

1. 栗原智宏. 腎・泌尿器系疾患. 日本救急医学会監修, 救急診療指針改訂第6版, 東京, ヘルス出版 2024:459-67.
2. 栗原智宏. 縱隔膿瘍. 長谷川潤編, 救急医学 2024;48:931-5.
3. 鯨井大. 実質臓器以外の腹腔内膿瘍. 長谷川潤編, 救急医学 2024;48:943-7.
4. 栗原智宏. 咽頭痛(解説). 日本医事新報社編, 治療法の再整理とアップデートのために専門家による私の治療:東京, 日本医事新報社 2024:36-7
5. 栗原智宏. 緊張性気胸. 永井良三編, 今日の診療指針第9版:東京, 医学書院, 2025: 445-7.

## 【学会・研究会発表】

1. 駒ヶ嶺順平, 栗原智宏. 初期診断が困難だった急性カフェイン中毒の頻度と特徴. 第 52 回日本救急医学会総会・学術総会, 仙台, 2024. 10. 13.
2. 竹田瑛紀, 栗原智宏, 駒ヶ嶺順平. 小児の墜落外傷による外傷性子宮破裂の一例. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 仙台, 2024. 10. 13.
3. 伊藤明日香, 愛知省吾, 駒ヶ嶺順平, 栗原智宏. 外傷性臍損傷の 2 症例. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 仙台, 2024. 10. 13.
4. 帯川史生, 鯨井大, 栗原智宏. 左下肢の筋肉内血腫で判明したアルコール多飲患者での壞血病の一例. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 仙台, 2024. 10. 13.
5. 太田慧, 渡瀬瑛, 小林祐介, 栗原智宏. 東京医療センターICLS コースの意義. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 仙台, 2024. 10. 13.
6. 太田慧, 渡瀬瑛, 栗原智宏, 原田夏子, 穂本さくら, 小松崎祥, 上後剛範, 萩輪ハンナ, 大泉昌也, 佐藤圭, 福原かおる. 令和 6 年能登半島地震初期の輪島市における最先着国立病院機構医療班としての活動報告. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 仙台, 2024. 10. 13.
7. 竹藤寛, 駒ヶ嶺順平, 近藤香光, 太田慧, 栗原智宏. 非周産期症例における *Streptococcus pyogenes* による骨盤内炎症性疾患 毒素性ショック症候群の検討. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 仙台, 2024. 10. 14.
8. 愛知省吾, 駒ヶ嶺順平, 栗原智宏. 遺伝子検査により初療時から definitive therapy を行った MRSA 心膜炎の 1 例. 第 52 回日本救急医学会・学術集会, 仙台, 2024. 10. 14.
9. 栗原智宏, 木村慎一, 太田慧, 駒ヶ嶺順平, 鯨井大, 渡瀬瑛, 藤沢篤夫, 小林祐介, 帯川史生, 愛知省吾. 働き方改革を超えた救急医療システム改善への取り組み. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 仙台, 2024. 10. 15.
10. 太田慧, 金井恵美, 小野浩生, 栗原智宏, 近藤才子. 国立病院機構における東京医療センターICLS の意義. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 18.
11. 太田慧, 原田夏子, 穂本さくら, 小松崎祥, 上後剛範, 萩輪ハンナ, 大泉昌也, 福原かおる. シンポジウム 令和 6 年能登半島地震初期の輪島市における最先着国立病院機構医療班としての活動報告. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 18.
12. 木村慎一, 栗原智宏. 当救命救急センターに搬送された急性薬物中毒の検討. 第 75 回日本救急医学会関東地方会, 東京, 2025. 2. 22.
13. 亀田貴範, 栗原智宏. 特発性食道破裂により緊張性気胸を併発し心停止となった 1 例. 第 75 回日本救急医学会関東地方会, 東京, 2025. 2. 22.
14. 竹藤寛, 駒ヶ嶺順平, 栗原智宏. 持続的血液濾過透析後に両側性後部虚血性視神経症を発症した一例. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 福岡, 2025. 3. 15.
15. 駒ヶ嶺順平, 太田慧, 栗原智宏. 市中発症のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌による市中発症壞死性筋膜炎の割合. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 福岡, 2025. 3. 15.

## 【その他】

1. 藤沢篤夫. 内分泌・代謝 (座長) 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 仙台, 2024. 10. 13.

2. 栗原智宏. 小児の救急・集中治療と外傷 (座長) 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 仙台, 2024. 10. 15.
3. 太田慧. シンポジウム 災害医療分野におけるN P の可能性 (座長) 第 10 回日本N P 学会, 東京, 2024. 11. 23.

## リハビリテーション科

---

### 【論 文】

1. 水野耕平, 魚島理智, 増田圭奈子, 山野邊義晴, 神崎晶, 和佐野浩一郎. 両側前庭機能障害に対する前庭リハビリテーション施行例. *JOHNS* 2024;40:997-1000.
2. 竹田恵利子, 櫛田幸, 渡久地政志, 太田昌宏, 田中透, 高橋良多, 押鴨和, 山崎元徳, 大森まいこ. 運動療法に重点をおいたリンパ浮腫複合的治療の継続実施にむけて教育体制を有したチーム体制を構築した取り組みの報告. *医療* 2024;78:178-82.

### 【学会・研究会発表】

1. 竹田恵利子, 高木実穂, 宮田知恵子. Palliative care edema service for advanced cancer: Two case report. 第 8 回 アジア太平洋作業療法学会, 札幌, 2024. 11. 6-9.
2. 魚島理智, 和佐野浩一郎, 神崎晶, 増田圭奈子, 山野邊義晴, 水野耕平. 当院での耳石器機能障害に対する前庭リハビリテーション. 第 125 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 大阪, 2024. 5. 15-18.
3. 魚島理智, 水野耕平, 増田圭奈子, 山野邊義晴, 神崎晶, 和佐野浩一郎. 耳石器機能障害に対する前庭リハビリテーションの試み: Tilt Head & Side Step Exercise の提案. 第 83 回日本めまい平衡医学総会・学術講演会, 名古屋, 2024. 11. 13-15.
4. 水野耕平, 魚島理智, 増田圭奈子, 山野邊義晴, 神崎晶, 和佐野浩一郎. 当院での前庭リハビリテーションの効果～DHI 比改善例に着目して. 第 83 回 日本めまい平衡医学総会・学術講演会, 名古屋, 2024. 11. 13-15.

### 【講 演】

1. 武中基泰. 経験者コース「FIM 症例検討」第 36 回 ADL 評価法講習会, 東京, 2024. 11. 30.

# 緩和ケア内科／腫瘍リハビリテーション科

---

## 【著 書】

1. 宮田知恵子. リハビリテーション医療（リンパ浮腫）. 日本緩和医療学会編集. 専門家をめざす人のための緩和医療学改訂第3版, 南江堂, 2024:233-40.

## 【学会・研究会発表】

1. 宮田知恵子. 教育講演 がん診療の変遷とがんのリハビリテーション診療. 第61回日本リハビリテーション医学会学術集会, 東京, 2024.6.15.
2. Miyata C, Osada Y, Hosaka Y. Home-Based Exercise for chemotherapy-induced peripheral neuropathy-Feasibility Study. MASCC/JASCC/ISOO 2024 Annual Meeting, Lille, 2024.6.28.

## 【講 演】

1. 宮田知恵子. がん診療におけるリハビリテーションの役割. 慶應サポータイブケアセミナー (Web) 2024.8.16.
2. 宮田知恵子. がん医療におけるリハビリテーションの役割と可能性. オンコロジースキルアップセミナー (Web) 2024.7.30.
3. 宮田知恵子. 緩和医療の基礎知識. 厚生労働省後援 2024年度リンパ浮腫研修会 E-LEARN (Web), 2024.10.24～11.25.

## 【その他】

1. 宮田知恵子. 分野2 痛み以外の身体症状（座長）第29回日本緩和医療学会学術大会, 第37回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会, 神戸, 2024.6.14,

## 【著 書】

1. 村田有也. 乳房超音波検査 ①正常, 妊娠・授乳期, 豊胸術後, 乳腺炎, 男性乳房編: 医歯薬出版, 2025:8-11, 34, 50, 88-90, 96-9, 120-1.

## 【学会・研究会発表】

1. 村田有也, 松井哲, 小谷依里奈, 佐藤茉莉花, 手塚日向子, 月山絵未, 笹原真奈美, 木下貴之. IgG4-related mastitis と乳癌が同一病変内に存在した非常に稀な 1 例. 第32回日本乳癌学会学術総会, 仙台, 2024.7.11-13.

# 臨床腫瘍科

---

## 【講演】

1. 須河恭敬. 当院における CGP 検査実施状況. がん遺伝子パネル検査と泌尿器がんゲノム医療を学ぶ会, 2024. 6. 18.
2. 須河恭敬. 制吐療法 UP to DATE～制吐薬適正使用ガイドライン改訂のポイント. 城南エリア病院看護師をつなぐ会, 2024. 6. 26.
3. 須河恭敬. バイオマーカーに基づく大腸癌薬物療法の考え方. Erbitux CRC Webinar. 2024. 7. 23.
4. 須河恭敬. 東京医療センターでの取り組みについて. 第2回高齢者がん診療向上のための国際セミナー, 2024. 9. 28.
5. 須河恭敬. 東京医療センターでの取り組み. CHUGAI web seminar より良い高齢者医療の実現のために 2024. 12. 13.
6. 須河恭敬. バイオマーカーに基づく胃癌薬物療法～最新のトピックス. 東ヶ丘消化器ネットワーク, 2025. 3. 17.
7. 須河恭敬. AYA 世代がん患者の診療医の立場から. 第2回東京都がん・生殖医療連携ネットワークセミナー, 2025. 3. 22.

## 薬剤部

---

### 【論 文】

1. 上田真也. 臨床研究、論文投稿を行うメリット、デメリット. 医療 2024;78:224-8.
2. Shimanuki Y, Shimomura A, Ogawa C, Komuro M, Terakado H. A retrospective single institutional analysis of outpatient chemotherapy in patients with cancer during the COVID-19 pandemic. Glob Health Med. 2024;6:268-72.
3. Ishimura A, Ogawa C, Yatabe M, Tani K, Inoue M. Differences in fluidity and viscosity of brand-name and generic injectable ointment. Drug Discov Ther. 2024; 18:265-8.
4. 上田真也, 小川千晶, 成田和希, 植松若那, 奥隅拓朗, 薄雅人, 山本吉章, 軍司剛宏. 特発性肺線維症患者におけるニンテダニブによる肝機能障害の発現リスク因子に関する検討. 日本病院薬剤師会雑 2025;61:155-60.

### 【著 書】

1. 上田真也. 禁煙のススメ 電子タバコなら禁煙しなくてもいいですよね? 吸入剤 これでカンペキ! 継続をじっくり・しっかりとサポート BOOK:東京, 南山堂, 2024:127-9.
2. 上田真也. 吸入デバイスの操作に支障をきたす身体所見を見逃さない. 吸入剤 これでカンペキ! 継続をじっくり・しっかりとサポート BOOK:東京, 南山堂, 2024:131-3.
3. 上田真也. エタノールが添加された吸入剤に注意. 吸入剤 これでカンペキ! 継続をじっくり・しっかりとサポート BOOK:東京, 南山堂, 2024:139-41.
4. 上田真也. 吸入剤の選択・指導・管理 コントローラーの最適な吸入時間を提案する. 吸入剤 これでカンペキ! 継続をじっくり・しっかりとサポート BOOK:東京, 南山堂, 2024:151-2.
5. 上田真也. ピークフローメーターを活用しよう! 吸入剤 これでカンペキ! 継続をじっくり・しっかりとサポート BOOK:東京, 南山堂, 2024:154-5.
6. 上田真也. クローズドマウス法? オープンマウス法? 吸入剤 これでカンペキ! 継続をじっくり・しっかりとサポート BOOK:東京, 南山堂, 2024:157-8.
7. 上田真也. 配合剤への切り替えは要注意. 吸入剤 これでカンペキ! 継続をじっくり・しっかりとサポート BOOK:東京, 南山堂, 2024:161-3.
8. 小川千晶. 協働しやすい薬薬連携の構築を図る. PharmaStyle: 東京, 日本アルトマーク, 2024:10-12.

### 【学会・研究会発表】

1. 駒井信子, 大塚健太郎, 今村有那, 高橋明子, 工藤彰, 小川千晶, 吉川至, 大塚知信. Google Formによるトレーシングレポートの簡易的オンライン受信の取り組み. 第26回日本医薬品情報学会総会・学術大会, 千葉, 2024.6.1.

2. 長山佳之, 小川千晶, 工藤彰, 長尾嘉真, 石嶋麗, 今村有那, 大塚健太郎, 大栗宝子, 大塚知信. 薬薬連携連絡会「Polaris」の参加人数増加に向けて取り組んだ連携充実加算算定患者のかかりつけ薬局調査 Part2. 第 16 回日本がん薬剤学会, 東京, 2024. 6. 8.
3. 上田真也. クリニカルクエスチョンからリサーチクエスチョンへ. 2024 年度第 1 回関信地区国立病院薬剤師会臨床研究推進研修会 (Web) 2024. 6. 22.
4. 新保一, 小川千晶, 古川真央, 河野通寿, 古野毅彦, 軍司剛宏. オレキシン受容体拮抗薬における悪夢の出現に関する実態調査. 第 8 回日本精神薬学会・学術集会, 東京, 2024. 9. 21.
5. 古川真央, 新保一, 小川千晶, 目黒康平, 森岡秀夫, 軍司剛宏. 整形外科病棟におけるベンゾジアゼピン系睡眠薬またはオレキシン系睡眠薬を入院導入した患者の使用動向調査. 第 8 回日本精神薬学会・学術集会, 東京, 2024. 9. 21.
6. 新保一, 小川千晶, 野島ちひろ, 新海朱里, 林美野里, 福田良子, 神谷友香, 前田愛理, 菊地寛隆, 黒瀬友季, 吉川至, 福島龍貴, 軍司剛宏. 入退院支援センターにおける薬剤師介入実績と今後の課題. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 19.
7. 正木匠, 小川千晶, 小林昌弘, 前田直則, 吉田園望, 高垣花音, 茂野絢子, 上田真也, 新保一, 益田泰蔵, 軍司剛宏. 感染制御を目的とした薬剤部内の細菌学的環境調査. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 19.
8. 武重彩子, 吉川至, 新保一, 白濱奈歩, 長谷川真未, 小川千晶, 軍司剛宏. 身近な医療 DX として: 進捗管理システム導入による効果の検証. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 19.
9. 赤岩愛記, 小川千晶, 茂野絢子, 上田真也, 新保一, 栗原智宏, 軍司剛宏. ICU・HCU 患者における TAZ/PIPC 投与に伴う低カリウム血症の実態調査. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 19.
10. 林美野里, 小川千晶, 新保一, 新海朱里, 細谷治, 塩地園代, 今川貴仁, 林覚, 寺田友英, 富田勝司, 野本幸治, 軍司剛宏. 地域と病院を繋ぐ入退院支援業務 DENEN Project の取り組み. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 18.
11. 新海朱里, 今村有那, 上田真也, 長尾嘉真, 武重彩子, 新保一, 小川千晶. サステナブルな節約を目指して~Road to 2,000 万円. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 19.
12. 上田真也, 小川千晶, 成田和希, 植松若那, 奥隅拓朗, 薄雅人, 軍司剛宏. 潜在性結核感染症治療による肝機能障害発現リスク因子の検討. 第 34 回日本医療薬学会年会, 千葉, 2024. 11. 4.
13. 林美野里, 小川千晶, 新保一, 武重彩子, 吉川至, 軍司剛宏. 薬剤の血管外漏出のリスク要因に関する実態調査. 第 19 回医療の質・安全学会学術集会, 横浜, 2024. 11. 29.
14. 稻葉悠, 小川千晶, 武内偲乃, 小田実季, 渡慶里佳, 氷渡かおり, 片山充哉, 鄭東孝, 軍司剛宏. 当院における COVID-19 に対する病院薬剤師の役割と今後の展望: 医療の質向上に向けた多職種連携と新興感染症対策. 第 22 回世田谷区医師会医学会, 東京, 2024. 12. 7.
15. 小田実季, 小川千晶, 大塚健太郎, 赤岩愛記, 大栗宝子, 長山佳之, 石嶋麗, 今村有那, 長尾嘉真, 籠尾壽哉, 清水隆之, 軍司剛宏. CCR4 陽性成人 T 細胞性白血病/リンパ腫

- 患者に対しモガムリズマブ投与により認知機能低下が疑われた 1 症例. 第 14 回日本臨床腫瘍学会学術大会 2025, 横浜, 2025. 3. 15.
16. 長山佳之, 小川千晶, 長尾嘉真, 赤岩愛記, 大塚健太郎, 大栗宝子, 今村有那, 石嶋麗, 軍司剛宏. 対面開催の薬薬連携連絡会「Polaris」における治療情報提供書の改訂に向けた取り組み. 第 14 回日本臨床腫瘍学会学術大会 2025, 横浜, 2025. 3. 16.
  17. 今村有那, 長尾嘉真, 石嶋麗, 赤岩愛記, 大栗宝子, 大塚健太郎, 長山佳之, 小川千晶, 軍司剛宏. エンホルツマブ ベドチンの皮膚障害に対するデキサメタゾン予防投与の有用性の検討. 第 14 回日本臨床腫瘍学会学術大会 2025, 横浜, 2025. 3. 16.
  18. 長尾嘉真, 小川千晶, 石嶋麗, 赤岩愛記, 大栗宝子, 大塚健太郎, 長山佳之, 今村有那, 須川恭敬, 軍司剛宏. 抗がん薬における医療資源有効活用の考察. 第 14 回日本臨床腫瘍学会学術大会 2025, 横浜, 2025. 3. 16.
  19. 石嶋麗, 小川千晶, 赤岩愛記, 大栗宝子, 大塚健太郎, 長山佳之, 今村有那, 長尾嘉真, 軍司剛宏. 「がん薬物療法体制充実加算」新設に伴う薬剤師診察前面談の体制整備とその成果. 第 14 回日本臨床腫瘍学会学術大会 2025, 横浜, 2025. 3. 16.
  20. 林田悠佳, 小川千晶, 長尾嘉真, 赤岩愛記, 大栗宝子, 大塚健太郎, 長山佳之, 石嶋麗, 今村有那, 松井哲, 軍司剛宏. HER2 陽性乳癌患者に対する T-DXd 投与における悪心・嘔吐発現状況の実態調査. 第 14 回日本臨床腫瘍学会学術大会 2025, 横浜, 2025. 3. 16.

## 【講 演】

1. 小川千晶. がん領域に携わる日々～地域連携に関する興味深い話題も交えて. Pharmacist Web Seminar-薬剤師外来, 第 1 回目黒地区研修会, 目黒区薬剤師会, 2024. 9. 7.
2. 小川千晶. サステナブルな「薬剤師外来」の体制構築を目指して. Pharmacist Web Seminar-薬剤師外来, 東京, 2024. 6. 4.
3. 小川千晶. 大腸がん薬物療法における課題症例について. がん薬物療法専門薬剤師養成研究会, 東京都病院薬剤師会, 2024. 7. 6.
4. 小川千晶. 乳がん薬物療法における課題症例について. がん薬物療法専門薬剤師養成研究会, 東京都病院薬剤師会, 2024. 9. 14.
5. 稻葉悠. 病院薬剤師による COVID-19 に対する取り組み. 第 11 回東京(関東)医薬品安全性研究会 (Web) 2024. 10. 27.
6. 新保一. 睡眠薬の適正使用に関する薬剤師の関わり～睡眠衛生指導と服薬指導について考える. 目黒区薬剤師会研修会 (Web) 2024. 10. 30.
7. 小川千晶. 抗がん薬治療用トレーシングレポート Excel 版の送信元カテゴリの運用ブッシュアップについて. 令和 6 年度第 2 回東京都がん薬物療法協議会: 三団体合同薬連携研修会, 2024. 11. 9.
8. 長山佳之. がん患者に対する薬剤部の取り組み. 第 19 回病診薬連携緩和ケア研究会, (Web) 2024. 11. 22.

9. 小川千晶. 薬剤師視点で考える効果的で安全ながん薬物治療マネジメント～良質な薬物療法の実践を目指して. Supportive Care Web Seminar 癌薬物療法の AE マネジメントを考える, 東京, 2024.11.27.
10. 石嶋麗. 病院薬剤師の診察前面談が果たす役割と支持療法改善の成果. 令和 6 年度城南エリア病院薬剤師をつなぐ会 (Web) 2024.11.27.
11. 小川千晶. 抗がん薬治療用トレーシングレポート Excel 版の送信元カテゴリの運用プラッシュアップについて. 令和 6 年度第 2 回東京都がん薬物療法協議会, 三団体合同薬薬連携研修会, 東京, 2024.11.9.
12. 小川千晶. 血液がん薬物療法における課題症例について. がん薬物療法専門薬剤師養成研究会, 東京都病院薬剤師会, 2024.12.7.
13. 小川千晶. 広域連携が未来を開く。東京都がん薬物療法協議会が実践する‘東京モデル’とは. CO-Pharmacis 薬剤師の医療連携, 薬剤部経営改善検討塾, 東京, 2025.1.21.
14. 小川千晶. 良質でサステナブルな”薬薬連携”の体制構築を目指して！ 2024 年度 NHO 埼玉病院薬薬連携研修会, 埼玉, 2025.1.30.
15. 小川千晶. 肺がん薬物療法における課題症例について. がん薬物療法専門薬剤師養成研究会, 東京, 2025.2.8.
16. 茂野絢子. 病院薬剤師における腎機能低下症例への取り組みと症例報告. 第 12 回東京(関東)医薬品安全性研究会 (Web) 2025.2.23
17. 林美野里. DENEN プロジェクトの As Is / To Be. DENEN Project Seminar-地域で考える周術期医療の会-, 東京, 2025.3.4.
18. 新海朱里. サステナブルな節約を目指して～Road to 2,000 万円. 薬剤部経営改善検討塾, 東京, 2025.3.5.
19. 小川千晶. サステナブルな…病院経営に貢献出来るような「薬剤師業務」の体制構築を目指して. 薬剤部経営改善検討塾, 東京, 2025.3.5.

## 看護部

---

### 【著 書】

1. 岩崎多津代, 吉田こずえ. リレーエッセイがん看護 CNS 奮闘中: がんとともに社会で生きる患者を支えるための調整. がん看護 2024;29:198-99, 314-5, 428-9, 538-9, 658-9.
2. 飯野裕佳子. 血液内科病棟看護師の血液がん患者に対する緩和ケアの体験. 日本がん看護雑誌 2024; 38: 67-71.
3. 飯野裕佳子. 看護師の生涯教育について. ほすびたるらいぶりあん 2024:8-12.
4. 岡崎敦子. 災害看護の現状と課題: 第1回日常の看護ケアが災害看護につながる. ナースマガジン 48号監修, メディバンクス, 2024:22-3.
5. 岡崎敦子. 災害看護の現状と課題: 第2回平時からの取り組み その心構え. ナースマガジン 49号監修, メディバンクス, 2024:18-19.
6. 菊野直子. がん放射線療法看護認定看護師(CN)の活動実態と課題, 看護展望. メジカルフレンド, 2024:53-9.
7. 浅子久美子. 多職種で取り組む誤嚥・窒息予防. 医療 2025;79:20-5.

### 【学会・研究会発表】

1. 岩崎多津代. 急性期総合病院におけるがん看護外来の現状と課題. 第39回日本がん看護学会学術集会, 札幌, 2025.2.23
2. 笹岡綾子, 岩崎多津代, 島田美季. A病院での頭皮冷却療法の導入と継続への取り組み. 第39回日本がん看護学会学術集会, 札幌, 2025.2.22.
3. 笹岡綾子. 乳癌初期治療の開始に際して障害となっていた患者背景の検討: 看護面談に基づく分析から. 第32回日本乳癌学会学術総会, 仙台, 2024.7.11.
4. 近江麻理, 玉木亜矢子. 排尿障害のある患者に対する排尿自立支援による排尿自立と下部尿路機能の実態. 第31回日本排尿機能学会, 福島, 2024.9.6.
5. 菊野直子. 放射線治療における「がん放射線療法看護認定看護師」の効果的な活用を目指して: 放射線治療提供体制における「看護モデル」の構築に向けて. 日本放射線看護学会第37回学術大会, 鹿児島, 2024.9.14.
6. 岡崎敦子. 感染症流行下の医療機関における多数傷病者受入訓練のあり方について, 日本災害看護学会第26回年次大会 (Web) 2024.9.24~10.24.
7. 金井恵美. 一般病棟に勤務する看護師が ICLS プロバイダーを取得する意義. 第78回国立病院総合医学学会, 大阪, 2024.10.18.
8. 仁平知保, 山田奈央, 浅子久美子. 専門・認定看護師連絡会議の取り組みに関する報告. 第78回国立病院総合医学学会, 大阪, 2024.10.18.
9. 浅子久美子. 患者のニーズに合わせた ICT と入退院指炎センター業務の効率化～スマートフォンの LINE 機能を活用した情報提供. 第78回国立病院総合医学学会, 大阪, 2024.10.18.
10. 清水敦子. 整形外科病棟における SSI 低減への取り組み: 看護師による日々の口腔ケアの実施. 第78回国立病院総合医学学会, 大阪, 2024.10.18.

11. 岡崎敦子. 医療施設における看護師及び看護補助者に対する災害看護教育に関する実態調査. 第 78 回国立病院総合医学学会, 大阪, 2024. 10. 18.
12. 宮腰龍弥. 当院における院内迅速対応チーム(RRT)活動についての報告. 第 78 回国立病院総合医学学会, 大阪, 2024. 10. 18.
13. 玉木亜矢子. 自施設で取り組む排尿ケアチームの排尿自立指導加算について. 第 78 回国立病院総合医学学会, 大阪, 2024. 10. 18.
14. 長谷川真未. 医療安全担当副看護師長として多職種を対象とした医療安全行動遵守の実践報告. 第 78 回国立病院総合医学学会, 大阪, 2024. 10. 18.
15. 古館加奈子. 手指衛生実施率向上のための取り組み. 第 78 回国立病院総合医学学会, 大阪, 2024. 10. 19.
16. 菊野直子. チームで取り組み放射線治療における認定看護師(CN)の役割に関する実態調査. 日本放射線腫瘍学会 第 37 回学術大会, 神奈川, 2024. 11. 21.
17. 菊野直子. 「放射線手帳」を活用した患者医療従事者及び医療従事者間の情報共有. 日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会, 神奈川, 2024. 11. 21.
18. 齋藤望. 急性期総合病院におけるせん妄対策チームの活動と今後の課題. 総合病院精神医学会, 熊本, 2024. 11. 30.
19. 齋藤望. 急性期総合病院におけるせん妄対策チームの活動と今後の課題. 世田谷医師会学会, 東京, 2024. 12. 7.
20. 玉木亜矢子. 排尿ケアチームが介入したことにより、墜落外傷に伴う排尿障害に対して自排尿を確立できた一例. 世田谷医師会学会, 東京, 2024. 12. 7.
21. 清水裕子. 急性期病院における経営を意識した病床管理～看護師長会の取り組み成果報告. 第 25 回日本マネジメント学会東京支部学術集会, 東京, 2025. 2. 26.

### 【講 演】

1. 蓑輪ハンナ. 大阪第 1 回日本 DMAT 隊員養成研修. 国立病院機構 DMAT 事務局, 2024. 5. 22-24.
2. 飯野裕佳子. 看護師の生涯学習. 日本ライブラリー協会, 2024. 5. 31.
3. 滝澤丹. 令和 6 年度東京 DMAT 隊員養成研修. 東京保健局, 2024. 7. 24, 10. 2.
4. 笹岡綾子. 多職種で取り組む免疫療法セミナー. 東京, 2024. 5. 29.
5. 菅野美幸. いざという時に備える～地域で学びあう災害時に命を守るために. 東京都目黒区西部包括支援センター, 2024. 5. 31.
6. 玉木亜矢子. ストーマ装具の適切な使用に関するセミナー, 東京, 2024. 6. 15.
7. 島田美季. 看護師目線で考える制吐療法. 東京, 2024. 6. 26.
8. 岩崎多津代. 日本緩和医療学会主催第 30 回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成研修会. 2024. 9. 21.
9. 深井孝将. 小児救急電話相談スキルアップ研修. 日本小児保健協会, 2024. 10. 13.
10. 岡崎敦子. 内閣官房災害時における船舶を活用した医療体制の強化に係る調査検討業務. 内閣官房船舶活用医療推進室, 2024. 10. 13, 14
11. 岡崎敦子. 災害支援ナース養成研修 企画・指導者研修: 演習災害編. 日本看護協会, 2024. 10. 29.

12. 布施谷由香里. 糖尿病のある人のセルフケア支援. おうちのドクター, 2024. 10. 29.
13. 岡崎敦子. 認定看護管理者研修セカンドレベル質管理Ⅱ. 福島県看護協会, 2024. 10. 30.
14. 宮腰龍弥. 高度急性期病院での医療・看護. ホームアレー, 2024. 11. 15.
15. 下島加奈子, 佐藤英則. 心不全のある高齢者のケア. 芦花ホーム, 2024. 11. 18.
16. 岡崎敦子. 看護管理者に必要な災害時におけるマネジメント. 日本看護協会, 2024. 11. 29.
17. 深井孝将. 全国子育てタクシー協会養成講座. 全国子育てタクシー協会, 2024. 11. 30.
18. 浅子久美子. 看護記録・文書作成を入退院支援センターでサポートするために業務でポケさぼにタスクシフト. OPERe, 2024. 12. 6.
19. 笹岡綾子. がんサポートイブケア WEB セミナー: ジーラスタボディポッドの特性を理解頂くための工夫. 東京, 2024. 12. 9.
20. 浅子久美子. 令和 6 年度医療安全研修: 高齢者の食事介助の基本～安全に美味しく楽しく. 国立病院機構本部, 2025. 1. 21-3. 31.
21. 中島千里. 認知症の訪問看護で必要な基礎知識. せたがや訪問看護ステーション, 2025. 1. 29.
22. 笹岡綾子. 外来化学療法セミナー. 東京, 2025. 1. 29.
23. 滝澤丹. 令和 6 年度東京 DMAT 隊員更新研修. 東京都保健局, 2025. 2. 18.
24. 菊野直子. ヨウ素 125 シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源治療講習会: 前立腺がんの看護. 日本アイソトープ協会, 2024. 2. 19～3. 10.
25. 岡崎敦子. 災害・感染症医療業務従事者登録のための研修プログラム災害支援ナース養成: 災害時の看護職の活動事例 (Web) 日本看護協会, 2024.

# 放射線科（診療放射線技師）

---

## 【学会・研究会発表】

1. 横山奈々, 山崎大輔, 秋葉裕子, 川崎博司, 福原かおる, 深水良哉. 造影剤減量のための深層学習再構成と低管電圧撮影の併用の有用性. 国立病院関東甲信越診療放射線技師第 62 回学術研究会, 東京, 2024. 5. 25.
2. 服部亮, 加藤芳人, 川崎博司, 福原かおる, 秋葉裕子, 澤田充広, 千野健太郎. 循環器血管撮影装置更新に伴う患者被ばく線量低減のための考察. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 18.
3. 横山奈々, 山崎大輔, 安藤正樹, 川崎博司, 福原かおる, 加藤芳人. 造影剤減量のための深層学習再構成と低管電圧撮影の併用の有用性. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 19.

## 【講 演】

1. 山崎大輔. 救急撮影法～killer disease を見逃すな. 東京都放射線技師会第 51 回 CT 班合同勉強会 (Web) 2024. 7. 20-8. 3.
2. 菊池啓人. 第 7 回チーム医療推進のための診療支援研修. 関東甲信越グループ (Web) 2024. 9. 7.
3. 加藤芳人. パネルディスカッション 診療放射線技師の災害支援の在り方：被災地で働く仲間のために出来ること. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 18.
4. 堀田真慧. 国際交流 Web カンファレンス. 日本放射線技術学会東京支部 (Web) 2024. 10. 31.
5. 原田潤. 令和 6 年度診療放射線技師育成研修：主任技師に必要なスキルについて人材育成について. 関東信越グループ, 東京, 2024. 11. 6.
6. 宮下慎也. 令和 6 年度 チーム医療推進のための研修：放射線治療について. 関東信越グループ, 東京, 2024. 11. 13.
7. 原田潤. 令和 6 年度診療放射線技師実習技能研修：MR における医療安全対策. 関東信越グループ, 東京, 2025. 2. 3.

## 臨床検査科(技師)

---

### 【著 書】

1. 益田泰蔵. 社会保障・福祉関連法規. 最新臨床検査学講座関係法規2024年版. 医歯薬出版, 2025, 117-28.

### 【学会・研究会発表】

1. 板野瑞希, 他. 当院の子宮内膜細胞診偽陽性症例の検討. 第65回日本臨床細胞学会総会, 大阪, 2024. 6. 8.
2. 沼田章宏, 他. 当院における血液培養ボトル採血量の調査報告. 第52回国臨協関信支部学会, 東京, 2024. 9. 7.
3. 植松さくら, 他. 急性虫垂炎を契機に診断された急性白血病の一例. 第52回国臨協関信支部学会, 東京, 2024. 9. 7.
4. 舟山響貴, 他. BCG膀胱注入療法後に発生した結核性精巣・精巣上体炎の1例. 第52回国臨協関信支部学会, 東京, 2024. 9. 7.
5. 北村里子, 他. 脾神経内分泌腫瘍との鑑別が困難であった脾漿液性嚢胞腺腫solid typeの1例. 日本超音波医学会第36回関東甲信越地方会学術集会, 東京, 2024. 10. 5.
6. 舟山響貴, 他. BCG膀胱注入療法後に発生した結核性精巣・精巣上体炎の1例. 日本超音波医学会第36回関東甲信越地方会学術集会, 東京, 2024. 10. 5.
7. 小林昌弘, 他. COVID-19流行前後における抗酸菌検査依頼数と喀痰塗抹陽性肺結核の推移について. 第55回結核・非定型抗酸菌症治療研究会, 東京, 2024. 11. 30.
8. 遠藤光, 他. 末梢血中の好中球貪食像からカテーテル関連血流感染症を早期発見できた一例. 第19回東京都医学検査学会, 東京, 2024. 12. 8.
9. 須江悠人, 他. 菌液の塩分濃度調整が有用だったVibrio vulnificusによる壊死性筋膜炎の1症例. 第19回東京都医学検査学会, 東京, 2024. 12. 08.
10. 北村里子, 他. 脾神経内分泌腫瘍との鑑別が困難であった脾漿液性嚢胞腺腫solid typeの1例. 第19回東京都医学検査学会, 東京, 2024. 12. 8.
11. 竹村寛昭, 他. 直接比色による新生児ビリルビンスクリーニング測定の機器間差比較. 第19回東京都医学検査学会, 東京, 2024. 12. 8.
12. 須江悠人, 他. Streptococcus pneumoniaeと同定されたがAbiotrophia defectivaによる感染性心内膜炎であった1症例. 第36回日本臨床微生物学会, 東京, 2025. 1. 25.
13. 角田雅治, 他. FilmArray血液培養パネル2が迅速診断に寄与した侵襲性髄膜炎菌感染症の1例. 第36回日本臨床微生物学会, 東京, 2025. 1. 26.

### 【講 演】

1. 宮下雅子. 各施設の輸血検査室の取り組み～コンピュータクロスマッチの実際. 臨床検査技師実習技能研修3（輸血）, 東京, 2025. 1. 16.

【その他】 d

1. 益田泰蔵. 教育講演 診療報酬制度と臨床検査（座長） 第19回東京都医学検査学会, 東京, 2024. 12. 8.
2. 田中暁人. ランチョンセミナー ISO 15189の現在とICT（座長） 第19回東京都医学検査学会, 東京, 2024. 12. 8.

# 医療機器中央管理室

---

## 【学会・研究会発表】

1. 新藤充行, 持永悠, 岩永健作, 小林潤平, 心室頻拍の 2:1 センシングを起こした植込み型ループレコーダーの 1 例. 第 34 回日本臨床工学会, 福井, 2024. 5. 19.
2. 持永悠, 新藤充行, 岩永健作, 小林潤平. 心腔内除細動器による心室細動誘発の回避. 第 34 回日本臨床工学会, 福井, 2024. 5. 19.
3. 岩永健作, 持永悠, 小林潤平, 新藤充行. CARTO の波形認証機能を活用した複合横隔電位モニタリング方法の検討. 第 34 回日本臨床工学会, 福井, 2024. 5. 19.
4. 新藤充行, 持永悠, 岩永健作, 小林潤平, 心室頻拍の 2:1 センシングを起こした植込み型心臓モニターの 1 例. 全国国立病院機構臨床工学技士協議会学術集会, 北海道, 2024. 7. 13.
5. 岩永健作, 持永悠, 小林潤平, 新藤充行. CARTO の波形認証機能を活用した複合横隔電位モニタリング方法の検討. 全国国立病院機構臨床工学技士協議会学術集会, 北海道, 2024. 7. 13.
6. 持永悠, 新藤充行, 岩永健作, 小林潤平. 心腔内除細動器による心室細動誘発の回避の検討. 全国国立病院機構臨床工学技士協議会学術集会, 北海道, 2024. 7. 13.
7. 持永悠, 新藤充行, 岩永健作, 小林潤平. 心腔内超音波カテーテルに対する補助循環用ポンプカテーテルの磁場干渉について. 第 70 回日本不整脈心電学会. 金沢, 2024. 7. 19.
8. 持永悠. 施設の業務紹介. 全国国立病院機構臨床工学技士協議会関東信越支部 WEB 勉強会, 2024. 10. 3.
9. 小林尚幸. 急性エテンザミド(サリチル酸)中毒に対して持続的血液透析を施行した一例. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 19.
10. 持永悠, 新藤充行, 岩永健作, 小林潤平. CARTO の波形認証機能を活用した複合横隔電位モニタリング方法の検討. 不整脈道場, 東京, 2025. 1. 25.
11. 新藤充行, 井出有莉乃, 持永悠, 岩永健作, 小林潤平. P 波のオーバーセンスによる S-ICD の不適切作動を認めた若年肥大型心筋症. 第 17 回植込みデバイス関連冬季大会, 福岡, 2025. 2. 21.
12. 井出有莉乃, 新藤充行, 持永悠, 岩永健作, 小林潤平. 着用型自動除細動器において R 波の減高およびノイズ混入による不適切検出をきたした一例. 第 17 回植込みデバイス関連冬季大会, 福岡, 2025. 2. 21.
13. 小林尚幸. 急性エテンザミド中毒に対して高流量持続的血液透析を施行した一例. 第 3 回全国国立病院機構臨床工学技士協議会関東信越支部学術大会, 長野, 2025. 3. 15.

## 【その他】

1. 持永悠. ペースメーカ業務を考える(座長) 臨床工学技士実習技能研修, 東京, 2024. 6. 6.
2. 持永悠. ペースメーカフォローアップ研究会(座長) 東京, 2024. 6. 29.
3. 眞隆一. シンポジウム 国立病院機構における臨床工学部門の組織運営を考える(座長) 全国国立病院機構臨床工学技士協議会学術集会, 北海道, 2024. 7. 13.

4. 持永悠. 優秀演題 YBA (座長) 第 4 回関東甲信越臨床工学会, 東京, 2024. 9. 28.
5. 眞隆一. 各施設の業務紹介(座長) 全国国立病院機構臨床工学技士協議会関東信越支部 WEB 勉強会, 2024. 10. 3.
6. 眞隆一. 各施設における人工呼吸器の使用中ラウンドについて (座長) 全国国立病院機構臨床工学技士協議会関東信越支部 WEB 勉強会, 2024. 12. 7.
7. 持永悠. デバイス業務の立会いって当たり前!?立会い規制施行から 16 年～理想と現実 (座長) 第 17 回植込みデバイス関連冬季大会, 福岡, 2025. 2. 21.
8. 持永悠. 一問一答早押しクイズ大会 (座長) 第 17 回植込みデバイス関連冬季大会, 福岡, 2025. 2. 22.
9. 眞隆一. シンポジウム これからの臨床工学技士に求めるもの (それぞれの立場から思うこと) (座長) 第 3 回全国国立病院機構臨床工学技士協議会, 関東信越支部学術大会, 2025. 3. 15.

## 栄養管理室

---

### 【学会・研究会発表】

1. 伊東祥幸, 宮内真佑子, 田所真紀子. ICU 早期栄養介入管理加算における介入前後の比較と今後の課題. 第 40 回日本栄養治療学会学術集会, 神奈川, 2025. 2. 14.

### 【講 演】

1. 田所真紀子. 栄養管理室の組織力向上のために職場長が持つべき視点. 令和 6 年度医療職(二)等職場長管理研修(分科会), 国立病院機構九州グループ, 2024. 6. 3.
2. 田所真紀子. 主任栄養士に期待すること. 主任栄養士実習技能研修, 国立病院機構関東信越グループ, 2024. 12. 18.

# 院内感染対策室 (ICT/AST)

---

## 【論 文】

1. Higuchi T, Furuichi M, Maeda N, Tsugawa T, Ito K. Effects of probiotics in children with acute gastroenteritis: A systematic review and meta-analysis focusing on probiotics utilized in Japan. *J Infect Chemother.* 2024;30:337-42.
2. Shinjoh M, Yaginuma M, Yamaguchi Y, Tamura K, Furuichi M, Tsumura Y, Itaki R, Iqbal A, Maeda N, Narabayashi A, Kamei A, Shibata A, Yamada G, Nishida M, Tsunematsu K, Chiga M, Shimoyamada M, Yoshida M, Fukushima N, Nakata Y, Fukushima H, Kawakami C, Narumi S, Sugaya N. Keio Pediatric Influenza Research Group. Effectiveness of inactivated influenza vaccine in children during the 2023/24 season: The first season after relaxation of intensive COVID-19 measures. *Vaccine.* 2024;42:126241.

## 【著 書】

1. 前田直則. CQ1-3 小児の感染性胃腸炎に対して成長薬投与は推奨されるか? 日本小児感染症学会日本小児感染症・免疫アレルギー研究会. 小児消化管感染症診療ガイドライン 2024. 診断と治療社, 2024:10-4.

## 【学会・研究会発表】

1. 金輪守英, 前田直則, 薮内彩乃, 窪田義己, 土岐真智子, 鈴木絵理, 藤田尚代, 山澤一樹, 古市宗弘, 三春晶嗣, 新庄正宜. Aggregatibacter aphrophilusによる化膿性脊椎炎を発症した小児例. 第 56 回日本小児感染症学会総会・学術集会, 長崎, 2024. 11. 15-17.
2. 永井泰樹, 前田直則, 山本堯, 薮内彩乃, 窪田義己, 杉原諄哉, 手塚舞花, 鳥居健一, 土岐真智子, 鈴木絵理, 山澤一樹, 藤田尚代, 須江悠人, 三春晶嗣. 血液培養で Christensenella hongkongensis が検出された急性虫垂炎の小児例. 第 56 回日本小児感染症学会総会・学術集会, 長崎, 2024. 11. 15-17.
3. 薮内彩乃, 前田直則, 窪田義己, 土岐真智子, 鈴木絵理, 山澤一樹, 藤田尚代, 三春晶嗣, 生方公子, 岩田敏. 入院時の血液培養採取が侵襲性 GAS 感染症の早期診断につながった 1 例. 第 56 回日本小児感染症学会総会・学術集会, 長崎, 2024. 11. 15-17.
4. 赤岩愛記, 小川千晶, 茂野絢子, 上田真也, 新保一, 栗原智宏, 軍司剛宏. ICU・HCU 患者における TAZ/PIPC 投与に伴う低カリウム血症の実態調査. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 18-19.
5. 正木匠, 小川千晶, 小林昌弘, 前田直則, 吉田園望, 高垣花音, 茂野絢子, 上田真也, 新保一, 益田泰蔵, 軍司剛宏. 感染制御を目的とした薬剤部内の細菌学的環境調査. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 19.
6. 上田真也, 小川千晶, 成田和希, 植松若那, 奥隅拓朗, 薄雅人, 軍司剛宏. 潜在性結核感染症治療による肝機能障害発現リスク因子の検討. 第 34 回日本医療薬学会年会, 幕張, 2024. 11. 4.

7. 稻葉悠, 小川千晶, 武内偲乃, 小田実季, 渡慶里佳, 氷渡かおり, 片山充哉, 鄭東孝, 軍司剛宏. 当院における COVID-19 に対する病院薬剤師の役割と今後の展望－医療の質向上に向けた多職種連携と新興感染症対策. 第 22 回世田谷区医師会医学会, 東京, 2024. 12. 7.
8. 沼田章宏, 他. 当院における血液培養ボトル採血量の調査報告. 第 52 回国臨協関信支部学会, 東京, 2024. 9. 7.
9. 小林昌弘, 他. COVID-19 流行前後における抗酸菌検査依頼数と喀痰塗抹陽性肺結核の推移について. 第 55 回結核・非定型抗酸菌症治療研究会, 東京, 2024. 11. 30.
10. 遠藤光, 他. 末梢血中の好中球貪食像からカテーテル関連血流感染症を早期発見できた一例. 第 19 回東京都医学検査学会, 東京, 2024. 12. 8.
11. 須江悠人, 他. 菌液の塩分濃度調整が有用だった *Vibrio vulnificus* による壞死性筋膜炎の 1 症例. 第 19 回東京都医学検査学会, 東京, 2024. 12. 8.
12. 須江悠人, 他. *Streptococcus pneumoniae* と同定されたが *Abiotrophia defectiva* による感染性心内膜炎であった 1 症例. 第 36 回日本臨床微生物学会, 東京, 2025. 1. 25.

### 【講 演】

1. 稻葉悠. 病院薬剤師による COVID-19 に対する取り組み. 第 11 回東京(関東)医薬品安全性研究会 (Web) 2024. 10. 27.
2. 茂野 純子. 病院薬剤師における腎機能低下症例への取り組みと症例報告. 第 12 回東京(関東)医薬品安全性研究会 (Web) 2025. 2. 23.

# クリティカルケア支援室

---

## 【論 文】

1. 堀深雪, 安村里絵. 婦人科腹腔鏡手術を受けた患者の術後痛の程度・PONV 発生率と IV-PCA 使用有無との関連性について. 医療 2024;78:349-54.

## 【学会・研究会発表】

1. 利光恵利子. シンポジウム 当院における脳神経外科診療看護師(JNP)の働きについて. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 18.
2. 田村浩美. 入退院支援センターにおける診療看護師の活動報告. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 18.
3. 川村知也. 整形外科病棟管理における診療看護師(JNP)の活動～麻酔科での業務経験を生かして. 第 78 回国立病院総合医学会, 大阪, 2024. 10. 19.
4. 近藤薫, 松本和史. 訪問看護ステーションおよび介護福祉施設における特定行為修了者の継続教育の現状課題. 日本在宅看護学会第 14 回学術集会, 船橋, 2024. 11. 16.
5. 森泉元, 利光恵利子. ハンズオンセミナーインストラクター: PICC Hans on セミナー. 4000 例以上の症例を経験した NP の視点から伝える実践的な PICC 留置テクニック. 第 10 回 NP 学会学術集会, 東京, 2024. 11. 22.
6. 堀内亮佑, 朝澤恭子, 内山孝子. 中堅男性看護師におけるキャリア・プラトーの要因および改善の展望. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本, 2024. 12. 8.

## 【講 演】

1. 堀深雪. 令和 6 年度東京都看護職員定着促進事業: 血液ガスの値の読み方. 東京都看護協会 (Web) 2024. 9. 30.

## 【その他】

1. 川村知也. 循環器ケア (座長) 第 10 回日本 NP 学会学術集会, 東京, 2024. 11. 23.
2. 田村浩美. 役割開発 (座長) 第 10 回日本 NP 学会学術集会, 東京, 2024. 11. 23.

【論 文】

1. Biswas P, Woodard DR, Hollingsworth TJ, Khan NW, Lazaro DR, Berry AM, Dagar M, Pan Y, Garland D, Shaw PX, Oka C, Iwata T, Jablonski MM, Ayyagari R. Ablation of Htral1 leads to sub-RPE deposits and photoreceptor abnormalities. *JCI Insight*. 2025;10:e178827.
2. Quinodoz M, Rodenburg K, Cvackova Z, Kaminska K, de Bruijn SE, Iglesias-Romero AB, Boonen EGM, Ullah M, Zomer N, Folcher M, Bijon J, Holtes LK, Tsang SH, Corradi Z, Freund KB, Shliaga S, Panneman DM, Hitti-Malin RJ, Ali M, AlTalbishi A, Andréasson S, Ansari G, Arno G, Astuti GDN, Ayuso C, Ayyagari R, Banfi S, Banin E, Barboni MTS, Bauwens M, Ben-Yosef T, Birch DG, Biswas P, Blanco-Kelly F, Bocquet B, Boon CJF, Branham K, Britten-Jones AC, Bujakowska KM, Cadena EL, Calzetti G, Cancellieri F, Cattaneo L, Issa PC, Chadderton N, Coutinho-Santos L, Daiger SP, De Baere E, de la Cerda B, De Roach JN, De Zaeytijd J, Derkx R, Dhaenens CM, Dudakova L, Duncan JL, Farrar GJ, Feltgen N, Fernández-Caballero L, Sallum JMF, Gana S, Garanto A, Gardner JC, Gilissen C, Goto K, González-Duarte R, Griffiths-Jones S, Haack TB, Haer-Wigman L, Hardcastle AJ, Hayashi T, Héon E, Hoischen A, Holtan JP, Hoyng CB, Ibanez MBB 4th, Inglehearn CF, Iwata T, Jones K, Kalatzis V, Kamakari S, Karali M, Kellner U, Knézy K, Klaver CCW, Koenekoop RK, Kohl S, Kominami T, Kühlewein L, Lamey TM, Leroy BP, Martín-Gutiérrez MP, Martins N, Mauring L, Leibu R, Lin S, Liskova P, Lopez I, López-Rodríguez VRJ, Mahroo OA, Pan Y, Suga A, et al. De novo and inherited dominant variants in U4 and U6 snRNAs cause retinitis pigmentosa. *medRxiv* [Preprint]. 2025 Jan 6.
3. Pan Y, Iwata T. Role of ARMS2/HTRA1 risk alleles in the pathogenesis of neovascular age-related macular degeneration. *Taiwan J Ophthalmol*. 2024;14: 531-9.
4. Suga A, Mizobuchi K, Inooka T, Yoshitake K, Minematsu N, Tsunoda K, Kuniyoshi K, Kawai Y, Omae Y, Tokunaga K; NCBN Controls WGS Consortium; Hayashi T, Ueno S, Iwata T. A homozygous structural variant of *RPGRIP1* is frequently associated with achromatopsia in Japanese patients with IRD. *Genet Med Open* 2024; 2: 101843
5. Pan Y, Iwata T. Levels of the Htral1 protein in serum and vitreous humor are independent of genetic risk for age-related macular degeneration at the 10q26 Locus. *Invest Ophthalmol Vis Sci*. 2024;65:27.
6. Azuma K, Suzuki T, Kobayashi K, Nagahara M, Imai H, Suga A, Iwata T, Shiraya T, Aihara M, Ueta T. Retinal pigment epithelium-specific ablation of GPx4 in adult mice recapitulates key features of geographic atrophy in age-related macular degeneration. *Cell Death Dis*. 2024;15:763.

7. Inooka T, Hayashi T, Tsunoda K, Kuniyoshi K, Kondo H, Mizobuchi K, Suga A, Iwata T, Yoshitake K, Kondo M, Goto K, Ota J, Kominami T, Nishiguchi KM, Ueno S. Genetic etiology and clinical features of achromatopsia in Japan. *Retina*. 2024; 44:1836-44.
8. Suga A, Minegishi Y, Yamamoto M, Ueda K, Iwata T. Compound heterozygous mutations in a mouse model of Leber congenital amaurosis reveal the role of CCT2 in photoreceptor maintenance. *Commun Biol*. 2024;7:676.
9. Pan Y, Iwata T. Exploring the Genetic Landscape of Childhood Glaucoma. *Children*. 2024;11:454.
10. Pan Y, Iwata T. Molecular genetics of inherited normal tension glaucoma. *Indian J Ophthalmol*. 2024;72:S335-44.

### 【著 書】

1. 岩田岳. 緑内障の precision medicine を目指したゲノム情報、ビッグデータ、AI の利活用, *Frontier in Glaucoma*. メディカルビュー 2024;61:31.
2. Iwata T, Gyan Prakash. *Advances in Vision Research Volume IV*, Springer Nature, 2024.

### 【学会・研究会発表】

1. Iwata T, Global collaborative research for rare genetic eye diseases, International Society for Eye Research, Buenos Aires, Argentina, 2024. 10. 20.
2. Iwata T, Introduction of GEGC: Systematic approach to tackle genetic eye diseases from diagnostic to therapeutics. African Council of Ophthalmology, Kagili, Rwanda, 2024. 7. 28.
3. Iwata T, The GEGC: Update on Global collaborations. Global Eye Genetics Consortium (GEGC), ARVO, Seattle, USA, 2024. 5. 7.
4. Iwata T, Success local and global research structure to collaboratively study ocular genetic disorders. Conference for Rare and Unknown Eye Disorders (CONCURUED), New Delhi, India, 2024. 4. 7.
5. 須賀晶子, 岩田岳, 全ゲノム解析による遺伝性網膜ジストロフィーの原因変異探索. 第 71 回日本臨床視覚電気生理学会, 東京, 2024. 10. 13.
6. 須賀晶子, 峯岸ゆり子, 植田幸嗣, 岩田岳. *Cct2* 複合ヘテロマウスの作製とレーベル黒内障の病態解析. Retina Research Meeting (RRM), 東京, 2024. 11. 2.
7. 須賀晶子, 岩田岳. 全ゲノム解析による IRD 原因遺伝子変異探索. 眼科分子生物学会, 2024. 3. 1.

### 【講 演】

1. 岩田岳. 特別講演 眼疾患に対する遺伝学的研究の変遷、現状と展望. 第 71 回日本臨床視覚電気生理学会, 東京, 2024. 10. 12.

## 【その他】

1. 岩田岳. 国立病院機構東京医療センター臨床研究(感覚器)センター設立 20 周年記念式典, 企画, 分子細胞生物学研究部成果報告, 討論会, 2024. 9. 14.
2. 岩田岳. 緑内障の precision medicine を目指したゲノム情報, ビッグデータ, AI の利活用 (座長) 日本緑内障学会. 2024. 9. 20.
3. 岩田岳. 近視基礎研究のカッティングエッジ (座長) 日本近視学会, 2024. 5. 18.